The Incredulity of Saint Thomas (Caravaggio, 1601-2)

ば、存疑するものの栄光は立ちあがりますぞ。
(コリント第二 5:11)

生まれて、求められて。
メシア

Rolf Ward Green

第1章：天文年代測定と真の地球
第2章：昨日のことを振り返る
第3章：ティベリウス、ヘロデ、天文学、証言
第4章：数値的に内部の矛盾点として発見されたダニエル
第5章：公明正大なラムジーが勇気づけられる話をしてくれた
第6章：ローマ人正期的な登録、アウグストゥス、ルカ
第7章：確実な証としてローマを創ろ＆クリスチャンたち
第8章：神はアブラハムの新生児を永遠の日に救い出される
第9章：異邦人の観察された年代測定のまとめ
第10章：予告されていた普遍的な異へのの違反
第11章：改革的総年限における歴史
第12章：エッセネ派を考える

Chapter 1: Astronomical Dating And True Earth
Chapter 2: Back-dating Yesterdays
Chapter 3: Tiberius, Herod, Astronomy, Testimony
Chapter 4: Daniel As Numerically Internal Endpoints Learned
Chapter 5: Principled Ramsay Offers Very Encouraging Story
Chapter 6: Roman Enrollment, Augustus, Luke
Chapter 7: Christians Handle Rome In Secure Testimony
Chapter 8: God Reprieves Abraham's Newborn To Everlasting Days
Chapter 9: Gentile Observed Dating Summarized
Chapter 10: Foretold A Violation Of Universal Righteousness
Chapter 11: The History In Reformative Total Years
Chapter 12: Considering Essenes

第1章： 天文年代測定と真の地球

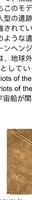
Right: Adoration of the Magi, Museo del Prado, Madrid (c. 1618) painting by Hieronymus Bosch, c. 1510 (or earlier), 138 x 172 cm)

The heavens are declaring the glory of God; And of the work of his hands the expanse is telling.
(Psalms 19:1, New World Translation (1984))

天は神の栄光を知さ。 大空は神の傑業を伝えている。
(詩編 19:1, 新世界訳聖書（スタディー版）2019、2020)

[1] 天文学を用いた年代測定は、天体の動きを利用して歴史上の出来事を年代測定するものです。天文学表または天文年代測定ということです[1]。天体の軌道は現在まで一定であることを大前提としています（例外として、地球-月系の潮汐加速度を考慮しています。この加速度も時間的に一定であると仮定しています）。天体年代測定は、理論的には他の方法に比べて非常に高い精度が期待でき、相対的な年代測定ではなく絶対的な年代測定が可能です。これらの不変性の仮定が有効であるかどうかは絶対的にはわかりません。天体年代測定は、二次的な確認のためには有効です。あまり深刻に考えすぎないようにしなければなりません。その限界を認識した上で使用しなければなりません。年表を確認するときには、その信頼が最も高くなりますが、不変性の仮定には限界があり、年表を確実に排除することはできません。天文学的な年代測定法によって、すべての年代が確認されている年表は（おそらく私たちの年表を指す）ありませんが。

[1] 参照記 1:14,15)



Above: NASA, Earth and Moon, Oct 17 2000, Terra satellite, MODIS sensor
(WG File 24 2001 modified dimensions and JPG quality to reduce file size)

---

[2] 地球の歴史を語る理論の中には、ある時期に彗星などの天体との衝突によって地球の軌道や自転軸が乱れたとするものがいくつかある。しかし、これは一般的に、乱れた後の数年間の調査には関係ない。地球の自転軸に対する以前の提起の有効性も疑問視されるかもしれません。なぜなら、宇宙空間における地球の位置は、ハイズビードで以ない「precessing」または「nutating」しないからです。地軸が揺れる18.6年の周期でおずかな揺れが生じます（「ジャイロスコープのように」）ことでわずかな狂いが生じ、地球の軸が360度の空間で直線運動をすることで、星の位置が26,000年サイクル。さらに、そのような偏差が起こる前に、地球がどのように向きを変え、回転していたのかについての知識も不足しています。なぜ私たの理論を考える必要があるのというと、時間の研究の非常に魅力的な側面の一つに、古代文明が現代人以上の知恵を持っていたと考えられるからです。ピラミッドもまは以ゆかる高度な建造物は古代世界中に散ります。巨石建造物は、後世の文化がその上に安っち建造物を建設したため、大災害を経験したようです。また、海の底に沈んだ高度な文化でありるアトランティスの話もあります。

---

[3] 絶滅の証拠に基づいて、提起に関する理論の理由を知ることができるかもしれません。恐竜の絶滅ものこのモデルに当ではまるかもしれない。進化論の観点からは問題の一つに、古代文明が現代人以上の知恵を持っていたと考えられるからです。ピラミッドもまは以ゆかる高度な建造物は古代世界中に散ります。巨石建造物は、後世の文化がその上に安っち建造物を建設したため、大災害を経験したようです。また、海の底に沈んだ高度な文化でありるアトランティスの話もあります。

---

[4] このような物語は 私たちの新発見の欲求や娯楽の欲求を満たすだけでなく、過去の真実を求める精神的な要求の材料となるものです。 ほるかに深いものです。これらのことは、相互に接続されたテクノロジーに縛られた高度な文化によって感情のプライバシーが危険にさらされている現代のパラダイムという新形の文脈の中で重く受け止められている。エドワード・スノーデンがこう言えるのも、この文脈の中でのことだ：

隠すことがないからプライバシーの権利を気にしないと主張するのは、言うことがないから言論の自由を気にしないと言うのと変わらない。
［エドワード・スノーデン］

スノーデンの発言は、プライバシーやその権利と真実との関係、そして密接に結合ゆっくりとさを強調しています。

---

[5] 私がこれまでに共著で発表した17本の記事では、私自身の家族の歴史や人間の家族の歴史に関連して、歴史における家族の役割とその真の年代を考察してきました[1]。その過程で、多少の単純化が生じています。同様に、古代に地球を浸水させた地球規模の大洪水の概念は、高度な文化に何が起こったかの詳細を単純化する可能性がある。 複雑な文化が崩壊したからといって同じ運命をたどることは、我々は年表を重ねると文支、その年表によって古代世界も浄化されたのである。私たちの運命がわからないのと同じ理由で、今回の記事のタイトルはまだ決まっていないかもしれませんし、しかし、 現代が自由を制限することは基本的なことであり、 ナニー・ロウが言ったように、「真実はあなたを自由にするでしょう」[2]。この告白で、親愛なる読者は、私が負担している困難を理解するよう求められるかもしれません。 もし私が、私が書いているこの言葉の結果や完全な意味を、その最終的な結論を視野に入れて、今知ることができたら、私のメッセージの平易さは戦略にもっとまっすぐなっていたでしょう。 もしも私が自分の書いたものを前もって知っていたとしたら、共有したいという私自身の気持ちと、全体としての世界の好奇心が、当然のことながら、私たち全員のプライバシーを守ってくれたかどうか、 重大な結果を抱えることになるでしょう。

[1] 参照 C "My Story" を参照 (1)&(2)参照
[2] ルカ 8:32)

Above: Joseph Interprets Pharaoh's Dream, Jewish Museum, New York c. 1896-c. 1902
painting by James Jacques Joseph Tissot; gouache on board, 15.1 x 22.6 cm)

---

[6] プライバシーの問題については、この技術的な時代において、私が使用しているシステムとLinuxについて少し触れておく必要があると思います。リーナス・トーバルズが1991年にUnixをベースにしたOSのプリーカーネルを開発し、彼の名前をとって「Linux」と名付けて以来、Unix OSはコンピュータソフトウェアの分野では非常に長い歴史を持っています。AT&Tベル研究所のケン・トンプソンとデニス・リッチが書いたOSを、カリフォルニア大学バークレー校が1977年にBerkeley Software Distribution（BSD）に改編したものです。このシステムがベースとなって「Mac OS X」（2001年）が誕生した。LinuxもMac OS X も、BSDも、少なくとも部分的にはUnixを「ベース」にしており、この意味で、Unixをベースにしていない Microsoftの（Windows）OSとは区別されています。プライバシーについては、プログライエリタ コードには秘密の「バックドア」（セキュリティホール）が存在するのに対し、パブリックなコードは誰もが不具合を確認・修正することが可能であり、最も本質的な秘密性の欠如により安全性が保たれているということです。

---

[7] Windowsは、Mac OS X（「Ten」）と同様に、その実装にプロプライエタリなコードを使用しているが、Unixはほとんどがフリーである：

PDP-7を使って、Thompsonと Ritchieが率いるベル研究所の研究者チームは、Rudd Canadayを含めて、開発的なファイルシステム、コンピュータプロセスとデバイスアクセスの概念、コマンドラインインタプリタ、プロセス間通信（後で登場にするパイプ、そしてUNIXの小さなユーティリティプログラムを開発した。
(Wikipedia, "Ken Thompson" (le about Unix))

"Free"とは、ソースコードが公開されていることを意味しており、1983年にUnixが全っかけとして、後にLinuxやその多くのディストリビューションを含む、フリーソフトウェアの運動に発展した。1994年にカリフォルニア大学を相手取った訴訟の結果、BSD Unixはどこでも無料で配布できるようになり、Linuxは1991年から始まっていた。1981年以降のUnixは、AT&Tが無償でライセンスしていた。1984年にAT&TはBell Labsを分離し、Unixに関する独占禁止法上のライセンス義務から解放されたが、その後Bell Labsはプロプライエタリなunixの販売を開始した。

---

[8] このような近代的なコンピュータ、オペレーティング・システムの使用は、イリターネットという現象を可能にした。 その結果、前にも書いたように、歴史的、科学的な自然の中のリソースにアクセスすることができるようになりました。しかゲ人ても彼らの視点から見た聖書の作者の特徴のつは、外国の王の年号をかなり簡特な方法で記していることです。っまり、王の国の公式な聞に基づいて1年目を設定するのではなく（当時は前期的にも、また現代の通信手段がなかったために困難であったに違いありますが）、部位の年中共同統治による違いはあっても、外国の王の王権を想定した最も古い報告が1年目となっているのです。もちろん、これは全く論理的であり、 ある ごくきこと ではない。例えば、ネブカドネザル王の「18年目」として「19年目」とされていることなどが挙げられます[1-3]。 素人目には違和感があり、可能性のある年代を疑うようこさ見えるが、 まがまず、熱狂した観察者には何の問題もありません。 ごくこと 聖書の観点のは、

[1] 参照記第二 25 参

---

[9] 聖書の観点からは、ユダヤ人の王の年号は、ユダヤ人の王の年号は、ユダヤ人の王の年号は

[2] *ゼレミヤ* 52:12)
[3] *ゼレミヤ* 52:29)
[4] *ドモテ黙二* 3:16)

Above: Satan Watching the Caresses of Adam and Eve, Museum of Fine Arts, Boston *(1808 painting by William Blake, Pen and watercolor on paper, 505 x 380 mm)*

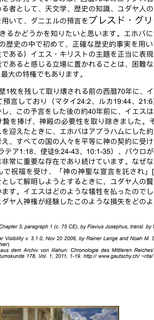
[5] 聖書の無謬性については、多くの情報源から引用されています。聖書に含まれている特定の予言に関する正確さの度合いは、世界的に精査されており、主観的な見点に左右されることが多いのです。したがって、ユダヤ人の長老たちは、神の公正の原則を用いて、ユダヤ人の歴史を調べました。イスラエルの聖書学者たちは、顕著な証拠を提示した。彼らの主張は、エホバ自身の予言と矛盾するような見方になるとは決しておっしゃらなかったでしょう。このような伝統的な文章化したものがミシュナであり、それをさらに詳しく説明したものがゲマラであり、ともに文書化されたのは、ユダヤ人の第二神殿が破壊された後のことでした。この70年という日付が確実であるとは言えないものであったから、私たちは自信を持ってこの日付を出発点とし、そこから時間を遡って日付を計算し、ユダヤ人の歴史、特に私たちの主エスの日付をより確かなものとし、その上で、ダニエル9:24-27をどのように理解すればよいのかを模索します（ダニエルの70週の預言）。そのためには逆算するのが普通であり、最良の方法です。それならば、ユダヤ人の聖書の教えを利用して理解を助けることは、とてはど望ましいことでしょうか？

[1] *ゲネイ* 15:8)
[2] *マルコ* 7:13)
[3] *ジシュナ*=どがマコ*ヨルシュ*=ドを構成しています。ゲムムーラの目的は「学ぶ」という意味ですが、ゲマラだけを読むべきであり、後の点線は「研究」という意味です。

[5] 始める前に、エホバが自分の選民をエジプトから解放していらわけではなく、ネブカドネザルを使って彼らをバビロンに引き渡したのです。イスラエルの聖書学者は、他の預言的な者もエホバを助けることを証明していることに注目することが重要です。さて、キリスト教の信仰のためには、ユダヤ人の聖書を当自身がキリストの主張を理解し、信じたり反論したりすることは大変に有用であったのでしょうか。ここの点について、バビロニア・タルムード の3マ39bには次のように書かれています。「第二神殿が破壊される前の40年間、大祭司の名手には神のための聞き分く生じなかった。**聞所の扉は、やがて開かれることで開かれることを示すしるしとして、ひとりでに開いた。**」（ラバン・ヨハーン・ベン・ザカイ、ラビ・ヨシュア・ベン・ハナニヤ）とあり、西暦30年から70年までの間に起こった最も動かしがたい出来事を示しています。すなわち、神に有利な証拠がはっきりしていることは、1年に1回、**40年間連続して必ず神に不利な証拠が出ることをです**。その結果は20の章（1,000頁）にわたりあります。このことは、ヨマ39bによれば、40年間エホバへの祭の神聖が損なわなったことを意味し、まるで掃け物に聞こ何かが変わったかのようです。しかし、これらの出来事を西暦30年の出来事と結びつけることは、ユダヤ人祭司たちは判断はどう多くの言葉を使っていましたか。また、なぜこの期間だから40年に限定されているのでしょうか。

[1] *Yoma 39b, The Babylonian Talmud, from the translation in The William Davidson Talmud)*

[1]*ヨハ* 11:48
[2] *ヨハ* 11:49
[3] *The Persian Problem Revisited (2018), by Floyd Nolen Jones, Chapter 7, p. 131, footnote 2)*



Above: Sacrifice of Isaac, Private collection *(1597-1599 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 116 x 173 cm)*

[1]*ヨハ* 11:50
[2] *ヨハ* 11:51
[3] *ヨハ* 11:52
[4] *ヨハ* 11:53

[5] タルムードは、アボダ・ザラ8b で、西暦70年の破壊の前の40年間について、さらに詳しく述べています。**「神殿が破壊される40年前に、サンヘドリン石造りの部屋から追放され、神殿の山の近くの店に座っていた。**[1]」。これは、西暦30年頃のことを指しており、西暦70年の破壊の前に起こった出来事のことに関係しているのです。この出来事が何であったかを考える前に、ゼゼキエル書4章6節の予言に注目してみましょう：

2度目には、体の右側を下にして横たわり、40日の間ユダの罪を負う。私はあなたに、1年に対して1日、1年に対して1日を与えたのである。
（ゼゼキエル 4:6）

[1] ゼゼキエルの二つの預言は、ダニエル9:24-27の預言よりも前の時代にも成就していましたが、ここでは聖書にするためにコメントを控え（その成就に関連して、エゼキエル自身はエゼ14:14に見られるようにダニエルを知っています）、西暦30-70年に焦点を当てることにします。ゼゼキエル4:6は、40日に象徴される40年の期間を指しており、そこに書かれていることは、後のエルサレム包囲戦である西暦70年のちょうど40年前の期間について、エホバの声がエゼキエルに語りかけているのです[3]。しかし、なぜ西暦70年のちょうど40年前の期間なのでしょうか？

[1]*Avodah Zarah 8b, The Babylonian Talmud, from the translation in The William Davidson Talmud)*
[2] *ゼゼキエル* 4:6)
[3]*The Persian Problem Revisited (2018), by Floyd Nolen Jones, Chapter 7, p. 131, footnote 2)*

Above: Praying Saviour, Janus Pannonius Museum, Pécs *(1903 painting by Theodor Csontvary Kosztka, Oil on canvas, 100 x 82 cm)*

[1]ヨハ 5:2)

[1]ヨハ 5:4)は、第二神殿が破壊されるまでの出来事に、他の誰よりも興味がないかけてきましょう。その出来事は、西暦70年4月14日に始まった包囲戦の前に起きり、その年のニサン14日（ユダヤ暦の1月14日）、プレクサンドリアのピロンではRita Gautschy）と一致し、Josephusが提示した日付（ニサン14日）とも一致しています[1]-3]。その40年前ということ、世俗史では、ティベリウス・シーザーの西暦26年から36年までは大たたかンタ・ピラトの統治時代であり西暦30年のニサン14日に近い時期です。ここ、ポンテオ・ピラトがユダの総督を務めていた時代に、何事が起こっていたのでしょうか。もしそうであれば、西暦70年以前の40年間、アザゼルのためのくじ場、神殿の祭司を当惑させ、牲を始ずいたことを説明できるのではないでしょうか。ダニエル9:27の予言では、ユダヤ人の慣習と供犬物を終了する「預言」が予告されていました。この頃は、7年の69 「週」、すなわち483年の後になり、490年、すなわち70週の後に終わります。今のところ、私たちが知っていることは、西暦70年のニサン14日という日付だけです。真理を求める者として、天文学、歴史の知識、ユダヤ人の習慣、イエスに関する福音などを用いて、ダニエルの預言をブレスト・グリーメアロジーの年表で理解できるようがかを知りたいと思います。エホバについて書くに以外に、私たちの8Gの歴史の中で初めて、正確な歴史的事実を用いて、（私たちの主であり）救世主である イエス・キリストの生涯を正確に理解することが必要であり、また可能であると感じる立場に置かれることは、困難な仕事であると同時に、想像できる最大の特権でもあります。

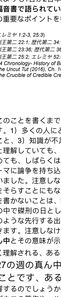
[1]ヨハ 5:2)
[2] *ゼゼキエル* 4:6)
[3]*Wars of the Jews, Book V, Chapter 3, paragraph 1 (c. 75 CE), by Flavius Josephus, trans. by William Whiston (1737)*

[1]*Pareiseig. Lunar, and Stellar Visibility v. 3.1.0, Nov 20 2006, by Reiner Lange and Noah M. Swerdlow, using code developed by Steve Meisner)*
[2]*K. Gautschy, "Mondstellen aus dem Talmud, Chronologie des Mittleren Reiches", Zeitschrift für Ägyptische Sprache und Altertumskunde 178, Vol. 1, 2011, 1-19. http://www.gautschy.ch/~rita/ archaist/ mond/ mondeing.htm)*
[3]ロー マ3:2)

Above: Christ Healing the Blind, Metropolitan Museum, New York *(c. 1570 painting by El Greco (Dominikos Theotokopoulos))*

第1章結束：天文年代測定と真の地球

第2章：昨日のことを振り返る



Above: Adoration of the Magi, Musée du Louvre, Paris *(c. 1518 painting by Lorch Apt The Elder, Oil on panel, 123 x 71 cm)*

One day after another day causes speech to bubble forth, And one night after another night shows forth knowledge.
(Psalms 19:2, New World Translation (1984))

日が昇ることに言葉を発し、夜が来ごとに知識を明かす
(詩編 19:2, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020)

[2] 西暦70年に第二神殿が破壊されたとき、祭司は、祭司として活動する権利を持つ家系の唯一の系図を失ったのです。

ユダヤ人のような民族は、3世紀初頭にアリウカスタス王国したようにヘロデ大王によって可能なら、西暦70年のエルサレム破壊の際にローマ人によって破壊されたことが明らかになっている（Against Apion, by F. Josephus, I, 30-38 [7]; The Jewish War, II, 426-428 [vii, 6]; VI, 354 [vi, 3]）。それは、ユダヤ人は、ヴェデリとイビンゥ島も重要なユダの系統であり、そのテ手を結婚

ことができてきたからだ。
(Insight On The Scriptures, Vol. 1, p. 909 (2018))[1]

彼らの聖所の系譜が失われたことは、確かにユダヤの伝統的な神殿礼拝の継続に反対してする有効な保証であり、それによって律法が終わることになる。しかし、ユダヤ教が終わったとして、その代わりに何が行われたのか。

[1]*Insight On The Scriptures, Vol. 1, p. 909 (2018)*

[2] ゼゼキエル の預言は、第一神殿が破壊される前にも成就しており、ヨシヤの13年目から紀元前586年の終わりに成就していた[1]。ヨシヤの統治期間は31年間で、その後、エキヤキムの11年、ゼデキヤの10年が続いたので、31＋11＋10=12＝40年となる[2]3]。そして、エルサレムは紀元前587年の夏に破壊された[4-5]。ソロモン1年（紀元前1017年）から北王国が紀元前977年（レハブアム4年）にこうどとニヤミンから離脱するまで40年あったことも紀介しました[6-7]。しかし、これらの成就は個別の年表でも当てはまる。ユダヤの第二神殿を終わらせた西暦70年の破壊に先立つ40年間は、正確に成就していた西暦30年の出来事しか関連づけられない。それは、西暦26年から西暦36年までの間に、あるユダヤ教の指導者が、1つの宗派のために、同じ期間に3つの別々の目的を現した唯一の年が西暦30年であるという、驚異的な偶然の一致です。その宗派とは、エッセネ派、サドカイ派、パリサイ派のことです。死海写本の研究によると、エッセネ派の確日は、私たちが知っている基準とは一致せず、毎年、ニッサン月一日を水曜日にしていたのです。つまり、彼らにとってユダヤ暦の14日目は常に火曜日であり、月曜日の夕方、あるいは火曜日の日没から夕方に始まります。しかし、この火曜日は、彼らにとっては毎年春分の日から13日後の日であり、それが年の始まりだったのです。西暦30年は、ユダヤ人の大多数が、ヘロデ王の治世14日は常に火曜日であり、月曜日の夕方、あるいは火曜日の日没から夕方に始まりました。しかし、この火曜日は、彼らにとっては毎年春分の日から13日後の日であり、それが年の始まりだったのです。西暦30年は、ユダヤ人の大多数が、ヘロデ王の治世14日は常に火曜日であり、月曜日の夕方、あるいは火曜日の日没から夕方に始まります

だパウロの書簡が、パウロが「使徒言行録」で、ついでに当時の世界の地図を広げて、ローマ帝国について理解を深めることができます[1-3]。

[1]ローマ 11:13
[2]ルカ 13:
[3]使徒 1:1

Above: Chief before Herod Agrippa II, Museum of Fine Arts, Budapest *(17th century painting by Nicolaus Knüpfer, Oil on panel, 18 x 24 in)*

2:1 コリント 11:30-33で、パウロはダマスカスでの迫害について書いていますが、ガラテヤ人への手紙によると、誰で殺ふ人を見つから逃げるのことです[3]。ガラテヤ人への手紙1:18で、彼は3年が過ぎたことを述べていますが、その後、彼はケファ（ペテロとしても知られている）を訪ねるためにエルサレムに行きました。これは約3日の滞在でしたが、ペテロとの関係は強固で、彼は使徒としての力を3年後にとう顕を証明します [4,5]。パウロはガラテヤ2:1で述べて、14年という間隔はパルナバと一緒に行った2回目のエルサレム訪問に言及されると述べており、最も単純な解釈の攻撃から14年と理解されています[6]。これによると、パウロはエルサレムを訪ずてから14年間に2回エルサレム を訪問しており、最初の訪問は3年後、2回目はパルナバと一緒に行ったことになります。このような論理で理解されています。この3世と14年という間隔は、いずれもパウロがダマスカスへの道で改心したという出来事の後から数えたもので、私たちの考えでは、包括的であっても理解的であっても、ともかくあるべきものであるべきであるべきである。つまり、13年を除いた期間は14年を含んだ期間に相当します。パウロの改心が西暦30年であれば、彼がエルサレムを訪れたのは約まちがい30＋13＝西暦43年（排他的＝西暦44年）であることになります。ルカの使徒行録に改宗したとすれば、包括的＝西暦44年となります[7]。このように、論理は可能な限り明確で単純です。

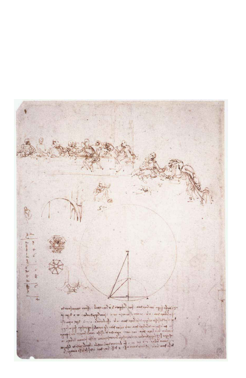
[1]使徒 9:3-9, 12:19
[2]使徒 9:
[3]ガラテヤ 1:15-18
[4]ガラテヤ 1:18 「…私はこのことについてすべてに入に相談しかりはしませんでした。」ガラテヤ 1:18 「万事は…」
[5]これが私たちがけっと結論できれば、この会話に関してこの会話に語ってこの会話に語ってこの会話に語って

Above: St. John the Baptist, Museo-Tesoro Catedralico *(1597-1598 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 169 x 112 cm)*

210a ジョーンズ氏は "The Persian Problem Resolved "のp.129でイエスの磔刑の年を、p.131でオロシウスによるとその日を示す証拠を提供している[1,2]。オロシウスでは月の年齢はその日に14日とされているが（注[2]）、これは必ずしもニッサン十四日とは一致しないことをここで指摘しておきたい--第1視認性が新月してからどれだけ早く見えるかによって決まるからだ。この暦については、後でもっと詳しく説明したいと思います。今のところ、ニッサン13日にも月齢14日になることがあります。つまり、新月の2日後まで月が見えず、ニッサン01は、第1視認性の前夜に始まる。このように、私たちはジョーンズ氏とは異なっています。彼はイエスを69週の終わり、つまり483年後に死なせています。アルタクセルクセスの20年目は紀元前454年で、ゼロ年は存在しないので、磔刑の年は西暦30年になります。

210b しかし、ダニエル9:27 **週の半ばに犠牲と供え物を終わらせます**、メシアが週の半ばに死ぬことを除いて、成就することはできません。週の半ばに、実際にすべての犠牲と贈与の捧げ物がキリストに取って代わられるので、好ましい時期です。このことから、70週は前の69週から離れている必要はなく、むしろ、キリストは70週目の真ん中で死ぬかもしれないという理解になります。そうすると、1週目の真ん中は69週前、つまり西暦30年の483年前になり、ちょうど紀元前454年になります。そして西暦33年、ペテロが最初の異邦人を受け入れたとき、**ユダヤ人にとって70週は終わり、エホバに選ばれた民としての関係において排他性を失うことになる**[3,4]。

[1](*The Persian Problem: The Difficulties Encountered in the Holy Scriptures with the Kings of that Empire Historically and Biblically Resolved (2019) Second Edition, The Persian Problem Resolved, Chapter 7, by Floyd Nolen Jones, p. 129, footnotes 5-8*)
[2](*Ibid., p. 131, footnote 3*)
[3](*使徒 10:34,35*)
[4](*Paragraph 7-9, below*)



Above: Study for the Last Supper, Royal Library, Windsor *(1494-1495 drawing by Leonardo Da Vinci, Pen and ink on paper, 266 x 214 mm)*

211a この解釈が優れている理由は、第一週の初めにも見られますが、この時期は紀元前458/457年であり、異説ではアルタクセルクセスの7年目に近く、1年目は464年となります:

490 - 458 + 1 = 西暦33年 (ペテロが異邦人を歓迎)

211b このような新しい見解を共有することができて、改めて光栄に思います。様々なクリスチャンの見解は、この理解によって調整される部分があるので、複数の成就が得られます。磔刑の西暦30年は、ダニエル9:24-27のダニエルの言葉の成就をこのように提供している現時点での唯一の年ですが、それ以上のものを提供しているのでしょうか。もちろん、ヨハネによるイエスのバプテスマは、その3年半前として西暦30年からで、西暦26年の秋、つまり、紀元前458年から483年後でもある:

483 - 458 + 1 = 西暦26年 (イエスはヨハネから洗礼を受けた)

211c バプテスマを受けたイエスは、西暦26年に宣教を開始する。ユダヤ人はこの時点から、異邦人が入る前に、新約に入るための7年間が与えられる。エホバのイスラエルとの契約は、西暦33年まで有効であり、その間、イスラエルはエホバの唯一の民であり続ける。リーダーであるメシアまでの期間は、7週間と62週間が与えられていますが、これは追加で考えることができます。

212a 「62週の後、メシアは切り離される」というのがダニエルの預言の一部であり、これに7週を加えて先行させないと問題になります。しかし、69週は全体としては満たされているように見えます。しかし、62週を紀元前454年から数えると、もっと興味深いことがわかります。この年は、上述のジョーンズ氏にとってアルタクセルクセスの20年にあたります。紀元前454年から62週（434年）を引くと、紀元前20年、ヘロデ王の18年となりますが、この年、ヘロデ王は神殿の再建を始めているので、この年は補強の年となります[1]。ちょうど49年（7週）後の西暦30年には、メシアが切り捨てられる、つまり死んでしまう磔刑の年になります。しかし、さらに充実しているのは、ヨハネの福音書2章20節で、ユダヤ人たちが、イエスが宣教を開始した直後、つまり西暦27年の過ぎ越し祭の時に、神殿は「建設に46年かかった」を意味しています、紀元前20年、西暦27年の46年前にヘロデによって設立されたことになります:

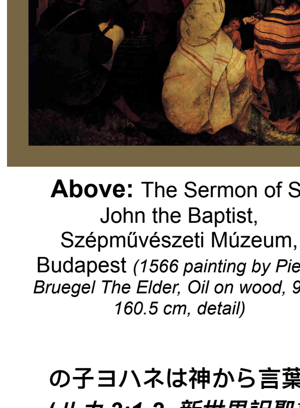
46 - 27 + 1 = 紀元前20年 (ヘロデ王18年)

212b ダニエル書の預言は、これらの例が示すように、磔刑の日を西暦30年とする多重成就をしています。それぞれの要点は、一週間の真ん中で起こります。第1週の半ばから第70週の半ばまでは、期間です69週の年、つまり西暦30年。これは、70年（またはマサダの73年）で終わり、イエスの誕生で始まったもう一つの週の真ん中ではないでしょうか? 願わくば、この話は後ほどさせていただきたいと思います。

[1](*Antiquities, XV, Ch. 11, sec. 1, by Josephus*)

第2章结束：昨日のことを振り返る

第3章：ティベリウス、ヘロデ、天文学、証言



Above: The Sermon of St John the Baptist, Szépművészeti Múzeum, Budapest *(1566 painting by Pieter Bruegel The Elder, Oil on wood, 95 x 160.5 cm, detail)*

There is no speech, and there are no words; No voice on their part is being heard.
(*Psalms 19:3, New World Translation (1984)*)

何も言わず，何も語らず， 声は聞こえない。
(*詩編 19:3, 新世界訳聖書（スタディー版）2019, 2020*)

31a イエスの洗礼は西暦26年で、イエスの復活は西暦30年となり、42ヶ月の宣教期間となります。西暦70年から逆算すると、西暦26年に洗礼を受ける論理的な根拠が見つかりました:

ティベリウス·カエサルの治世の第15年，ポンテオ·ピラトがユダヤの総督，ヘロデがガリラヤの地域支配者，その兄弟フィリポがイツリアとテラコニテ地方の地域支配者，ルサニアがアビレネの地域支配者だった時，アンナスとカヤファが祭司長だった時代に，荒野でゼカリヤの子ヨハネは神から言葉を受けた。
(*ルカ 3:1-2, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020*)[1]

31b 上記のルカ3:1-2の聖句は、ティベリウスの年号に基づいて、磔刑を西暦30年ではなく西暦33年とする人がいる最も強い理由の一つであると思われます。西暦14年後の15年目は西暦28-29年であり、西暦14年はティベリウスに先立ってローマ帝国の皇帝となったカエサル・アウグストゥスの死に対応しています。

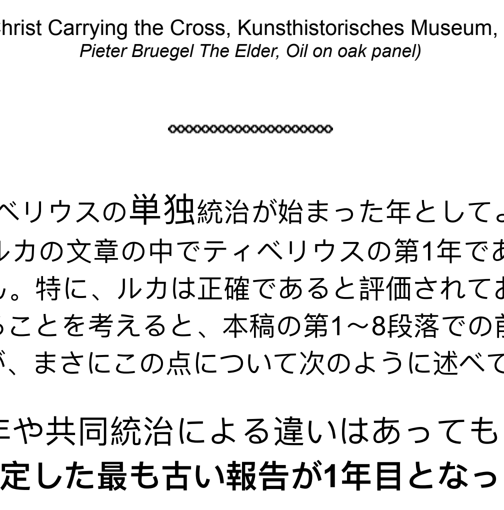
[1](*ルカ 3:1-2, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020*))

32a ジェフリー・R・チャドウィック氏による非常に詳細な研究論文（115の参考文献を掲載）によると、次のようになっている:

> **大多数の学者は**、西暦30年はイエスが過ぎ越し祭の季節に磔刑にかけられた年であると主張している。確かに、排他的なコンセンサスではなく、他の日付を示唆する少数派もいる。しかし、イエスが処刑された年として西暦33ではなく西暦30を好む新約聖書学者の比率は**2対1以上**である。[強調して、エディター] 。
> (*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick*)[1]

32b では、ティベリウス1年目のシビックな日付が与えられています西暦14年で、ルカ3:1が洗礼の日付を西暦28～29年と示唆しているのに、真面目な学者たちが西暦30年を支持する原因は何だろうか? チャドウィック氏の同じ記事では、は可能です西暦27～28年という早い時期になってしまうことを示していますが、より前の日付ではありません、洗礼の時期を西暦26年とする論理はあるのでしょうか?

[1](*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick*)



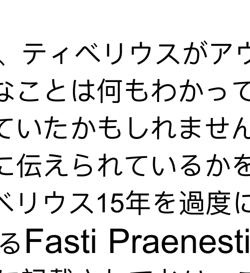
Above: Detail from Christ Carrying the Cross, Kunsthistorisches Museum, Vienna *(1564 painting by Pieter Bruegel The Elder, Oil on oak panel)*

33a 西暦14年はティベリウスの単独統治が始まった年としてよく知られているかもしれませんが、ルカの文章の中でティベリウスの第1年であることを意味するものではありません。特に、ルカは正確であると評価されており、彼自身もそのように主張していることを考えると、本稿の第1～8段落での前回の議論を思い出すかもしれませんが、まさにこの点について次のように述べています:[1,2]

> …即位の年や共同統治による違いはあっても、外国の王**の王権を想定した最も古い報告が1年目となっているのです。**
> (*Paragraph 1-8, above, emphasis added*)[2]

33b ユダヤ人の聖書作家が見た外国の王の1年目を決定するこの方法は、王の統治日の不確実性を最大で1年に減らし、複数の異なる暦を避けることができると考えられる。この考え方からすると、ティベリウスはアウグストゥスが亡くなる前の西暦12年頃に共同統治を始めていたことになる（スエトニウスによる）。[3]

[1](*ルカ 1:3*)
[2](*Paragraph 1-8, above*)
[3](*The Life of Tiberius, 20-21, by C. Suetonius Tranquillus*)



Above: St. John the Baptist, Galleria Borghese, Rome *(1550-1555 painting by Agnolo Bronzino, Oil on wood, 120 x 92 cm)*

34a 多くの市民の日付と同様に、ティベリウスがアウグストゥスとともに王権を獲得した日付については、確かなことは何もわかっていないかもしれませんが、ルカは私たちよりも詳しく知っていたかもしれません。使徒は当時、日付がどのように記録され、現代の私たちに伝えられているかを知らなかったでしょう。そこで、ルカが記録しているティベリウス15年を過度に重視することなく、研究を進めていくと、有名な碑文であるFasti Praenestiniには、ティベリウスの凱旋戦車乗車が西暦12年10月23日に記載されており、これはパテルクルスによる王権就任の儀式の直前または直後と解釈できることがわかりました[1,2]。

> **海と陸への遠征で敵の力を打ち破り、ガリアでの困難な仕事を終え、Viennensesの間に生じた不和を罰ではなく抑制によって解決した後、父の要請により、元老院とローマの人々は、彼がすべての州と軍隊において父と同等の権力を持つように決定した。確かに、彼が守っている地方が彼の管轄下にないのは不自然であり、援助の先頭に立っている彼が、獲得すべき名誉において同等であると考えられないのは不自然であった。都に戻った彼は、相次ぐ戦争のために延期されていたパノニア人とダルマチア人に対する勝利を祝いました。**
> **(*The Roman History, Book II, 121.1-2, by C. Velleius Paterculus*)[2]**

34b 仮にティベリウスが王室への任命を受けたのが西暦13年初頭だったとしても、ユダヤの世俗的な1年は秋から秋で、いずれにしても10月頃に始まることがわかっているので、ティベリウスの1年目は西暦12年に始まっていたかもしれません。

[1](*The Life of Tiberius, 20-21, by C. Suetonius Tranquillus*)
[2](*The Roman History, Book II, 121.1-2, by C. Velleius Paterculus*)

35a アウグストゥスは西暦14年8月19日に亡くなりましたが、この出来事によって、ティベリウスの摂政年の記念日がこの年の日付に移され、彼の1年目が西暦12年8月19日に正確に始まるように再設定されました。しかし、公民の年代測定がルカに勝るものはないことをはっきりさせておかなければなりません。ルカは最も古いユダヤ暦を使い、西暦12年のティシュリ元年を9月5日に開始し、ティベリウスの王位を10月23日付近と仮定して、実際の共同統治の開始を使用しています[1,2]。したがって、西暦26年は「ティベリウス·カエサルの治世の第15年」として論理的には成立する。

12 + 15 - 1 = 西暦26年 (ティベリウス・カエサルの15年目)

35b **後の日付から逆算して前の日付を確定するという、根拠のある原則が維持される。**ヨハネがバプテスマを行うために来た年として西暦26年という日付は、イエスがバプテスマを受けた年と同じであると想定されている[3]。ルカ3:23は、イエスが「およそ30歳で」とコメントしています。さて、ここからはイエスの誕生年について考えてみましょう。

[1](*ネヘミヤ書1:1と2:1は、ペルシャ王アルタクセルクセスの年の日付を決めるために、ユダヤ暦を使用しているように見える。この例では、ニサンの月がアルタクセルクセスの20年目のチズルブの月の後に続いており、チズルブはユダヤ暦の第3月で、ニサンは第7月である。それ以外の場合は、ニサンが第1の月となる。*)
[2](*もちろん、ローマ暦の年を使えば、15年目の起算方法はもっと単純になります。12年の1年目が1月から始まると、15年目は26年1月から始まることになるからです(26 - 12 = 14 + 月)。しかし、ルカはこれらの出来事に月を与えていないので、どちらの暦を使っているかは不明のままです*)
[3](*ルカ 3:1-21*)

Above: St. John the Baptist, Galleria Nazionale d'Arte Antica, Rome *(1603-1604 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 94 x 131 cm)*

3~6a~ ティベリウスの年号が西暦26年とルカ書に一致していることを確認した上で、ヨハネが行った洗礼は秋、あるいは気温が好ましい夏の終わりに行われたと仮定します。ダニエル書の「週の半ば」を文字通りとすると、イエスの宣教期間は3年6ヶ月となり、西暦30年春のニサンの半ば近くでの死から西暦26年のティシュリの半ば（または9月）の洗礼までを計算すると、イエスの宣教期間は3年6ヶ月となります。明らかに、イエスのバプテスマの日付、誕生日、バプテスマ時の年齢はすべてつながっています。イエスのバプテスマ時の年齢については、イエスが約30歳であったことしかわかりません。西暦26年の秋から、30歳の年齢はゼロ年のない紀元前5年頃までさかのぼります:

> **ゼロイヤーはない--ゼロは単なる境界線**
> 西暦0～0.75は1年の最初の9ヶ月間西暦1年
> **西暦26年の秋＝西暦25.75**
> *紀元前1～0.25は、1年の最初の9か月間 紀元前1年*
> **25.75 - 30 = 紀元前4.25 = 紀元前5年の秋**
> イエスの誕生は上記の1年前以内です:
> **紀元前6年末～紀元前5年秋（イエス・キリストの誕生）**

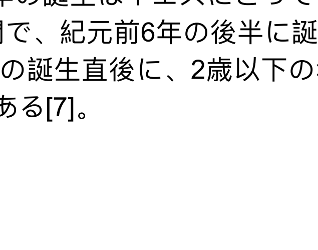
3~6b~ 紀元前5年秋に生まれたということは、30歳ということになる。イエスが紀元前6年後半から紀元前5年秋の間に生まれたとすると、その年の秋である西暦26年には30歳から31歳になっており、「およそ30歳」ということになります。上記の計算に端数年を使うことで、「0」の追加年を差し引くことを避けました。ルカの福音書1章26節によると、マリアが聖霊によってイエスを身ごもったとき、ヨハネの母エリザベトはヨハネを妊娠して5ヶ月であったため、洗礼者ヨハネは西暦26年の春に洗礼を始め、そのときの年齢も30歳であったと考えられます。

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

3~7a~ ヨハネは、当時エルサレムの第二神殿で祭司を務めていたレビ人、ゼカリヤの息子である[1]。民数記4:3のモーセの律法では、レビ人は30歳から正式な奉仕を始めることが条件の一つとされていた。イエスはレビ人ではありませんが、王であり祭司である「メルキゼデクのような」で預言者として奉仕しています[2-4]。このことから、バプテスマのヨハネもイエス・キリストも30歳で説教を始めるのが適切な年齢と言えます[5,6]。

3~7b~ イエスのバプテスマが西暦26年の秋であることから、上記の第3-6a項ですでに示したように、紀元前6年の誕生はイエスにとって確実な可能性であり、西暦26年には30歳から31歳の間で、紀元前6年の後半に誕生することができます。次に考えられるのは、イエスの誕生直後に、2歳以下の年齢を指定して男の子の殺害を命じたヘロデ王の死である[7]。

[1](*ルカ 1:5-8*)
[2](*創世記 14:18*)
[3](*詩編 110:4*)
[4](*ヘブライ 5:6,10; 6:20, 7:1-17*)
[5](*ルカ 3:3*)
[6](*ルカ 3:23*)
[7](*マタイ 2:16-18*)



Above: Journey of the Three Magi to Bethlehem, New York Historical Society, New York *(1638-1640 painting by Leonaert Bramer, Oil on panel, 79 x 107 cm)*

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

3~8a~ ヘロデ王の伝統的な死期は紀元前4年である[1]。ヘロデ大王と呼ばれる彼の死は、その年（紀元前4年）の4月であり、少年たちを虐殺するという自らの命令に先立つことは論理的に不可能であり、紀元前6年後半のイエスの誕生とその2年後のヘロデの死との間には優れた対応関係があると考えられる。イエスの誕生の頃に「星」を見てエルサレムに来た東方の賢者たちがいた[2]。マタイ1:7-12から、ヘロデがベツレヘムの**2歳以下**の少年をすべて殺すという恐ろしい命令を下したのは、占星術師や賢者から得た情報に影響され、彼らがエルサレムに行くのにかかった時間にも影響されています。これらの状況から、イエスの誕生日が紀元前6年後半以降である可能性は低く、ヘロデが紀元前4年4月よりも早く死ぬことはないと思われます。

3~8b~ もしこれらの出来事が本当の日付であるならば、少しも変動の余地はないが、高い出所を提供するような形で行われている[3]。 広く信じられているように、ヘロデの死が紀元前4年であることは、イエスの誕生日を紀元前5年よりも早くすることを可能にします。従って、イエスの3年半の宣教期間を含めても、磔刑は34年以上後になることはなく、明らかに西暦30年以降の磔刑を支持するものではありません[4]! このように、西暦30年の磔刑の年は、ヘロデが紀元前4年の4月に死んだことによって補強され、正確な出所となります。次に、イエスの誕生日である紀元前6年後半を調べてみましょう。

[1](*Antiquities, XIV, Ch. 16, sec. 4, by Josephus [紀元前37年のエルサレム征服がここに記述されており、その時ヘロデがアントニーを買収して手配したアンティゴヌスの死が記述されている。]; Antiquities, XVII, Ch. 6, sec. 4, last sentence, by Josephus [ヨセフスはここで月食に言及しており、訳者のウィリアム・ウィストン氏によれば、これはヨセフスが「彼のあらゆる著作の中で」言及している唯一の「いずれかの光」の月食であるという。Whiston氏はこれを紀元前4年3月13日の月食と同定しており、そのように広く受け入れられている。]; Antiquities, XVII, Ch. 8, sec. 1, by Josephus [ヘロデが死んだのは紀元前4年で、前6章の3月13日の日食で確認され、紀元前37年にヘロデがアンティゴヌスの死を調達してから34年後とされているので、紀元前4年になる（年数は包括的に数えている）。]*)
[2](*マタイ 2:1-6*)
[3](*cf. Trojan War (2015), Chapter 4, paragraphs 7, 11, and Chapter 12, paragraph 4, by Ward Green et al., ここで、私たちは、出所を、年代の緊密さに関連するものと見なし、その結果、年代の相関をより緊密にする。)*
[4](*ルカ 3:23*)

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

3~9a~ 私の記事ではGreen、 1世紀のコインに紀元前6年のイエス誕生を示す新たな証拠があることを報告しました。マイケル・R・モルナール氏は、これらのコインの中に、ユダヤ教の牡羊座に「星」と記された日付を発見し、紀元前6年に木星が月と一緒になり、月が牡羊座の「星」である木星を食らったことと関連付けました[1]。 木星は、月と金星に次いで3番目に明るい天体であり、月や金星よりもはるかにゆっくりとした速度で移動し、土星に次いで最も遠くに見える惑星でありながら、恒星に対してより速く移動することから、偉大な王を意味している:

> **ヨハネス・ケプラーは17世紀初頭に、この「星」は実際には紀元前7年に魚座で起こった木星と土星の3回にわたる合流であると推測した....**
>
> **...この宇宙ドラマでは、土星はヤハウェを表し、セデックと呼ばれる木星は彼の「息子」であるメシアを表しています。**
> **(*The "Star of the Messiah" Reconsidered, Biblica Vol. 53, No. 1 (1972), pp. 105-109, by Roy A. Rosenberg*)[2]**

3~9b~ ここで、紀元前7年と紀元前6年の惑星と月の構成、特に月、木星、土星の動きを考えてみましょう。

[1](*"The evidence for Aries the Ram as the astrological sign of Judea," Journal for the History of Astronomy (ISSN 0021-8286), Vol. 34, Part 3, No. 116, p. 325 - 327 (2003), by Michael R. Molnar*)
[2](*The "Star of the Messiah" Reconsidered, Biblica Vol. 53, No. 1 (1972), pp. 105-109, by Roy A. Rosenberg*)

Above: Star of Bethlehem commemorative coin *(6 CE - 253 CE coin, Star and ram, see "Star of Bethlehem Coins - A Set of Serial Commemoratives" (2014), by T. B. Cartwright)*

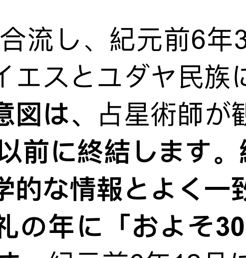
°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

3~10a~ 科学の客観性からすれば、誰かの誕生に占星術的に最適な時期などないことは確かだろう。しかし、イエスの時代のマギたちは、占星術を信じていた。今回の記事の範囲を超えますが、3-9（上）で学者が指摘したように、牡羊座にある土星と木星という惑星は、エホバ、メシア、そしてユダヤ人国家イスラエルと関係があります。土星と木星のコンジャンクション、そしてこれらと月のコンジャンクションを探してみると、紀元前7年から紀元前6年の間に牡羊座でこの3つの天体が何度もコンジャンクションを起こしていたことが非常によくわかります。非常に多いですね。Solex 12.00、Celestia 1.6.1、SkyChart III Demoのいずれもこれらの現象を示していますが、この3つの中ではSolex 12.00が唯一、非常に正確だと思います。**紀元前6年3月20日、これら3つのプログラムが示すように、木星は牡羊座にある月によって掩蔽され、月の中心から月半径の半分以下の位置にある（ソレックスではエルサレムとペルシャ湾から）。もし見えるのであれば、日没後の西の地平線近くで、東から見ている人が観測できるでしょう！** [1]。

3~10b~ これはさらに珍しいことで、その日の朝は新月の直後であるため、月が黒く、月の暗さで木星を掩蔽することになり、西の空で木星がちらちらと消えていくようなものである。これは、天のイエスが天からマリアの胎内に入った、イエスの受胎に関連するものである。4月17日には、牡羊座でより小さな掩蔽が起こりましたが、これは昼間であったため見えませんでした。**しかし、その日の夜明けに、で牡羊座の東の地平線上で木星そして月のヒライアカル・ライジング、簡単に見ることができ、占星術師たちが見たものであったかもしれません**

3~10c~ **9ヶ月後の紀元前6年12月19日、牡羊座にある月は再び木星の近くを通り、2.25度以内（月の直径5個分以下）で木星の上を通り、再び西の地平線近くまで行くが、今度は土星が地平線の下に入り始める午前3時頃（魚座）である。**この時点で、紀元前7年に3回あった木星と土星のコンジャンクションも終了する。これは、一部の学者が（年に関して）、また伝統的に（月に関して）教えているように、紀元前6年12月にメシアが誕生したことを示していますが、これは（メシアとしての）木星が（エホバとしての）土星と合流することによって、先に予告された出来事です。違いは、**紀元前6年には、木星が牡羊座の月と合流し、占星術師たちにユダヤ人の王が生まれたことを知らせ**ていることです。紀元前6年12月以降、土星と木星は通常通り、すべての惑星の軌道がほぼ同一平面上にあるため、月とコンジャンクションを起こしているが、**紀元前5年2月10日（紀元前6年12月19日からわずか53日後）には、木星は牡羊座に見えなくなり、牡牛座に入っている**[2]。

[1](*マタイ 2:2, New World Translation (2013)*)
[2](*Celestia 1.6.1*)



Above: Head of the Twelve Year Old Christ, Graphische Sammlung Albertina, Vienna *(c. 1506 drawing by Albrecht Dürer, Brush drawing on blue Venetian paper, 275 x 211 mm)*

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

3~11a~ 紀元前7年に木星と土星が合流し、紀元前6年3月20日に牡羊座の月が木星を掩蔽したことは、キリスト・イエスとユダヤ民族に関係するエホバの意図を示しているように見えます。**この意図は、占星術師が観察できるように、木星が牡羊座を離れる紀元前5年2月10日以前に終結します。紀元前6年12月のイエスの誕生は、占星術師が注目する天文学的な情報とよく一致します。また、ルカの福音書3章23節にある、イエスが洗礼の年に「およそ30歳」であったという記述も、ちょうど西暦26年に合致します。**紀元前6年12月に生まれたユダヤ人の王は、木星がユダヤの牡羊座から離れる直前に生まれたので、西暦25年の12月には30歳になっています（3-6a参照）。

3~11b~ このように、「星」のコインが提案するイエスの誕生は、「星」が木星の場合には有効であると思われます。星がイエスのいる場所（マタイ2:9）の上で止まったのは、天文学的な観察ができないからである。ただし、星が年代的に占星術師たちに先行し、木星が牡羊座を離れた後、占星術師たちがイエスを訪ねた後に「止まった」という見方をする場合は別である。もちろん、他の解釈も歓迎だ。**紀元前6年12月19日に東からベツレヘムに近づいた人々は、半月の下に木星を見ただろう。**占星術師たちは、木星が牡羊座に留まっていた紀元前5年1月16日にイエスの誕生から約1ヶ月後に到着したのかもしれません。マタイ2:9にある星「が先を行き」という記述は、おそらくこのことを意味しているのでしょうが、単に月が彼らについてこなかったということかもしれません。

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

3~12a~ イエスの誕生日は羊飼いが夜に屋外で羊の群れを見る仕事をしていたことと関連しています[1]。羊飼いが夜に羊の群れを見るということは、暖かい時期に生まれたことを意味しますが、これは問題になりません。イエスは紀元前6年の暖かい時期に生まれた可能性があり、その場合、占星術師はその年の後半に到着することになり、イエスの年齢は洗礼の時に少し上になるだけだからです。「およそ30歳」はちょうど31歳になる可能性があります。しかし、レビ人である洗礼者ヨハネは30歳で説教を始めたと考えられ、イエスより5ヶ月（または6ヶ月）年上のヨハネは、イエスの洗礼の前にヨハネが説教を始めてからどれだけの時間が経ったかによって、イエスの年齢にある程度の制限を設けています。また、イエスの誕生月は季節外れの暖かさだったので、群れが外に出ていたのかもしれません。

3~12b~ 紀元前7～6年の間に明らかな天変地異があったことを見てきましたが、これは「ユダヤ人の王として生まれた方」を求めてエルサレムに旅立った占星術師についての聖書の報告を説明するのに十分なものです[2]。ユダヤ教の牡羊座に関連した印象的な天変地異を見て、遠い国から見知らぬ人が旅をしてきたということは、後世の私たちにとっても明確な基準であり、紀元前6年には牡羊座に木星の位置を確認することができました。ここで重要なのは、前年の紀元前7年には木星も土星も牡羊座にいなかったが、木星が紀元前6年3月9日にギリギリで牡羊座に入る前に魚座にいて、土星が牡羊座に入るのは木星が牡羊座から出て行った後の紀元前5年3月2日であることだ。イエスの誕生年を紀元前6年と予想したのは天文学からではなく、ルカの福音書3章23節の洗礼時の年齢と、洗礼年をさかのぼって計算した西暦26年からでした。しかし、天文学的には、強力な証拠でそれを裏付けています

3~12c~ この問題に関しては、天文学的にはまだまだ多くの研究があり、エホバの意向により、適切な時期に行う予定です。しかし、私たちの記事の長さでは、彼らが要求する完全なものを得ることはできず、上記で明らかにした詳細で十分足りるでしょう。私たちはイエスの誕生日を、の連続したタイムラインから決定したバプテスマ、宣教、磔刑、ダニエル9:24-27、ペテロが諸国民を歓迎したこと、パウロが改心してから14年後にエルサレムに到着したこと、ヘロデ・アグリッパ1世が亡くなった年と一致していること、エッセネの過ぎ越し祭の日、タルムードに記録されているその最後の40年間の第二神殿の問題など。今のところ、大きな試練もなく、すべてがうまく収まっています。もちろん、今後も改良の余地はあるでしょう。

3~12d~ この機会に、ダニエル9:24-27がどのように成就したのかを、徐々に確定していく年表で確認してみてはいかがでしょうか。

[1](*ルカ 2:8*)
[2](*マタイ 2:2*)

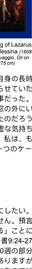
第3章結束：ティベリウス、ヘロデ、天文学、証言

第4章： 数值的に内部の端点として発見されたダニエル

Into all the earth their measuring line has gone out, And to the extremity of the productive land their utterances. In them he has set a tent for the sun. (Psalms 19:4, New World Translation (1984))

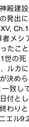
しかし、自が世界中に響き渡り、知らせが世界の末にまで伝わった。神は天に太陽のための天幕を張った。
(詩篇 19:4, 新世界訳聖書 (スタディー版) 2019、2020)

1) リタックスして眠っていた私を目覚めさせたのは、ノックの音だった。これは誰だろう？ 誰だろう？ なんて笑礼な！ 目を開けてノックしている人を見ると、私はマジィックの公式に為る信号機の下で止まっていて、しかもその信号は青だったのです。これは、私自身の長時間労働に加え、寝の基盤を看取るために毎日パーレイプンド事で車を走らせていたことによるものです。私の「無礼な信号機」は、私にふさを鈍う出来事だった。私の怒りの感情は、「ありがとう」という感謝の気持ちに変わった。窓の外にいた男性は車に戻っていた。どうして私は自分の限界を超えてしまったのだろう。この日は2016年の秋でした。エホバの存在を実感し、その力に謙虚な気持ちになりました。あの時、私の足はブレーキを踏んでいたが、もしも、、、私は、もしものことを簡単に考えた。それは、エホバの縁れわれい優しさの一つのケースでした。私は妻の健康問題でストレスを感じていました。



Above: The Raising of Lazarus, Musée Rolgnacie, Messina *(1608-1609 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 380 x 275 cm)*

2) 視点が優ってしまうことがあるので、謙虚さを忘れないようにしたい。特に、預言については、人間の理性や科学的な主張には掩威があります。預言がそうであれば、メシアの預言であればなおさら、事実を「辨し付ける」ことに抵抗して、講意ついることが即常に望ましいと思われます。ダニエル書9:24-27の預言の成就を求めている人たちが、その預言の7週、62週、69週、70週の部分に一致する日にち年にちを探すのに苦労した例は鼓文初れないほどあります が、説得力のある一致ではありませんでした。しかし、この預言は幽部なものではないように思えます。これらの期間のすべての終点に「御ハ年は」が適用されると、仮定したことから、得られた結果は実際に期待された通りのものとなりました。このことから、私たちは自分の解釈を講虚に受け入れ、イエス・キリストというメシアを受け入れることになります。それを裏付ける市民的な日付を調べて折ろう。



Above: Entry of Christ into Jerusalem, Pinacoteca Stuard, Parma *(1435-1440 painting by Pietro Di Giovanni, Tempera on wood, 29 x 65 cm)*

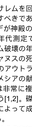
4) ハロド大王による神殿建設の開始は、ダニエルの預言がエルサレムを回復し、再建するための言葉の発出に言及していたことから、今、注目すべきである。3世紀のユダヤ人ラビ、ラビ・ハニナ（Ahi Ben Ha Nina）によると、彼の18年目にハロドが神殿の再建を命じた日から、指導者メシア（ダニエル9:24）まで、市民の年代表定では7週間、正確には49年あったことになります。ここでは、エルサレム破壊の年（西暦70年）、アグリッパ1世の死（西暦44年）とパウロの14年、セヤヌスの死（聊刑の後）（西暦31年）、ルカによるティベリウスの15年と、上記のアウトライン に沿って、聊刑の年代が決められています。これらはすべて、メシアの献金が西暦30年であることを一致しています。しかし、これらのことは非常に複雑で為り、それがメシアの日付としてパプテスマ を試みた理由でもあります[1.2]。聊刑をダニエルの語の期間の終わりとするメシ ヤは、メシアのタイミングにふさわしくなる「預の年は」（ダニエル9:27）を受け入れることができます。

[1]*The Ark Of Urartu (2010), Chapter 10 paragraph 3, Table 10, by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge*
[2]*Preservation (2016), Chapter 11 paragraph 10, by Ward Green*

Above: The Virgin Mary, Christian Museum, Esztergom *(Painting by Pietro Di Giovanni, tempera on wood, 47 x 30 cm)*

4) メシアの犠牲は「週の半ば」と見られていますが、それはすべての犠牲を終わらせる犠牲だからで、ダニエル9:27の預言書の言葉に関しています。しかし、「7週」は69週の始まりを指すのに役立つはまるで見えない。62週もそうですが、「7週」はハロドが神殿を建て直後、イエスが宣教を始めた「46年」と表現された時期に当てはまると理解できます[1,2]。そして、西暦70年から逆算したように、62週はハロド王の18年から逆算して、新しい神殿の事業を行い、ダニエル9章25節の王目すべき成就のーつとして、神殿に「公共の広場」が加えられたと考えることができます：「ハロドは神殿に、広場と場を東に拡張し、ダニエル書に「聊刑」（「切り捨て」）のでしょうか、ヘブライ語のテキストで使われている「除かれ」（「切り捨て」）という言葉は、「契約を結ぶ」という意味もあります（"כרת"ketarth）。イエスは弟子たちと契約を結んだ（ルカ22:29）ので、「除かれ」（「切り捨て」）というのは、イエスの生涯の働きにも当てはまります。

[1]*ハロド22*
[2]*Paragraph 2-12a, above;*
[3]*Paragraph 2-9, footnote [1], above;*



Above: Massacre of the Innocents, Rijksmuseum, Amsterdam *(1590 painting by Cornelis Van Haarlem, Oil on canvas, 245 x 358 cm)*

4) ヘロド王がエルサレムを征服した日は、JosephusのAntiquities, XIV, Ch. 16, sec. 4に記載されており、いくつかの参照点から与えられています。すべての参照点ーつの結果が、ジョセフスはマルクス・アグリッパとカニニウス・ガルスとしており、ローマの市民記録から紀元前37年とされていますが、これは非常に具体的な点です。しかし、それだけでは不十分で、フラウィウス・ジョセフスは、紀元前37年より27年前の同じ紀元前に位置されているが、ヨセフスやマカバイ記に記されている数少ない史実日に基づいて、50年の誕年周期で考えると、紀元前34年となります が、確実性は低い[1]。紀元前37年にヘロドがエルサレムを占領しても、西暦70年に第二神殿が破壊されるまでの107年間の大祭司の期間は、4つ目の確証となります。ヘロドが神殿の再建を始めたのは紀元前18年目で第ニ十五の年（または7週、ダニエル9:25）を見ることができるのは、現代の私たちにとって証拠のいくつかとなります[2]。

[1]*Antiquities, XIV, Ch. 16, sec. 4, by Josephus*
[2]*Antiquities, XIV, Ch. 16, sec. 1, by Josephus*
[3]*See 2-10a*
[4]*参考「ウ」がないことを逆に書いて*

Above: Christ at Simon the Pharisee *(1618-1620 painting by Peter Paul Rubens, Oil on canvas transferred from wood, 189 x 285 cm)*

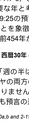
4) ヘロド王の治世の第18年は紀元前20年とされていますが、これは彼の最初の年が紀元前37年とされているからです。これは、ヘロドがエルサレムを征服した日付として非常に広く受け入れられているものですが、ヘロドが正式に王に任命されたのは紀元前40ー39年からもしれず、その場合、彼の18年目はそれよりも早いことになります。しかし、ユダヤ人はヘロドがエルサレムを征服する前に王として認められることはありませんでした。また、ユダヤ人であるヘロデ自身も、自分の歴代年号を紀元前37年以前に計算することはありませんでした。これは、イエスの誕代の西暦27年と完全に一致し、ヘロデの18年目は紀元前20年で、ダニエルの言葉を実現しています[1]。ヘロドとイエスの時代のユダヤ人が、アルタクセルクセス第20年の第7年まで正確にさかのぼって、ダニエルの預言の62週が神殿再建を始めたヘロデの18年目に対応していることを知ることができたかどうかは、私たちにとっては はんどあり得ないことです。しかし、**紀元前20年**から西暦30年までの49年間（または7週、ダニエル9:25）を見ることができるのは、現代の私たちにとって証拠のいくつとなります[2]

[1]*Paragraph 4-3, last sentence, above;*
[2]*参考「ウ」がないことを逆に書いて*

Above: Descent from the Cross (centre panel), O.-L. Vrouwekathedraal, Antwerp *(1612-1614 painting by Peter Paul Rubens, Oil on panel, 421 x 311 cm)*

5) 注目されている1紀元前454年、つまり紀元前458/457年から数えて7年間のうちの「週の半ば」の年です。その正確さは私たちの信頼にとって全く重要であり過ぎません。しかし、紀元前458年と紀元前457年の真実性については、数文初れないほどの論文が書かれています。ダニエル書の「が出され」という言葉の意味は、ユスラがエルサレムの神殿で奉仕活動を再開したことに当てはめられる 西暦30年までの49年間（または7週、ダニエル9:25）を見ることができるのは、現代の私たちにとって、「が出され」という言葉の別解釈として、アルタクセルクセス第20年にネヘミヤがエルサレムに遠征したこと、つまり紀元前454年または紀元前445年とする説がよく提案されています[1]。紀元前445年という低い年代に合わせるために、1年を360日だけに短縮し、365日の短縮年を提案することを提案する作家もいます。これは、イエスの聊刑の日付について一般的なコンセンサスが多い。ダニエル9章の予言の成就を明らかにするためにきっぱり が発列しているからである。中間の語、つまり正確の語を選ぶことは賢明ことです[2]。私たちは、ダニエル9:24-27が成就したと見る正当な理由があります。

[1]*参考の年代表記法である紀元前454年の日付に基づいて。紀元前445年はアルタクセルクセスの20年目であり、紀元前454年をアルタクセルクセスの7年目とすることもその根拠となりうる。*
[2]*参照 8:12-20*



Above: Simeon and Anna Recognize the Lord in Jesus, Kunsthalle, Hamburg *(c. 1629 painting by Rembrandt Harmenszoon Van Rijn, Oil on wood, 56 x 44 cm)*

6) 私たちは、ダニエル書を預言書と捉えて検討しているのに対して、イエスの宣教と聊刑によって、その預言がかなまざる形で成就したことをすでに見ています。「週の半ば」については、これまで考えてきたことは以外にも様々な方法で考えることができます。というのも、預言的な言葉で「週」とは、単にフつの時間の単位を意味しており、例えば、7日の週、7個の年数、その他の期間のフつ必ずがあります。ダニエルの預言では、「週の半ば」で戦争を始める預言に該当する期間が、第70週なのか、それとも他の期間なのかは明記されていません。しかかって、ユ ラ・エラの70年という期間、イエスの生誕から西暦70年までの74年間、さらにイエスの生誕から西暦70年、マ人とユダヤ人が対峙して戦争を始める西暦66年までの期間（西暦66ー73年）を考えることができます。これらはすべて約70年の期間であり、それゆえに「週」となります。その真ん中に近い西暦30年にイエスが殺さ

れ、西暦70年には犠牲と贈り物の提供が中止されました。なお、ユダヤ語の「週」は単に「7」という意味です。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

4[10] 紀元前6年から西暦30年までは35年しかなく（0年は存在しない）、西暦30年から第一次ローマ・ユダヤ戦争が始まった西暦66年までは36年なので、西暦30年はこの70年の「週の半分」にも近いのです。ネロは、第5代ローマ皇帝で、西暦54～68年まで統治しました。これは、第2テサロニケ2:1-9で預言されていた、終末の前に到来する「不法の者」の成就にふさわしい人物です。また、ダニエル9:27の「荒廃をもたらす者」は、70年にティトゥスがエルサレムを破壊することで成就します。ダニエルの預言はメシア的なものであり、私たちはイエスを待っているのだから、その後の成就は私たちの時代に期待される。紀元前6年（イエスの誕生）から西暦33年（異邦人招請開始）までの37年間は、西暦33年から西暦70年までの37年間とほぼ同じであるため、ここでも「週の半ば」の働きが見られ、この場合の「週」は西暦74年または西暦75年となります。マサダは西暦73年から74年にかけて包囲されたと考えられているので、キリストの誕生からマサダまでは77年から79年の別の「週」となり、この「週」の「半分」は西暦33年から間もなく、西暦34年頃になります。つまり、1世紀の間にも、多くの成就が見られるのです。

Above: Adoration of the Magi, Musée des Beaux-Arts, Rennes
(c. 1650 painting by Bartolomeo Biscaino, Oil on canvas, 124 x 173 cm)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

4[11] ダニエル9:24-27に関して、紀元前6年以上にメシアの誕生年を想像するのは難しいでしょう。もちろん、も上に述べたように、土星の近くに木星があり、月もあるという天文学的な整合性もあります。ユダヤ人はメシアが天地創造から6千年目に到着すると考えていましたが、私たちのグリーネアロジーでは紀元前5550年でした。したがって、イエスはアダムの5000年以上後に時間通りに到着しました。このことがユダヤ人が聖なる書物を改変する原因になったことは、前作で述べたとおりです。イエスの生涯における1世紀の出来事は、ダニエル9:24-27以上のことが成就していますが、その中でも、市民の日付がどのようにして充足感をもたらすのかを調べました。このように、ダニエルの預言は、西暦30年（磔刑）、紀元前6年（キリストの誕生）、そして西暦70年のエルサレムのイスラエル第二神殿の終焉までの市民の歴史を調和させるのに役立ちました。異邦人招聘の年（西暦33年）でさえ、ローマ・ユダヤ戦争開始の年（西暦66年）の数字のちょうど半分（コモン・エラの数字で）なのです。また、西暦70年以前にウリムとトンミムがアザゼルのために出てきた40年は、西暦30年の磔刑を意味します[1]。

[1](*エゼキエル 4:6, see Paragraph 4-12a, below*)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

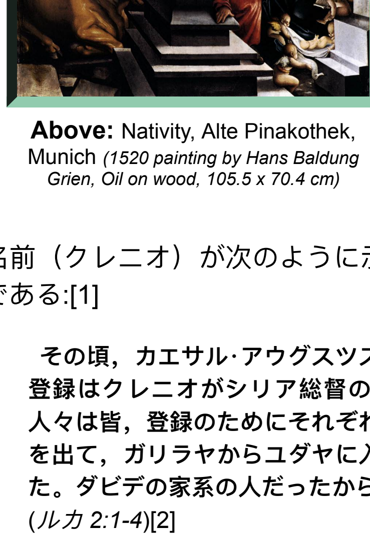
4[12a] ダニエル9章2節では、エルサレムの壊滅に関して預言された70年について言及しています。これは、紀元前608年（BG）の「エホヤキムの治世の初めごろ」にエレミヤが語った言葉から始まり、紀元前539年にキュロスがバビロンを占領し、紀元前538年に王としての正式な1年目を迎えたときに成就した年数です[1]。最も興味深いのは、エルサレムが破壊されたコモン・エラの西暦70年という年が、まったく同じ「70」という数字を持っていることで、創造主の神の知恵を示しています。共通支配時代の始まりを選んだのは西暦1年よりずっと後の人間の仕事であり、エホバだけがこのような出来事を許すことができたのです。キリストの誕生年も、エホバが許可した後の選択によって、コモン・エラに基づいて取られた数字が知恵を示すようになった例である。紀元前6年には、イエスが「人の子」であることを示す数字として、神の「7」よりも1つ少ない数字が表示されている[2-4]。西暦30年の磔刑からエルサレムが破壊された西暦70年までの40年は、ユダの日が40年であることに関して、エゼキエル4章6節も満たしています（1-11参照）[5]。このように、ダニエル9章の預言は、1世紀の出来事や "であるメシア "によって成就された唯一のものではありません。しかし、ダニエル9章は、1世紀に適用される、そしてイエス・キリストに適用される、私たちのブレスド・グリーネアロジーを確認します。

4[12b] これは、イエスの誕生、バプテスマ、宣教、死、そしてそれらの日付がヘロデの神殿再建（紀元前20年）、ヘロデ・アグリッパ1世の死（西暦44年）、ティベリウス・カエサルによるセヤヌスの殺害（西暦31年）、ローマ人とユダヤ人の間の戦争（西暦66-70年）、マサダ（西暦73-74年）とどのように関連しているか、そしてダニエルの予言がこれらすべてにどのような光を当てているかについて、イエスを詳細に研究する最初の試みです。

[1](*エレミヤ 27:1,6,7*)
[2](*啓示 5:6*)
[3](*マタイ 20:28*)
[4](*歴代第二 21:20*)
[5](*Paragraph 1-11, above*)

第4章结束：数値的に内部の端点として発見されたダニエル

第5章：公明正大なラムジーが勇気づけられる話をしてくれた



Above: Nativity, Alte Pinakothek, Munich *(1520 painting by Hans Baldung Grien, Oil on wood, 105.5 x 70.4 cm)*

And it is like a bridegroom when coming out of his nuptial chamber; It exults as a mighty man does to run in a path. (*Psalms 19:5, New World Translation (1984)*)

太陽は夫婦の寝室から出てくる花婿のよう。 喜び勇んで走路を進む強靭な人のよう。
(詩編 19:5, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020)

5[1] さて、ダニエルの預言を確認し、それがイエス・キリストの時代とどのように関連しているのかを感じ取ったところで、イエスの誕生とその歴史的、市民的背景についてもう少し調べてみるのもよいかもしれません。Was Christ Born at Bethlehem?-- A Study on the Credibility of St. Luke, ルカ書（第2章1節から4節）の中で、シリアに関連した名前（クレニオ）が次のように示されているルカの証人についての興味深い研究である:[1]

> **その頃，カエサル·アウグスツスから全土の住民に登録の命令が出た。（この登録はクレニオがシリア総督の時に行われた最初のもの+だった。）それで人々は皆，登録のためにそれぞれ自分の町に出掛けた。ヨセフも，ナザレの町を出て，ガリラヤからユダヤに入り，ベツレヘムと呼ばれるダビデの町に上った。ダビデの家系の人だったからであり。**
> (*ルカ 2:1-4*)[2]

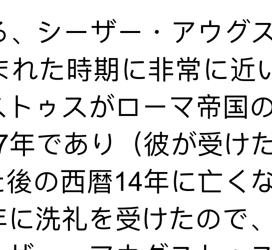
上記の箇所は、ご存知の通り、イエスの誕生に関する物語の始まりであり、シリアの総督について言及しているところが、何よりも魅力的な部分である。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), by Sir William Mitchell Ramsay*)
[2](*ルカ 2:1-4, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020*)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

5[2] ルカのこの発言で興味深いのは、クレニオ総督と、クレニオが総督だった時代に起こった第一次登録に関するものです。つまり、**1回だけではなく、一連の登録があり**、ルカはそのことを知っていたということになります。この時代の市民の記録は完全に保存されていないので、ルカの事実を確認する人がいる可能性は低いということを覚えておく必要があります。ですから、現代の批評家がこのクレニオに関する記述に基づいてルカの信憑性を攻撃するとき、私たちはルカが自分の時代について知っていたことについての信仰を堅持することができます。ルカよりも評判の悪い現代の批評家に基づいてルカを評価するのは、非常に不合理であると思われます。しかし、私たちは市民の記録を調べることで利益を得ることができます。彼は、ルカ2:2の記述に示唆されているように、定期的な登録と呼ばれるものを徹底的に調べ、ルカが総督としてクレニオの名を挙げていることに起因する困難について説明を加えています当時はウァルスが総督として統治していたことが知られているようです[1]。ラムゼイ氏は、R・S・プール氏が提案した別の解決策は、彼自身がこの難問を解決するために提案したものと実質的に同じであり、また同時に提案したものであると述べている。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 247, by Sir William Mitchell Ramsay*)



Above: The Adoration of the Shepherds, Galleria degli Uffizi, Florence *(1476-1479 painting by Hugo Van Der Goes, Oil on wood, 253 x 304 cm)*

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

5[3] ルカの福音書2章1節にある、シーザー・アウグストゥスから出された命令についての記述は、イエスが生まれた時期に非常に近い時期にあるので、紀元前6年頃と考えられます。アウグストゥスがローマ帝国の初代皇帝として統治を始めたのは、彼の名の通り紀元前27年であり（彼が受けた名誉ではありません）、ティベリウスが共同皇帝になった後の西暦14年に亡くなったことは公の記録です。イエスはティベリウスの第15年に洗礼を受けたので、イエスが30歳の時に洗礼を受けたことから、イエスはシーザー・アウグストゥスの支配下で生まれたことがわかります。つまり、ルカ2:1のアウグストゥスに関するルカの記述は、ルカ3:1の記述と明らかに一致しており、ローマ支配の時代についての明確な知識を示しています。これは古代の歴史家の間では一般的に見られないことで、ルカの記述が本物であることを示しています。したがって、クレニオに言及したルカは、イエスの誕生した紀元前6年当時のシリアの政府高官について、重要な発言をしていると見られる。ラムジー氏の著書は、イエスの誕生年に関するルカの信憑性についての論理的かつ印象的な論考である。

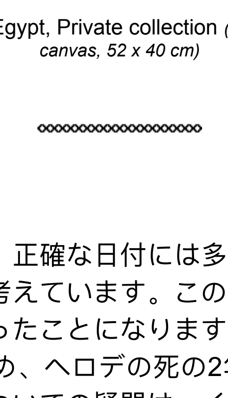
◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

シリアの総督としてのクレニオ

5[4] 当時の市民の記録を利用して、事実の可能性を立証したり、時には様々な年代を補間することも可能です。ですから、クレニオがシリアの総督であるというような裏付けのない事実が記載されていると、ルカという出典の信頼性が疑われてしまいます。問題は、その事実の主張を検証することができるかどうかです。クレニオがシリア総督だった西暦6～7年には有名な国勢調査が行われていますが、これではイエスにとって遅すぎます。ルカの福音書1章5節によると、バプテスマのヨハネがゼカリヤの妻エリザベトに宿り、イエスが聖霊によってマリアの胎内に着床したのは、ヘロデがまだ生きていた頃（紀元前4年以前）であった。つまり、イエスが生まれた時に行われた国勢調査は、コモン・エラの変わり目ではなく、その前に行われたということです。問題は、クレニオはシリアを二度統治したのかということです。ルカの知識は、彼が誤りを犯して、一方の国勢調査を他方の国勢調査に置き換えたとは考えられないほどのものです。一方で、もしそうであれば、ウィリアム卿が言うように:

> **寓話を事実と勘違いし、その勘違いを最も重大な誤りで支えようとする作家は、歴史的権威としての信用を維持することはできません。**
> **(*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 21, by Sir William Mitchell Ramsay*)[1]**

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 21, by Sir William Mitchell Ramsay*)



Above: Rest on the Flight into Egypt, Private collection *(1755-1760 painting by Noël Hallé, Oil on canvas, 52 x 40 cm)*

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

5[5] この時代のすべての学者は、正確な日付には多くの違いがあるものの、ヘロデ王は共通時代の前に死んだと考えています。この事実が認められた結果、イエスの誕生は共通時代の前に起こったことになりますが、罪のない少年たちの虐殺はヘロデの存命中に行われたため、ヘロデの死の2年も前に起こったことになるのです。ですから、クレニオについての疑問は、イエスが生まれた年に大きな疑問を投げかけるものではありません。その年が紀元前6年であることは確認されていますが、これは私たちのコモン・エラの1年目のわずか4年と少し前のことです。ラムゼイ氏がこの時代を見事に論じた理由は、シーザー・アウグストゥスが一連の登録を始めていたというもので、この登録リストのパピルスがエジプトに保存されていることからもわかる。紙は湿気の多い気候や、エジプトより北の国では保存がきかず、すべて滅びてしまった。もちろん、ルカのように厳重に保管されていた書物は、他の多くの公的な記録のような運命をたどることはなかったので、このルカの記録に信頼を置く理由の一つとなっている。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

5[6] ローマの影響が、法律と文学の両方において、権威とその表れに対する一般の人々の認識に多くの洗練をもたらしたことは間違いありません。ローマ文明が求めた高度な組織化は、メシアが生まれた時期にふさわしいものでした。ヘロデ王はこの時までに、ヘロデの独立した行動のためにローマ皇帝アウグストゥスの寵愛を失い、アウグストゥスの怒りを受けたヘロデは、日曜日の一番いい服を汚してしまった少年のようになっていました。ヘロデが自らの権限で戦争を起こしたとき、カエサルはヘロデに「これまでは（ヘロデを）友人として扱っていたが」、これからは臣下として扱うと書いた[1]。この手紙の執筆は紀元前8～7年頃と推定されている[2]。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 178, by Sir William Mitchell Ramsay*)

Above: Holy Family with St Jerome, Galleria degli Uffizi, Florence *(1534 painting by Lorenzo Lotto, Oil on canvas, 69 x 88 cm)*

◆◆◆

[3](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), pp. 238-239, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[4](*"Of Jesus and Quirinius," The Catholic Biblical Quarterly Vol. 62, No. 2 (April 2000), p. 279, by Mark D. Smith*)
[5](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 134, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[6](*"The Purpose and Plan of the Gospel of Luke," The Biblical World Vol. 16, No. 5 (Nov., 1900), p. 350, by Ernest De Witt Burton*)

第5章结束：公明正大なラムジーが勇気づけられる話をしてくれた

第6章：ローマ人定期的な登録、アウグストゥス、ルカ

Above: Augustus of Prima Porta, Vatican Museums *(1st century statue by unknown artist, white marble, height: 204 cm (80.3 in))*

From one extremity of the heavens is its going forth, And its [finished] circuit is to their [other] extremities; And there is nothing concealed from its heat.
(*Psalms 19:6, New World Translation (1984)*)

天の一方の果てから出ていき， 他方の果てへと巡っていく。 その熱から隠れられるものは何もない。
***(詩編 19:6, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020*)**

6₁a ルカの福音書を解釈する際に、シリアの総督キリニウスについて言及していることが、後の国勢調査について言及している可能性を認めることで、彼らのように信仰を妥協することは非常に簡単です。というのも、西暦6年にキリニウスがシリアの総督となり、ローマ皇帝アウグストゥスの許可を得て国勢調査を行ったことは、全学者が認めているからです。

6₁b 紀元前6年（11年前）にそれ以前の国勢調査の証拠が残っていないことは、それが行われなかったことを証明するものではありません（証拠がないことは、ないことを証明するもの**ではない**からです）。しかし、まだ証拠が残っていないが、実際に行われたと思われる出来事は数多くあります。なぜなら、記録が欠けていることがわかっているし、すべてが記録されているわけではないからです。市民の記録がすべて保存されているわけではないのは事実であるし、文献で知られているにもかかわらず、紛失したり、滅びてしまった文学作品が多いのも事実である。残っていないが、他の古代文献に参照されている文学作品がある場合、それを参照していた作家が間違っていたと主張することがあるだろうか。これは、コミュニケーションの原理を否定する、考え得る限り最も不合理な考え方である。しかし、神の言葉の場合、それは非常に大きな摂理と考えられており、それにコメントする者は自分の意見を広める絶好の機会と考えられているため、他の人の疑問を補強するような発言をしたいという誘惑に駆られます。

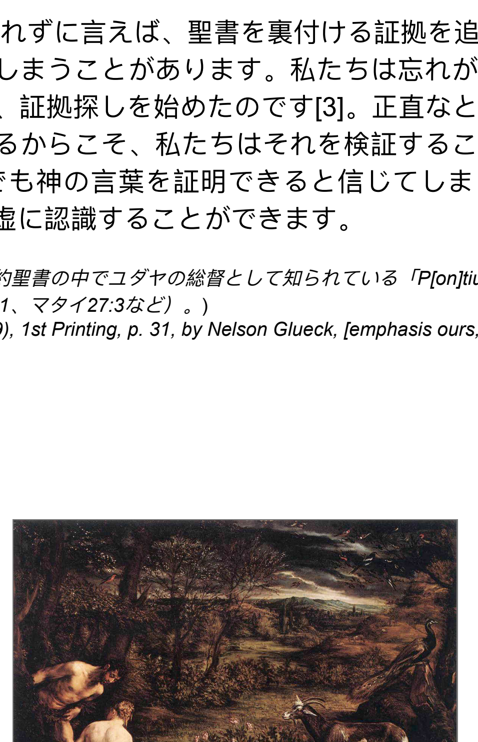
ⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰ

6₂a このような疑念が生じた後に発見されたことによって、神の言葉は何度も証明されてきたことは、何度も繰り返して言うことではありませんが、私たちはこのような誘惑に負けてはいけません。疑われていたポンテオ・ピラトが、後に発見されて歴史的人物であることが証明されたのもその一例です[1]。 ネルソン・グルエック氏は、1963年に*タイム*誌の表紙を飾った世界的に有名な考古学者で、彼の著書Rivers in the Desert（1959年）の中で次のように述べています:

考古学上の発見で聖書の記述を覆したものはない。
(*Rivers in the Desert (1959), 1st Printing, p. 31, by Nelson Glueck, [emphasis ours, Ed.]*)[2]

6₂b しかし、誤解を恐れずに言えば、聖書を裏付ける証拠を追求することが、必要以上に重要になってしまうことがあります。私たちは忘れがちですが、そもそも聖書があるからこそ、証拠探しを始めたのです[3]。正直なところ、聖書が神の霊感を受けた言葉であるからこそ、私たちはそれを検証することに関心を持つのです[4]。 どんな証拠でも神の言葉を証明できると信じてしまうのは、見当違いの野心であることを謙虚に認識することができます。

[1](*ピラト・ストーンは、新約聖書の中でユダヤの総督として知られている「P[on]tius Pilate」の名前を記した唯一の現代の碑文です（ルカ3:1、マタイ27:3など）。*)
[2](*Rivers in the Desert (1959), 1st Printing, p. 31, by Nelson Glueck, [emphasis ours, Ed.]*)
[3](*cf. イザヤ 49:15*)
[4](*テモテ第二 3:16*)



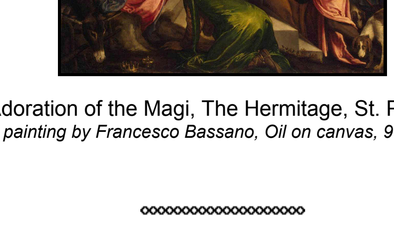
Above: Garden of Eden, Galleria Doria Pamphilj, Rome *(1570-1573 painting by Jacopo Bassano, Oil on canvas, 77 x 109 cm)*

ⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰ

6₃a 秤の上の塵のように、私たちの議論はほとんど意味がありません[1]。しかし、私たちは私たちの創造主エホバに私たちの存在を負っているので、彼の言葉を検証するための努力も彼に負っているのではないでしょうか? もしイエスが西暦6年に生まれていたら、ルカが言うように30歳くらいではなく、洗礼を受けたときには20歳くらいになっていたはずです（つまりティベリウス暦15年）[2]。ですから、このような推論は、聖書の本文そのものから大きく逸脱しているように見えます。しかし、このような逸脱は、今後の研究をすべて無意味なものにしてしまいます。なぜなら、もし聖書が真実でないなら、それ以上のテストは必要ないからです。これが、神の言葉をテストすることが間違っているという理由である[3,4]。

6₃b イエスが生まれた当時、学者の間では一致しているようですが、シーザー・アウグストゥスがローマ皇帝として君臨しており、その治世のある時点で、強制的な登録制を導入したという点で一致しています[5]。ラムジー氏は1898年の著書の中で、同時期に**「ローマ帝国時代のエジプトで定期的な登録が行われていたことを発見した」**と**独自に**発表した3人の学者の名前を挙げているので、このような登録は西暦1898年よりも前の研究で発見されています。これらの登録は、「後のインディクティオのシステムのように15年ではなく」、**むしろ14年**のサイクルで定期的に行われていた[6]。アレクサンドリアのクレメンスは、西暦150年から西暦215年の間にエジプトに住んでいた人物であり、ラムジー氏は、シリアの登録制度はキリストの誕生時に起こった「その登録から始まった」という明確な意見を述べていると引用している[7]。

[1](*イザヤ 40:15*)
[2](*ルカ 3:1*)
[3](*ルカ 4:12*)
[4](*マタイ 4:7*)
[5](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), pp. 123-130, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[6](*Ibid., p. 131*)
[7](*Ibid., p. 129*)



Above: Adoration of the Magi, The Hermitage, St. Petersburg *(1567-1569 painting by Francesco Bassano, Oil on canvas, 98 x 129 cm)*

ⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰ

6₄a エジプトの周期は、シリアとは異なるかもしれないが、ラムジー氏は、紀元前23年、紀元前9年、西暦6年、20年、34年、48年、62年、76年、90年、104年、118年、132年、146年、160年...西暦328年[1]。始まりはアウグストゥスの時代（紀元前27年から紀元前14年）。シリアの場合、クレメンスが示唆しているように、登録は紀元前23年より後に始まっており、ラムジー氏は、発見されたエジプトの国勢調査用紙の断片は、彼の著書の時点では「西暦20年」より前の日付にはなっていなかったと述べている[2,3]。しかし、クレメンスが2世紀末頃にエジプトで流行っていた意見を示したり、代表したりする限り、それを始めたのはシーザー・アウグストゥスである[4]。

6₄b 国勢調査の最も古い例は、上に引用したように、現存する断片の中ではティベリウス・カエサルの治世下の西暦20年であるが、国勢調査サイクルの開始時期として予測される紀元前23年は、アウグストゥスの公式な皇帝の称号の1年目である紀元前23年6月27日と一致しており、登録サイクルはエジプトで、あるいはエジプトだけのために始められたものではないことを示している[5]。このことは、アウグストゥスが紀元前30年8月29日からエジプトを支配していることから、この日から7年後に始まる14年周期は、単にエジプトに由来するものではなく、論理的には帝国全体で発生するものであることが明らかである[6]。

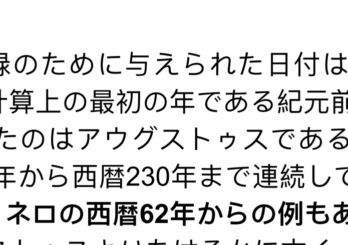
[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 134, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[2](*Ibid., Preface, p. x, bottom, Postscript, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[3](*Ibid., p. 129*)
[4](*Ibid., pp. 129-130*)
[5](*Ibid., p. 140*)
[6](*Ibid., p. 141*)

ⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰ

6₅a **このような推論に基づけば、アウグストゥスの最初の登録年は、**紀元前23年にtribunicia potestas**の任期を開始してから14年後に開始された可能性が高いと考えられますこ。**彼の例は、一連のローマ皇帝の中で、摂政の年をこのように計算した最初の皇帝であり、この時期以降、皇帝は「コモンズのチャンピオン」として構成される力を持つようになります[1]。最初の登録に必要な組織は、（ラムジー氏が言うように）在職年数の開始から紀元前9年の「命令が出た」まで14年遅れた理由として提案されるかもしれない（ルカ2:1参照）。[2]ルカは「この登録は…**最初**のものだった」と述べている[3]。

6₅b 紀元前9年が最初の登録年であることは、紀元前19-18年のエジプトで「異なる様式」の登録用紙が使用されていることからもわかります[4,5]。このような異常さは、14年周期の年（紀元前の年では23、9）が紀元前19年や紀元前18年と一致しないことにあり、このようなの紀元前9年の10年前の国勢調査は、周期の開始に先行しているため、容易に調和する。このような論理によって、ラムジー氏は、クレメンスがキリストの生誕日に最も近い周期である前9年に開始することに到達したのと同じ点に到達しているのである[6]。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 140, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[2](*Ibid., p. 141, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[3](*ルカ 2:1,2*)
[4](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 139, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[5](*Ibid., p. 141, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[6](*Paragraph 6-3 and 6-4a, above*)

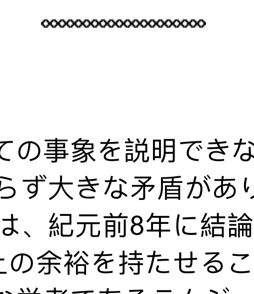


Above: Landscape with the Parable of the Tares among the Wheat, Walters Art Museum, Baltimore *(1624 painting by Abraham Bloemaert, Oil on canvas, 100 x 133 cm)*

ⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰ

6₆ 紀元前9年の最初の登録のために与えられた日付は、皇帝アウグストゥスのローマ憲政公国の公式な計算上の最初の年である紀元前23年と14年周期に基づいているので、それを始めたのはアウグストゥスであることは「決定的」である[1]。エジプトでは西暦90年から西暦230年まで連続しており、上述のように西暦20年からの1例もある[2]。**ネロの西暦62年からの例もある**[3]。しかし、戸籍の考え方はエジプトのアウグストゥスよりもはるかに古く、彼はそれを採用しただけであると考えられ[4]。14年周期はアウグストゥスが始めたものである。以上の結論は、確かに、この命令がアウグストゥスによるものであるというルカの記述と完全に一致しています[5]。 残る問題は、登録が紀元前9年ではなく紀元前6年に行われたのはなぜかということです。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 140, by Sir William Mitchell Ramsay-- noting that the 1st official year of tribunician power began with Augustus, in BCE 23.*)
[2](*Paragraph 6-4a, above*)
[3](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), pp. 135-136, by Sir William Mitchell Ramsay*)
[4](*Ibid., pp. 138-139*)
[5](*ルカ 2:1*)



Above: An Angel Telling Joseph in a Dream to Flee to Egypt, Szépművészeti Múzeum, Budapest *(c. 1650 painting by Rembrandt Harmenszoon van Rijn, Oil on canvas, 105 x 83 cm)*

ⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰ

6₇ そもそも、観測されたすべての事象を説明できない理論は、推奨するに値しない。しかし、ここには少なからず大きな矛盾があります。紀元前9年に出されたシーザー・アウグストの命令は、紀元前8年に結論を出すことができるかもしれませんが、登録自体に1年以上の余裕を持たせることができるでしょうか。このズレを解消しようとした著名な学者であるラムジー氏の努力には大いに感謝しています。ある学者は、この問題は争いなく解決できるほど小さな問題だと認めるかもしれません。他の学者は共通してRamsay氏の仕事に注目しています。彼の意見が彼らの間で抜きん出ているのには理由がある。ラムジー氏は、西暦6年（Anno Domini）に**クラニオが2回目のシリア総督府に来て**、パレスチナが**編入されるまで**、パレスチナはまだローマ帝国の一部になっていなかったと述べている（**2回目の登録**の前であることは、ルカ2:2で言及されている「最初の」国勢調査と一致している）[1]。

[1](*Was Christ Born at Bethlehem?: A Study on the Credibility of St. Luke (1898), p. 143, by Sir William Mitchell Ramsay*)

ⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰⴰ

6₈a ルカの福音書2章2節の別の解釈を選択することが困難であるという事実がなければ、私たちはここでほとんど乗り越えられない困難に直面するでしょう[1]。**この最初の登録**は、最も信頼できる証人である医師ルカの言葉を借りれば、**クラニオがシリアの総督であった**ときに行われたものであり、他の解釈による困難を

ニウ ルンボ ウ ハ ヒ ヒ ヒ

6]。この飢饉の年代を決めるためにヨセフスが二「州知事のプロクラトル」[procurator, 原語のギリシャ語では「ἐπίτροπον」]（一ではなく二）に言及していることから、その時期（は上で指摘）したように早ければ西暦44年であり、ヘロデ・アグリッパ1世のが死んだ年に相当することがわかる[7,8]。ライナー・リースナー氏(1998年)のペン: **「アグリッパの治世の第8年（西暦37年から）までのコインも西暦44年を確認している」**、ヘロデの死として、としている[9]。リースナー氏は、我々と同様に、磔刑を西暦30年としている:

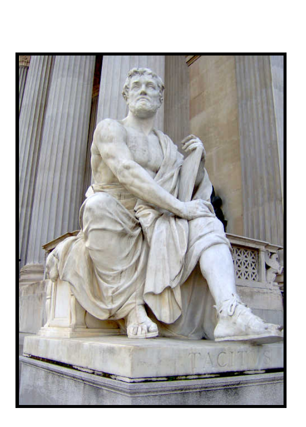
> **A.D.30年[西暦]というのは、現代の学者の多くが、イエスが磔刑にされた日として、圧倒的に可能性が高いと考えているようです。**
> **(*Paul's Early Period: Chronology, Mission Strategy, Theology (1998), p. 58, by Rainer Riesner, transl. by Doug Stott*)[10]**

7[4b] リースナー[Riesner]氏は、飢饉の年代測定についてブルース氏に同意しています:

> **ユダヤで深刻なストレスがあったことを示す最も有力な証拠は、A.D.44-46[西暦]年にあります。**
> **(*Ibid., p. 134*)[11]**

7[4c] リースナー氏の著書は、**大きく議論されているこのテーマについては最も メジャーな調査です**として長く残るであマギステルな作品として賞賛されており、少なくとも、いくつかの研究に値するものである[12]。

[1](*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick*)
[2](*Ibid.*)
[3](*"Christianity Under Claudius," Bulletin of the John Rylands Library 44 (March 1962): 309-326. p. 309, by F.F. Bruce*)
[4](*使徒 11:28*)
[5](*Antiquities, XX, Ch. 5, sec. 2, by Josephus*)
[6](*Antiquities, XX, Ch. 1, sec. 1, by Josephus*)
[7](*The Cambridge History of Judaism, Volume 3, The Early Roman Period (2008), Chronological Table, p. xxxvi. It states the year of death of Herod Agrippa I as 44 CE.*)
[8](*Paragraph 2-5, above*)
[9](*Paul's Early Period: Chronology, Mission Strategy, Theology (1998), p. 117, by Rainer Riesner, transl. by Doug Stott*)
[10](*Ibid., p. 58*)
[11](*Ibid., p. 134*)
[12](*Statement by Martin Hengel on the front cover, as mentioned in the very positive review in: "Reviewed Work: Paul's Early Period: Chronology, Mission Strategy, Theology by R. Riesner," Review by: James D. G. Dunn, Novum Testamentum Vol. 42, Fasc. 3 (Jul., 2000), pp. 296-297*)



Above: Tacitus, Austrian Parliament Building, Vienna
(Dec 05 2009 photo of statue by unknown artist, white)

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

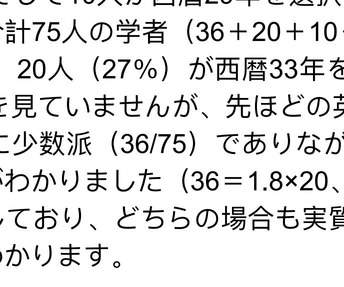
7[5a] 私はここでチャドウィック氏を引用し、チャドウィック氏はブラウン氏を引用し、ブラウン氏はジョセフ・ブリンツラー氏の1969年の研究を引用しています。**100人の学者のうち53人が「AD30（西暦年）がイエスの死の日に違いないと主張している」。**[100人中：]

> それぞれ1人から3人の学者が、26年、27年、28年、31年、32年、36年を選んだ。13人が西暦29年、**53人が西暦30年**、24人が西暦33年を選択した。
> *("Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick,* ***who cites:****The Death of the Messiah, 2 vols. (New York: Doubleday, 1994), 2:1375, by Raymond E. Brown*)[1]

7[5b] チャドウィック氏は、「調査した学者の絶対多数が西暦30年を支持していることは明らかであり、西暦33年よりも西暦30年の方が**2対1以上**の割合で好まれている」とコメントし、調査した学者の「絶対多数」が西暦30年を支持しており、西暦29年よりも西暦30年に**4対1**で傾いていると述べている[2,3]。

7[5c] ブリンツラー氏によるDer Prozess Jesuの英訳版（The Trial of Jesusと呼ばれ、1959年の研究が72-73ページに掲載されている）では、人数に若干の違いがあるが、西暦30年を「宣言」する学者が大きい方の数字36人と多く、20人が西暦33年を、そして10人が西暦29年を選択している。9人はこれら以外の年を選択しており、合計75人の学者（36＋20＋10＋9＝75）、うち36名が西暦30年を支持し（48%）、20人（27%）が西暦33年を支持していることになります。私は1969年の研究を見ていませんが、先ほどの英訳を私なりに検討したところ、西暦30年はわずかに少数派（36/75）でありながら、西暦33年よりも80%多く支持されていることがわかりました（36＝1.8×20、1.8＝100%＋80%）。初期の版は後期の版を支持しており、どちらの場合も実質的に多くの学者が西暦30年を支持していることがわかります。

[1](*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick,* ***who cites:****The Death of the Messiah, 2 vols. (New York: Doubleday, 1994), 2:1375, by Raymond E. Brown*)
[2](*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick [emphasis ours, Ed.]*)
[3](*Der Prozess Jesu (1969), pp. 101-102, by Josef Blinzler,* ***cited in:*** *"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick*)
[4](*The Trial of Jesus (1959), pp. 72-73, by Josef Blinzler, transl. from the second revised and enlarged edition by Isabel and Florence McHugh*)

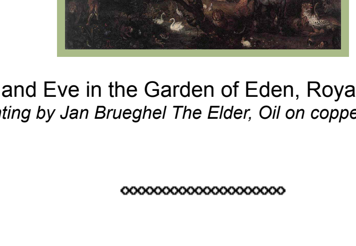


Above: Elohim Creating Adam, Tate Gallery, London
(1795 painting by William Blake, Watercolour, 420 x 535 mm)

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

7[6] 磔刑の日付の問題は、私たちが発見したように、ダニエル9:24-27の予言から正確な情報を得ることができます[1-4]。したがって、単に多数決で勝ち取ったものではありません。それにもかかわらず、学者の支持を見るのは心強いものです。ただ、学者が一般的な見解を代表しているとは限りません。だからこそ、西暦30年が最良の日付、あるいは唯一の日付と思われていても、常に提示されているわけではないのです。ブリンツラー氏自身も、この日付は西暦30年であると主張しています。チャドウィック氏は、このドイツ人学者の研究以来、他の著名な学者も西暦30年を支持するリストに加えられていることに注目していますが、これは学者のレイモンド・ブラウン氏も同様です。私の記事Trueで述べたように、真実の歴史への可能な道を「一つ」見つけるだけで、出来事の歴史的真実を確認することができるのです[5]。

[1](*Paragraph 4-11, above*)
[2](*Paragraph 4-8, above*)
[3](*Paragraph 2-11b, above*)
[4](*Paragraph 2-9, above*)
[5](*True (2018), Ch. 8 paragraph 5, by Ward Green*)



Above: Adam and Eve in the Garden of Eden, Royal Collection, Windsor
(1610s painting by Jan Brueghel The Elder, Oil on copper, 48.6 x 65.6 cm)

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

7[7] イエスの場合は、ヨセフスが**ユダヤ古代誌**の中で2回言及しているが、イエスをメシアとして言及していることは、しばしばキリスト教的な再編集が疑われる。ヨセフスはタキトゥスと同様にイエスの復活後に生まれているが、ユダヤ人であるために聖書を知っている。旧約聖書でユダヤ人はモーセの後継者であるメシアに救いを期待するように教えられていたのだから、ユダヤ人がメシアに言及することの方が注目に値する[1,2]。さらに、キリスト教徒もユダヤ人も嘘をついてはいけないという命令が与えられているのだから、嘘つきを非難するのは馬鹿げている[3,4]。むしろ、嘘つきは聖書の訓練を受けずに利己的になってしまった人たちであることが多い[5]。人間の不完全さは、メシアと人間の罪を取り除く彼の犠牲の必要性を強調している[6,7]。福音書の記述がなくても、私たちには証言がある[8]。1838年には、ヨセフスの著作は**「パレスチナの歴史と古代のための」**神の言葉に次ぐ**「主要な資料」**であると述べられていた[9]。

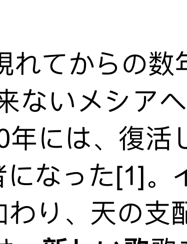
[1](*申命記 18:15*)
[2](*イザヤ 9:6*)
[3](*出エジプト記 20:16*)
[4](*ヤコブ 3:14*)
[5](*テモテ第二 3:13*)
[6](*ヨブ 33:24*)
[7](*コリント第二 5:14-15*)
[8](*啓示 5:6*)
[9](*Biblical Researches in Palestine, and in the Adjacent Regions (Journal of Travels in the Year 1838) (1838), Appendix I, vol. 2, p. 533, by E. Robinson and E. Smith*)

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

Above: Johannes Kepler *(1610 painting)*

7[8] 上記の記述は、ヨセフスについてよりも、聖書について多くを語っています。**パレスチナの歴史を研究するには、実は聖書が最も優れた資料である**と言っているのです。イエスの生涯を描いた2つの福音書、マタイとヨハネは、実際にその出来事を目撃しています[1,2]！ これらの記述、ルカとマルコの書、そしてルカによる使徒行伝の第1章から、私たちはこのイエスについて最も正確な理解を得ることができます。この時代は、イエスの誕生年に近い年から起算されています。年号は間違っていても、イエスの時代を示すために設立されました。ディオニュシウス・エキシグウスは、西暦525年に、**その年が主の受肉から**525年であると述べた。今日まで、私たちはその同じ推定値から年を計算しています。これは、イエスがメシアであることの何よりの証拠かもしれません。しかし、聖書にはこの同じ事実を証明するものがたくさんあります。聖書に預言されていることはすべてメシアについて成就しなければなりませんでしたが、イエスはそのすべてを成就し、ユダヤの神殿とその奉仕活動に終止符を打ちました[3-5]。

[1](*マタイ*)
[2](*ルカ*)
[3](*マタイ 5:17*)
[4](*ローマ 10:4*)
[5](*マタイ 24:2*)



Above: Model of Herod's Temple in Jerusalem, Shrine of the Book exhibit at the Israel Museum, Jerusalem
(Nov 09 2008 photo)

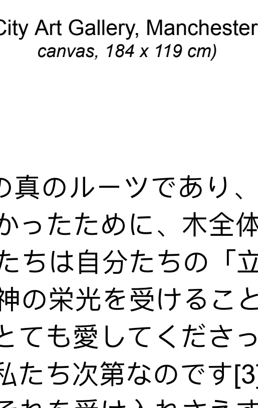
°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°

7[9a] もちろん、イエスがこの世に現れてからの数年間、ユダヤ教の神職の中でキリスト教に抵抗する人々は、まだ来ないメシアへの信仰を存続させようとしていた。イエスが復活した後の西暦30年には、復活したイエスを見たり、その話を聞いたりした多くのユダヤ人が信者になった[1]。イエスは宣教期間中、信じる者に対して、自分との新しい契約に加わり、天の支配者となってイスラエルを裁くことを提案していた[2]。黙示録では、**新しい歌**歌を歌ってい14万4千人と記されている[3]。黙示録4:4では、24人の長老が24の座に座っている[4]。しかし、すべての国、部族、民族、舌から、**誰も数え切れない**の**大群衆が**預言されていた、となりました1935年に地上で認識されている[5,6]。

7[9b] それ以来、「大群衆が」は数を増やしている[7]。信じていないユダヤ人信者は、今でも神に好かれている、戻ってきて最初の時のように彼の選ばれた民となるように、神は好意的である[8]。しかし、他の国々も西暦33年から招待されている[9]。

[1](*使徒 2:41; 4:4; 5:14; 6:7*)
[2](*ルカ 22:29*)
[3](*啓示 14:1-5*)
[4](*啓示 4:4,10; 5:8; 11:16; 19:14*)
[5](*啓示 7:9,10*)
[6](*Jehovah's Witnesses— Proclaimers of God's Kingdom (1993), Chapter 12, pp. 166-170, The "Great Crowd"-- Who Are They?*)
[7](*The Watchtower, Dec 15 1982, Love as a "Bond of Union", Proves to Be "Perfect," pp. 17-22, par. 6*)
[8](*ローマ 11:24*)
[9](*Paragraph 2-10b, above*)

°°°°°°°°°°°°°°°°°°°°



Above: St. John the Baptist, City Art Gallery, Manchester *(c. 1676 painting by Baciccio, Oil on canvas, 184 x 119 cm)*

7[10a] イスラエルはキリスト教の真のルーツであり、国民全体がメシアであるイエスを受け入れることができなかったために、木全体を構成する機会を失っただけなのです[1]。したがって、私たちは自分たちの「立場」に満足してはいけません[2]。すべての人が罪を犯し、神の栄光を受けることができませんでしたが（ローマ3:23）、エホバは私たちをとても愛してくださっているので、エホバの愛の贈り物を受け入れるかどうかは私たち次第なのです[3]。これらの贈り物の一つが身代金の犠牲であり、私たちがそれを受け入れさえすれば、私たちの罪がすべて取り除かれるのです[4]。神はすべての人に、たとえ信じていない人にも与えられます[5,6]。同様に、私たちもすべての人に与えますが、特に私たちの種族に与えます[7]。私たちは、神の聖なる者たちの同胞であることを願っています[8]。悪魔は、私たちの兄弟を嘘をついて非難し、住んでいる地球全体を巧妙に惑わす者です[9-11]。

7[10b] 願わくば、サタンの嘲笑をはねのけることができるように[12]。エホバは、アブラハムの子孫によるすべての国民の祝福を望んでいる[13]。アブラハムの子孫

であるイエス様は、その祝福を私たちに与えてくださいます[14,15]。ときには孤独を感じることもあるが、私たちには兄弟がいるかもしれない[16,17]。エリヤはそのように感じ、自分が7,000人のうちの一人であることを知った。

[1](*ローマ 11:17-20*)
[2](*ローマ 3:9*)
[3](*ローマ 3:24*)
[4](*ローマ 3:29*)
[5](*マタイ 5:45*)
[6](*詩編 145:16*)
[7](*ガラテア 6:10*)
[8](*エフェソス 2:19*)
[9](*啓示 12:9-10*)
[10](*ルカ 8:44*)
[11](*マタイ 4:1*)
[12](*ヤコブ 4:7*)
[13](*創世記 22:18*)
[14](*ガラテア 3:16*)
[15](*マタイ 1:1-16*)
[16](*列王第一 19:18*)
[17](*ローマ 11:5*)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

7₁₁a 一時的な満足では、最大の喜びを得ることはできません[1-5]。パウロは、キリストに仕えることで多くの喜びを得るために、自分の働きの中で多くの苦しみを受けることをいとわなかった人です[6]。自分が認められるためではなく、人を助けるためにやったのだ[7]。

7₁₁b ペテロは、善を行うために苦しむ方がよいことを知っていた[8]。 正しい人の苦悩は多くあるが、エホバはこれらの苦悩のすべてから彼または彼女を解放する[9]。

7₁₁c イエスは弟子たちに、世間では艱難辛苦を経験彼らするが、自分はそれを乗り越えたと言った[10]。エホバについては、天を創造した。尊厳と輝きが彼の前にあるように、力と喜びも彼のものである[11]。

[1](*ガラテア 3:3*)
[2](*ペテロ第一 4:2*)
[3](*ローマ 13:14*)
[4](*創世記 3:6*)
[5](*使徒 20:35*)
[6](*コリント第二 11:23; 12:10*)
[7](*コリント第二 13:7*)
[8](*ペテロ第一 3:17*)
[9](*詩編 34:19*)
[10](*ルカ 16:33*)
[11](*歴代第一 16:26-27*)

Above: Rest during the Flight to Egypt, Pinacoteca, Vatican
(Painting by Francesco Mancini, Oil on canvas, 136 x 100 cm)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

7₁₂a メシアの重要性は、アダムとエバの罪から全人類が失ったもの、すなわち永遠の命の希望を取り戻すために、全人類に提供されるものとしてあります。メシヤの到来時期は、初期の聖書で提供されていた他の識別手段に加えていました。ダニエル9:24-27の予言は、西暦26年と西暦30年が、彼の洗礼と磔刑に予想された年に最も適合することを知る助けとなりましたが、他の学者によって提示された見解は数多くあり、私たちが明らかにした日付の1つ以上を修正しています[1]。

7₁₂b 例えば、ある学者はイエスの宣教期間を2年半としていますが、同じ人たちはヘロデ王の18年目からイエスの宣教の最初の過ぎ越しの祭りまでを46年＋数ヶ月とすることを好んでいます。つまり、ヘロデ王の第18年を紀元前20年の終わり、または紀元前19年の初めとしている。その中には、チャドウィック氏とブリンツラー氏がいます[2,3]。彼らの推論は、彼らと私たちの両方が磔刑の年として与えている西暦30年には影響しませんが、ティベリウスの第1年を西暦14年とする可能性を与えています[4,5]。ダニエルの「週の半ば」は、私たちの意見としては、の方が良いと考えています、彼の宣教の始まりと終わりをそれぞれ西暦26年と西暦30年とし、最初の過ぎ越し祭を西暦28年ではなく西暦27年としていると考えられます。

7₁₂c どちらにしても科学的な論拠はないようですが、それでもダニエル書の成就の必要性は、メシアを受け入れるための第一条件と見なしたいと思いますし、実際にイエスが信じられたという証拠もあります。これはメシアの物語にとって重要なことであり、候補者を拒否する理由は、彼を受け入れる理由よりも優先されます。ここでは、エホバも私たちと同じ視点を持っていると考えています。なぜなら、「週の半ば」は2.5ではなく3.5なので、信者は前者を選択するのです。

7₁₂d ダニエルの「週の半ば」を無視することは好ましくありません。なぜなら、この預言の成就は、すべてのメシアの預言と同様に、私たち信者にとって重要だからです[6]。学者たちは、たとえ彼らが同意したとしても、これを研究し続けます。疑う視点からの奨学金は間違っている。なぜなら、疑う人は自分の結果を信じることさえできないからだ[7,8]。ユーセビアスの時代（西暦260～340年頃）から西暦1905年まで（または千年半）の間、「一般的に受け入れられている」見解は、イエスの宣教期間が3年を超えるというものである[9]。潜在的な、あるいは一般的な反対意見のすべてに反論することは合理的でもなく、不可能でもない--私たちは望むと望まざるとにかかわらず、私たち全員に自由意志を与えられているのだから[10,11]。オッカムのカミソリ[Occam's razor]は、焦点が合っていて明るい見方を支持します[12,13]。

[1](*"The Chronology of Jesus' Public Ministry," The Biblical World Vol. 26, No. 6 (Dec., 1905), pp. 425-430, p. 425, by Clyde Weber Votaw*)
[2](*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick*)
[3](*The Trial of Jesus (1959), p. 74, by Josef Blinzler, transl. from the second revised and enlarged edition by Isabel and Florence McHugh*)
[4](*"Dating the Death of Jesus Christ," BYU Studies Quarterly, Volume 54:4 (2016), by Jeffrey R. Chadwick*)
[5](*The Trial of Jesus (1959), p. 73, by Josef Blinzler, transl. from the second revised and enlarged edition by Isabel and Florence McHugh*)
[6](*ダニエル 9:27*)
[7](*ローマ 14:23*)
[8](*ヤコブ 1:6*)
[9](*"The Chronology of Jesus' Public Ministry," The Biblical World Vol. 26, No. 6 (Dec., 1905), pp. 425-430, p. 428, by Clyde Weber Votaw*)
[10](*ヨシュア 24:15*)
[11](*ルカ 7:17*)
[12](*マタイ 6:22*)
[13](*ルカ 11:34*)

第7章结束：確実な証しでローマを耐えるクリスチャンたち

Above: Adam and Eve, Kunsthistorisches Museum, Vienna *(c. 1485 painting by Hans Memling, Oil on oak, 69.3 x 17.3 cm (each))*

第8章：神はアブラハムの新生児を永遠の日に救い出される

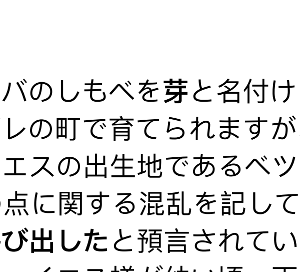
**The orders from Jehovah are upright, causing the heart to rejoice; The commandment of Jehovah is clean, making the eyes shine.
(*Psalms 19:8, New World Translation (1984)*)**

エホバの命令は正しく，心に喜びが生まれる。 エホバのおきては清く，目が開かれる。
(*詩編 19:8, 新世界訳聖書（スタディー版）2019, 2020*)

Above: The Sacrifice of Isaac, Private collection *(17th century painting by Philippe De Champaigne, oil on canvas, 70.7 x 58.8 in)*

8₁ アブラハムが、エホバの命令を受けても、息子のイサクを犠牲にしようとしていたとき、天使によって猶予が与えられました[1]。 アブラハムの子孫であるイエスが、その犠牲を引き受けた[2-7]。エホバによるイエスの天への復活は、イエスに永遠の命を与え、神に次ぐ力を与えました[8-15]。ヨハネは、イエスがエホバだけから生まれた神の言葉であり、他のすべてのものが創られた霊の被造物であることから、「言葉が肉となった」と書いている[16,17]。聖書は、イエスがアダムの罪のために全人類の身代りとなって、自分をへりくだらせ、死に至ったと教えている[18-20]。マタイやヨハネと同様に、ペテロもまたイエスの素晴らしさを目撃した一人であり、彼が『手紙2』で記しているように[21]。**「どの預言も，人間の考えによって語られたのではありません。人が聖なる力に導かれて，神からの言葉を語ったのです」**[22]。ダビデ王の時代には、カナンの地の贈与を含むアブラハムへの約束を覚えていた。[23,24]。ダビデは、イエスの母が子孫を残したアブラハムの息子であり、その血筋から王が生まれることを約束されていた。[25-27]。ジェシーはダビデの父であり、その切り株からは、イザヤによって新**芽**が実ると預言されていました。[28,29]。預言者エレミヤは、ダビデに新**芽**が育ち、その人が正義の人となることに同意しました。[30]。

[1](*創世記 22:11-12*)
[2](*創世記 21:12; 22:18*)
[3](*ローマ 9:7*)
[4](*ヘブライ 11:18*)
[5](*ペテロ第一 3:18*)
[6](*ヘブライ 9:28*)
[7](*イザヤ 53:6*)
[8](*ペテロ第一 3:22*)
[9](*マタイ 28:18*)
[10](*コリント第一 15:25*)
[11](*エフェソス 1:21*)
[12](*フィリピ 2:9*)
[13](*コリント第一 15:24-25*)
[14](*詩編 110:2*)
[15](*ダニエル 2:44*)
[16](*ルカ 1:14*)
[17](*コロサイ 1:16*)
[18](*フィリピ 2:8*)
[19](*マタイ 20:28*)
[20](*コリント第一 15:22*)
[21](*ペテロ第二 1:16*)
[22](*ペテロ第二 1:21*)
[23](*歴代第一 16:15-18*)
[24](*創世記 15:18*)
[25](*詩編 89:4*)
[26](*詩編 132:11*)
[27](*ルカ 1:32*)
[28](*イザヤ 11:1,10*)
[29](*サムエル第一 17:58*)
[30](*エレミヤ 23:5; 33:15*)



Above: The Virgin with the Infant Jesus and St. John the Baptist, Musée des Beaux-Arts, Rennes *(Painting by Lubin Baugin, Oil on canvas, 120 x 93 cm)*

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

8₂ ゼカリヤは預言的にエホバのしもべを**芽**と名付けました[1]。これらの聖句の実現のために、イエスはナザレの町で育てられますが、その意味は**芽生えの町**[2]。預言者ミカは、メシアがイエスの出生地であるベツレヘムから来ることを示していたが、使徒ヨハネはこの点に関する混乱を記している[3-5]。ホセア11:1では、メシアは**をエジプトから呼び出した**と預言されていました、イエス様の場合はそれが実現しまし。すなわち、イエス様が幼い頃、両親はヘロデを恐れてエジプトに逃げ、その後、ヘロデが死んだと聞いて戻ってきたのです[6,7]。エレミヤは子供の殺害について預言していましたが、これはヘロデ王が行った虐殺によって実現しました[8,9]。マタイは2:22でアルケラウスをヘロデの息子とすることで、イエスの誕生時に支配していた「ヘロデ」が**ヘロデ大王**であることを明らかにしています。イエスは、イザヤがメシアの誕生を乙女に託すと預言したように、まだ処女であった母マリアに聖霊が臨み、覆いかぶさったことによって宿った[10,11]。イエスがこれらの預言をすべて満たし、奇跡を起こすことができたことで、彼がメシアであることが明らかになった[12,13]。東方から旅してきた占星術師たちが「星」を見て、イエスが生まれた頃にエルサレムに来て彼を信じたことも前述した[14]。

[1](*ゼカリヤ 3:8*)
[2](*マタイ 2:23*)
[3](*ミカ 5:2*)
[4](*マタイ 2:1,6*)
[5](*ルカ 7:42*)
[6](*ホセア 11:1*)
[7](*マタイ 2:15*)
[8](*エレミヤ 31:15*)
[9](*マタイ 2:17-18*)
[10](*ルカ 1:34*)
[11](*イザヤ 7:14*)
[12](*マタイ 11:5*)
[13](*ルカ 21:25*)
[14](*Paragraphs 3-8a; 3-10, 3-11; 3:12a,b*)

Above: Adam and Eve, Kunsthistorisches Museum, Vienna *(c. 1485 painting by Hans Memling, Oil on oak, 69.3 x 17.3 cm (each))*

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

8₃ メシアがアダムの創造から6番目の千年紀に到着したことは、1日が1000年に相当する週7日制の概念（詩篇90:4）を理解していたユダヤ人の間では予想されていたことでしたが、イエスは紀元前6年、アダムから5544年後のBGに誕生したにもかかわらず、ユダヤ人の指導者たちに拒絶されました（年の足し算では77×72年）。この5544年は、第6千年紀アンノ・ムンディ[AM]（Anno Mundi）の中間点のメシヤが到着すると予想される時期に近く、通常の週の安息日と呼ばれる主の日、つまり休息の「日」である「週」の7日目の前の「日」、つまり千年紀になります。ユダヤ人は、イエスが自分たちの仲間であり、メシアとして預言されているすべてのしるしを示していたにもかかわらず、イエスを拒絶したので、イエスの到来時期に関して厄介な立場に置かれ、それは彼らがメシアの到来を期待していた時期にも非常に近かったので、Preservationの記事にもあるように、彼らは心の中で聖書を変えざるを得ませんでした[1]。 そのため、後世のユダヤ人のマソレティック写本（マソラ本文）は、初期のヘブライ語版を正確にギリシャ語に翻訳したギリシャ語版セプトゥアギンタ（七十人訳聖書）とは異なるものになっています。

[1](*Preservation (2019), by Rolf Ward Green*)

Above: Summer (Ruth and Boaz), Musée du Louvre, Paris *(1660-1664 painting by Nicolas Poussin, Oil on canvas, 118 x 160 cm)*

⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄

84 アダムの創造の年である紀元前5550年は、7と1/7を777倍した驚くべき神の産物に等しいのですが、その理由はエホバだけが知っています。なぜなら、コモン・エラの設計者は、エホバでない限り、5550のことを知らなかったからです。フレデリック3世が戴冠した西暦1452年のハプスブルク王朝から始まった新世界は、この西暦1年という基準点に依存することなく、アダムから7000年後になります。「ゼロ」年はなく、アダムは紀元前5550年3月19日以降に創造され、7000年という神の「週」が完成したのは、西暦1452年のこの頃ですときにコンスタンティノープルが陥落してローマ帝国が終焉を迎えた西暦1453年、フン族のアッティラの侵攻によりの1000年後。西洋帝国の崩壊は、アッティラがイタリアに侵攻した西暦452年とほぼ同じ年に始まっており、イタリアの最後の皇帝は西暦476年に退位した。聖書の主の日（審判の日）は、7000年の週の7日目にあたる1000年の期間とされており、メシアは6日目に到着するとされている。主の日は、キリスト教では日曜日とされていますが、これはユダヤ教の週の終わりである土曜日の安息日が7日目の休息日となった後、新しい週の最初の日とされています。イエスは「父は働き続けておられた」と述べており、これも安息日の前であることと一致する[1]。イエスは安息日に奇跡を行い、ユダヤ教指導者の中で敵を激怒させた。しかし、1000年という大きなスケールでは安息日ではなかった。

[1](*ルカ 5:17*)

Above: Enea Silvio Piccolomini Presents Frederick III to Eleonora of Portugal, Fresco Piccolomini Library, Duomo, Siena, Italy *(1502-1508 painting by Pinturicchio, Fresco, detail)*

⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄

85 預言的な意味では、メシアは、物事のシステムの終わりが来る前、安息日が始まる前に、6日目に癒しの業を行うことになっていました。したがって、千年の安息日、すなわち審判の日は、（ヨセフとオン[Joseph and On]で見たように）イエスから約400年後に始まる期間と考えることができる。その千年安息日の後、「ルネサンス」が始まりました。西暦1452年にはレオナルド・ダ・ヴィンチが誕生し、当時の誰よりもルネサンスを代表する人物となりました。アッティラが死んだのは西暦453年、ビザンチウム（コンスタンティノープルまたはイスタンブール）が陥落した西暦1453年の1000年前です。ユダヤ教の神殿崇拝制度は西暦70年に終わりましたが、これらの出来事と時系列の一致は、イエスがメシアであることを示しています。彼の復活は、重要なこととして、イエスが永遠に生きて私たちを助けてくれること、そして、すべての人が裁かれる復活が来ることを私たちに保証しているのです[1,2]。ユダヤ教の制度が終わったように、今日の世界の悪しき制度も霊的な火によって滅びるのです[3]。この希望は、私たちクリスチャンを強くし、喜びをもたらしてくれます[4]。

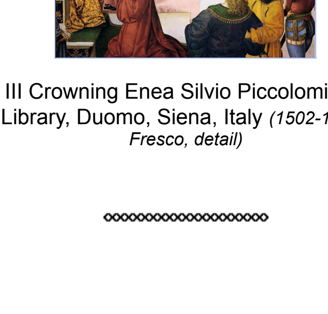
[1](*使徒 17:31*)
[2](*使徒 24:15*)
[3](*ペテロ第二 3:12*)
[4](*コリント第二 12:10*)

Above: Moses Striking the Rock, Metropolitan Museum of Art, New York *(1596 painting by Abraham Bloemaert, Oil on canvas, 80 x 108 cm)*

⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄

86 ユダヤ語の聖書には、イエスの地上の生活に相当する出来事がたくさんあり、ギリシャ語の聖書はそのような真実を記録するために書かれました。それ以前のヘブライ語の聖書の成就は、メシアをどれだけ特定できるかに大きく関係しています。しかし、この記録自体、特に福音書は、現代の人々が自分でこれらの事実を調べることを可能にしています。モーセの時代、イスラエルが40年間荒野をさまよっていたとき、イエスは約束の地に着くまで、昼は「雲の柱」、夜は「火の柱」という形で彼らを導いていました[1-4]。モーセが人生の終わりに近づいても、この同じ柱は彼らと一緒にいて、エホバが彼らを赦すために、また「彼らを処罰彼らが罪深いことを行ったから」を実行するために、彼らに語りかけるガイドとしての役割を果たしており、キリスト自身を表す霊的な岩塊でした[5-7]。荒野の放浪が終わったのは、以前にBG年表で紹介したように、紀元前1452年で、これは西暦1452年から支配していたハプスブルグ家のフレデリック3世の共通時代の年代と真逆のポイントです。共通時代の「鏡」の中で、イエスはフレデリック3世に直接対応する指導者となります。共通時代の「鏡」の中で、イエスはフリードリヒ3世に直接対応する指導者となります。フリードリヒは西暦1493年に亡くなりますが、雲の柱としてのイエスは、BG年表ではモーセがエジプト脱出でイスラエルを導いた紀元前1493年に指導を開始しています[8-11]。

[1](*出エジプト記 13:21,22*)
[2](*出エジプト記 14:24*)
[3](*民数記 14:14*)
[4](*ネヘミヤ 9:12,19*)
[5](*申命記 31:15,16*)
[6](*詩編 99:7,8*)
[7](*コリント第一 10:4*)
[8](*The Crucible of Credible Creed (2012), Ch. 11 paragraph 7, by Ward Green et al.*)
[9](*Joseph and On (a.k.a. On, a.k.a. Poseidon) (2010), by Ward Green*)
[10](*Phoenix (a.k.a. Redemption of the Phoenix), by Ward Green and A. R. Rutledge*)
[11](*Joseph (a.k.a. Joseph, Ruler of Egypt) (2009), by Rolf Ward Green*)



Above: Frederick III Crowning Enea Silvio Piccolomini with a Laurel Wreath, Fresco Piccolomini Library, Duomo, Siena, Italy *(1502-1508 painting by Pinturicchio, Fresco, detail)*

⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄

87 以上のことから、信仰を持つ者は、人間以前の存在であるイエスが、エホバの人類への対応においていかに重要な役割を果たしたかを理解することが重要です。箴言8:30によると，人間以前のイエスは，イスラエルが国家として存在する前，さらにアダムが創造される前から，エホバとともに建築の名人として働き，万物を創造するという，さらに重要な役割を果たしていました[1,2]。箴言8:22とコロサイ1:15は，イエスが全創造物の中の初子です，エホバの昔の偉業の最初。イエスは、人間の母との間に生まれたときに初めて「イエス」（ヘブライ語では「イェホシュア」）という名を受けました。また，ヨハネの黙示録12:7で悪魔を倒した大天使ミカエルとして知られ，ダニエル書やユダ書でもエホバの天使の筆頭として言及されています[3,4]。ソロモン王が型となった反典型的な王であり、ソロモン王はイスラエルの地上の栄光の絶頂期（エホバの第一神殿が建設された時期であり、神の民にとっては非常に重要な時期）にイスラエルを支配した非常に賢明な王であることから、ある意味でメシアを予見していることは明らかです[5,6]。 つまり、ソロモン王は、イスラエルの希望である、より偉大な、反典型的な王のための預言的な型なのです。

[1](*格言 8:22-30*)
[2](*コロサイ 1:16*)
[3](*ダニエル 12:1*)
[4](*ユダ 9*)
[5](*列王第一 3:8-4:34*)
[6](*列王第一 6:1*)

⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄

Above: Holy Family with St. Elisabeth and the Infant St. John the Baptist, Christian Museum, Esztergom, Hungary *(c. 1550 painting by unknown master, Oil on canvas, 170 x 106 cm)*

88 上で見たように、イエスの誕生は紀元前6年に非常に近い時期に起こりました。この時期は、私たちのブレスド・グリーネアロジーでは、ソロモン王が第一神殿を完成させた年の約1000年後にあたります（1キングス6:37,38から、ソロモン王の神殿は王の11年目の8月に完成し、BGの年表では紀元前1017年が王の1年目にあたるので、紀元前1007年がその年になります）。ヘブライ語の世俗暦は1年が第7月（ティシュリ）から始まるので、紀元前1007年は紀元前1006年のティシュリで終わると考えることもでき、これによりイエスの誕生年は第一神殿完成の年から1000年も離れた、非常に正確な年となります。この期間が1000年であることの重要性は、すでに述べたように、1000年ごとに構成される7日間の週の考え方からもわかります。メシアはそのうちの1日を支配すると期待されていますが、週の6日目にならないと到着しないと考えられています。つまり、ソロモンは、私たちの年表ではアダムの約4500年後（紀元前1007年）に到着しているので、明らかにメシアではありませんが、メシアの支配を典型的に示しているのです。記事ではGreen、私は、ソロモンとシバの女王との結婚から生まれたエチオピアの王たちについて書きまし、どのようにしてソロモンの息子メネリク王の年代は紀元前975年とされています。この年代は、「キリストの時代まで完全」とされるエチオピアの王のリストから見ています（1治世あたり平均16年）[1,2]。ソロモンの治世の正確な時期は、以前の記事でも述べたように（記事Josephのように早くからの頃から）、神殿の軸合わせ（ライディンガー[Mr. Reidinger's]氏の研究による）だけでなく、神殿が破壊された日（紀元前587年、B4 Chronology 第1章）、のデッドレコニングをのを利用してイスラエルとユダの王の正確な年号で聖典に見られるように[3]。

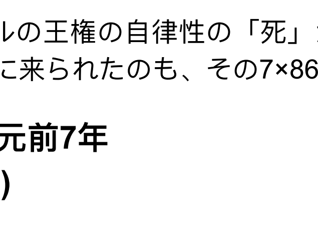
[1](*列王第一 10:1-13 and 歴代第二 9:1-12 シバの女王については言及されているが、メネリクについては言及されていない。*)
[2](*Green (2009), by Rolf Ward Green*)
[3](*列王第一 11:42-列王第二 25:10; 歴代第一 28:6, 歴代第二 9:30-36:11*)

⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄

89a このように、イエスがメシアとして登場した時期は、イエスに期待されていた年表と一致する部分が多いのです。しかし、もう一つ、イエスがメシアとして登場するタイミングが、預言の中で信者に示されていたのです。それは、ネブカドネザルの夢に基づいて書かれたダニエル書第4章の「7つの時」という預言です（ダニエル書にはもう一つの預言があります）。「時」を「360日」の預言年とし、「日」を「1年」とすると、「7つの時」は「360年の7倍」となり、ちょうど「2520年」となり、エホバの民が「異邦人支配」を受けた期間である「異邦人の時」を表しています。この異邦人支配の時代とは、政治的な概念であり、エホバの民にとって大きな苦難の時代を意味します。しかし、ネブカドネザルの時代には、権力を失って獣のようになり、草木を食べ、髪の毛や爪を無秩序に伸ばして、人間から離れていく「7回」（おそらく「年」）を意味していました。

89b しかし、この預言のより大きな成就は、エホバ神自身の民とその統治権に適用されました。紀元前1100年にサウル王がエホバのために自律したイスラエルの王として始まったイスラエルの王権は、その約490年後、ヨシヤ王が紀元前609年にパレスチナのメギドでエジプトのファラオ・ネチョ2世との戦いに敗れて、そのイスラエルの自律性を失ったことで終わりを迎えました。この出来事の時期は、紀元前587年のエルサレムの破壊の日からも、エジプトの年表からも非常によく知られています。一方、その輸入は、異邦人の時の始まりとなったのです。

⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄



Above: The Garden of Eden, Städelsches Kunstinstitut, Frankfurt *(c. 1410 painting by unknown master, German, Tempera on wood, 26 x 33 cm)*

810a 地上におけるイスラエルの王権の自律性の「死」が「86」という数字で表せるとすれば、イエスが地上に来られたのも、その7×86（602）年後である:

609 - 7 x 86 = 紀元前7年
(86の「7つの時」)

このように、異邦人の「7つの時」は、メシアの誕生または受胎の時点で、イエスの中で部分的に成就していましたが、イエスはその時点でイスラエルに王権を回復したわけではありませんでした（イエスが信者たちに説明したように）[1]。それどころか、イエスの時代にユダヤ人が利用していた神殿は、イエスの磔刑と復活からわずか40年後に破壊され、地上の王国に対するユダヤ人の希望は、その時点では失われていたことがわかりました。エルサレムは70年に破壊されたが、これはイエス・キリストが復活した西暦30年後の40年後に来る。

810b エルサレムの最初の破壊は紀元前587年、つまり磔刑の西暦30年前の616年前に起こっており、ここにも「7つの時」の成就を見ることができます。88の「7つの時」は616です。

7 x 88 = 616 = 587 + 30 - 1
(88の「7つの時」)

西暦30年にイエスが天に昇ったとき、信者に王国の力が回復するという非常に現実的な出来事がありました。ですから、異邦人の「7つの時」は、預言がしばしばそうであるように、1つではなく、複数の方法で成就していると考えられます。

[1](*使徒 1:6*)

⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄⋄

811a この預言的な言葉に加えて、エホバの民は、1914年に先立つ数十年間に「7つの時」が実現する大きな方法に注目し、ものみの塔[Watchtower]誌にお

いて、異邦人の時の成就が西暦1914年までに到来すると指摘された[1,2]。 当時知られていた大戦は、1914年に勃発した際に、当時「知られていた」世界が終わったことを暗示するという意味で、顕著な成就であった[2]。それ以来、大量殺戮が私たちに迫っている。しかし、キリスト教徒にとっては、それは体制の終わりを意味していた[3]。 しかし、第17条のPreservationに記されているように、同じ予言の別の成就がさらにあったのである[4]。

8₁₁b 1948年5月14日、ユダヤ人国家イスラエルが世界的な権力を取り戻したのである。これは、紀元前608年以来、365の「7つの時」（＝2,555日、または2,555年）の間隔をおいて初めての出来事である。 ヨシヤがファラオ・ネチョ2世に殺された後、エジプトがイスラエルの王権を支配していたが、エホヤキムの3年目にバビロンのネブカドネザルが支配し、その後キュロスと歴代ペルシャ王がイスラエルの統治者を支配し、セレウコス王（ハスモン教の一時的な支配を除く）、続いてローマ、イスラムのカリフ、オスマンが支配した（いずれも西暦1948年のイスラエルより前）。

8₁₁c この2,555年という期間の中で、例外的にハスモン朝がローマ帝国の承認を得て独立した紀元前110年から紀元前63年までの約47年間は、エホバのみの下で独立したとは言えないかもしれません。しかし、1948年にイスラエルが宣言されたのも、1917年にイギリスがパレスチナにユダヤ人の国民の家を建てることを支持するバルフォア宣言と呼ばれる声明を出していたので、地上の援助がないわけではありませんでした。紀元前608年から紀元前111年のハスモン王朝の支配者ジョン・ヒルカヌスまでの期間を数えると、「7つの時」になる:

608 - 7 x 71 = 608 - 497 = 111
(71の「7つの時」)

紀元前111年から西暦1948年までの期間は2058年であり、「7つの時」という要因で3重に神格化されているような数字である:

7 x 7 x 7 x 6 - 111 + 1 = 2058 - 110 = 西暦1948年
(「7つの時」、7の3乗×6)

8₁₁d 紀元前608年から西暦1948年までの全期間を見ると、次のようになる:

7 x 365 - 608 + 1 = 2555 - 607 = 西暦1948年
(365の「7つの時」)

[1](*God's Kingdom Rules! (2014) p. 15, paragraph 10, The Watchtower Bible and Tract Society*)
[2](*The Watchtower Announcing Jehovah's Kingdom (May 01 1982) p. 13, par. 7, The Watchtower Bible and Tract Society*)
[3](*マタイ 24:3*)
[4](*Be. 'Preservation' (2019), Ch. 11 paragraph 11, by Rolf Ward Green*)

Above: A morte de Judas Macabeu, Bahia Museum of Art, Salvador, Bahia, Brazil *(18th-19th century painting by José Teófilo de Jesus, Oil on canvas, 48 x 64 cm)*

◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊

8₁₂a 「預言年」を360（30日ずつの12ヶ月）日とすると、紀元前608年から計算した「7つの時」は:

7 x 360 - 608 + 1 = 2520 - 607 = 西暦1913年
(360の「7つの時」)

紀元前608年についての確信は、紀元前607年を異邦人の時の始まりとして完全に排除するほどのものではありません。だから、この年は十分に一致していると見てよいだろう。

8₁₂b 西暦1914年7月に第一次世界大戦が勃発し、当時の信仰者や聖書研究者の多くは、これをイエス様が天から支配し始めた証拠だと考えていました。ヨハネの黙示録12章9節によると、「大いなる竜」であるサタンが は、ある時、天から降ろされて、地上の国々を惑わす悪者となりました。第一次世界大戦は、この出来事の証拠と言えるでしょう。

8₁₂c 復活したイエスは、メシアとして、エホバの天の国の王として、異邦人の時の予言に重要な役割を果たしていることがわかります。紀元前608年の異邦人の時の始まりは、エホヤキムの第1年でした。エレミヤの預言では、そこから70年間、イスラエルが異邦人に隷属する時代が始まり、イスラエルの神の王が奪われたため、当時のイスラエルにとっては荒廃の時となることが示されていました[1-3]。したがって、異邦人の時はこの年に始まった、あるいは始まったと考えられることは明らかです。ちょうど69年後、キュロスがバビロンを占領し、エレミヤの預言の70年に終止符が打たれました。キュロスの第1年が前538年に始まり（608 - 70 = 538）、彼が前538年の第1年に宣言したことで、イスラエルは解放され、ミニチュアの異邦人の時が終わりました（70年を7×10として）。

8₁₂d 使徒パウロがローマ人への手紙9:8で述べているように、エホバがアブラハムに約束した意図は、神が選んだ目的のためであり、「約束による子供が子孫」（単に彼の子孫ではない）ためであった[4]。メシアは、イエス・キリストの母マリアの血筋を通して、アブラハムの種から文字通りの子孫として来たが、祝福は「地上の家族全て」に及ぶはずであった。 エホバはこのことを、キリストにつながる種の系統を選び、次男のヤコブがエサウを騙して生得権を奪うことを許したことで示しましたが、これもまた予告されていたことです[6]。 だから、エホバの報われない親切によってのみ、キリストの中に種が与えられ、すべての国民を祝福することができたのです。アブラハムへの約束によって祝福されるのは、アブラハムの子孫だけではなく、今日のように、すべての国の人々です。アブラハムの子としてのダビデ王は、その成長について次のように語っています:[7]

> **神の前で私の家系はそのようではないだろうか。 神は永遠の契約を私と結んだ。 事細かに整えられた，確かな契約を。 それは私にとって完全な救い，喜び。 神が繁栄させてくださらないことがあるだろうか。**
> **(*サムエル第二 23:5, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020*)[7]**

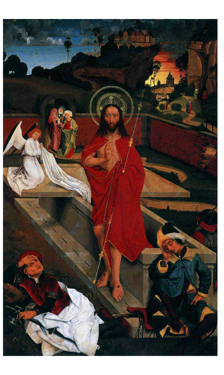
8₁₂e イザヤは後に、1914年以降に見られるような信仰者の数の増加について次のように預言している:[8]

> **小さな者が千人にもなり， 取るに足りない者が強大な国民になる。 私エホバが，定めの時にそれを速める。**
> **(*イザヤ 60:22, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020*)[8]**

8₁₂f 力は神の民に与えられ，再びイザヤが次のように書いている:[9]

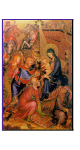
> **しかし，希望を抱いてエホバを待つ人は，再び力を得る。 ワシのように翼を広げて舞い上がる。 走っても弱ることがなく， 歩いても疲れ果てない」。**
> **(*イザヤ 40:31, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020*)[9]**

[1](*エレミヤ 25:11, A New English Translation of the Septuagint (2007; second printing with corrections and emendations, 2009), Edited by Albert Pietersma and Benjamin G. Wright:* ***"They shall be slaves among the nations seventy years."***)
[2](*エレミヤ 25:11, English translation of the Septuagint (1851), by Sir Lancelot Charles Lee Brenton (1807-1862):* ***"They shall serve among the Gentiles seventy years."***)
[3](*Paragraphs 9-2b and 9-5, below*)
[4](*ローマ 9:8, New World Translation (1984)*)
[5](*創世記 12:3; 22:18; 26:4; 28:14*)
[6](*創世記 25:23*)
[7](*サムエル第二 23:5, New World Translation (1984)*)
[8](*イザヤ 60:22, New World Translation (1984)*)
[9](*イザヤ 40:31, New World Translation (1984)*)



Above: Resurrection of the Hof Altarpiece, Alte Pinakothek, Munich *(1465 painting by Hans Pleydenwurff, Mixed technique on pine panel, 177 x 112 cm)*

第8章结束: 神はアブラハムの新生児を永遠の日に救い出される



Above: The Adoration of the Magi (Bargello Diptych), Museo Nazionale del Bargello, Florence *(1380s painting by unknown master, Tempera on wood, 50 x 31 cm)*

第9章：異邦人の観察された年代測定のまとめ

Above: Presentation of Jesus at the Temple, Pinacoteca di Brera, Milan *(1529 painting by Girolamo Romanino, Oil on canvas, 188 x 140 cm)*

> **The fear of Jehovah is pure, standing forever. The judicial decisions of Jehovah are true; they have proved altogether righteous.**
> **(*Psalms 19:9, New World Translation (1984)*)**

> エホバへの畏れは純粋で，永遠に続く。 エホバの裁きは真実で，全く正しい。
> **(*詩編 19:9, 新世界訳聖書（スタディー版）2019，2020*)**

9₁ エホヤキム王の4年目、つまりBG年表では紀元前605の時点で、預言者エレミヤは23年間預言しており、エレミヤ25:1によれば、同年にバビロンのネブカドネザル王が支配を開始しています。2015年の記事History of Babylonより、ネブカドネザル王の1年目は、すべてのビジネス記録、また天文学的にも紀元前604年と立証されています。ユダのヨシヤ王の1年目を紀元前639年とすると、エレミヤ書25:3でヨシヤ王の13年目は紀元前627年となり、紀元前604年の23年前に近いことになります。王の即位は、その王の最初の公式統治年の1年前に行われるので、何の問題もありません。もし、ヨシヤが紀元前639年であれば、エレミヤは22年と数ヶ月の間、説教をしていたことになりますが、古代ヘブライ語では、序数（23）の使用が枢数（23）に置き換えられることが多いので、これでも問題はありません。

Above: Prophet Jeremiah, Museo dell'Opera del Duomo, Florence, Italy *(1423-1426 statue by Donatello, Marble, height 191 cm)*

◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊

9₂a 正確な知識を持たない古代の暦法を考える上で、正確さにこだわることは必ずしも賢明ではありませんが、むしろ一貫性を求めることが重要だと思われます。異邦人の時の予言では、その始まりを紀元前608年に近い日付で示し、その結果、西暦1913年と1948年は、第一次世界大戦の開始西暦1914年とイスラエル自身の宣言西暦1948年に対応する究極の後成就の日付となっています[1]。すべての数字を近似値と呼ぶよりも、正確な計算による差異を考慮する方が簡単です。紀元前608年（私たちのブレスド・グリーネアロジーで計算すると）に異邦人の時が始まった後、エレミヤがエレミヤ25:11でエホヤキムの年4に70年について預言したこと（列王第二24:2）と完全に一致して、エルサレムでユダに問題が起こり始めました[2]。

9₂b バビロンの王の記録によると、バビロンの王、ネブカドネザル2世が紀元前597年にエルサレムを占領し、聖書の文章に出てくるゼデキヤ王（その記録にはまだ名前が出ていない）が王座についた。これを「ネブカドネザルの7年」と呼び、ネブカドネザルの1年目が紀元前604年（父の死により前605年に即位）であることと一致します。紀元前605年にエレミヤは、エレミヤ書25章11節で、外国や異邦人による70年間の支配がバビロンで終わると預言しており。ペルシャ王キュロスがバビロンを征服したのは紀元前539年で、紀元前605年から70年よりも数年短いので、異邦人による支配の時代は、ユダの王ヨシヤが戦死した後の紀元前608年に始まったと考えられます。息子のエホアハズが王位を継いだものの、3ヶ月後にエジプト人が介入し、エホヤキムがユダの王としてエルサレムの王座につきました。つまり、エホヤキムは実質的に異邦人の王であり、異邦人の時が始まる間、ユダの王として仕えました。エホヤキムは597年に息子のエホヤキンに引き継がれたが、彼はネブカドネザルに捕らえられた王であったことは明らかである[3]。

[1](*Paragraphs 4-12a, 8-11, and 8-12, above*)
[2](*列王第二 24:2*)
[3](*歴代第二 36:5-10*)

◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊

9₃ このように、聖書の記録は、この時期のバビロニア王室の記録と完全に一致しており、エルサレムの破壊は紀元前587年に行われています。紀元前587年はネブカドネザルの18年目（604 - 17 = 587）であり、ヨセフスがエルサレムの神殿が荒廃した50年の期間と説明した期間の始まりである[1]。 2クロニクル36:21には、エレミヤの70年という言葉が成就したことが記されており、22節には、キュロス王がバビロンの王としての第1年目にエルサレム神殿をその場所に再建するように命じたことで、その成就を後押ししたことが記されています。しかし、完成したのは荒廃してから70年後のダリウスの年6（紀元前517年頃）でした[2]。ヨセフスは、エルサレムが破壊されてから「70年の間」荒廃していたことを認めた上で、50年間の「不明瞭さ」について言及しています[3,1]。従って、ヨセフスの記述は、これらの証拠を霊感を受けた聖書の記述と調和させるのに役立ちます。ペルシャとバビロニアの歴史はここで詳しく説明されており、聖書の多くの詳細を確認できるほど正確です。

[1](*Against Apion, Book I, Section 21, by Flavius Josephus, from The Genuine Works of Flavius Josephus the Jewish Historian, translated from the original Greek, according to Havercamp's accurate Edition, containing Twenty Books of the 'Jewish' Antiquities, with the Appendix or Life of Josephus, written by himself: Seven Books of the Jewish War: and Two Books against Apion, by William Whiston (1737)*)
[2](*エズラ 6:15*)
[3](*Against Apion, Book I, Section 19, by Flavius Josephus, from The Genuine Works of Flavius Josephus the Jewish Historian, translated from the original Greek, according to Havercamp's accurate Edition, containing Twenty Books of the 'Jewish' Antiquities, with the Appendix or Life of Josephus, written by himself: Seven Books of the Jewish War: and Two Books against Apion, by William Whiston (1737)*)

Above: The Prophet Jeremiah, Musées Royaux des Beaux-Arts, Brussels *(c 1445 painting by Master of the Aix Annunciation, Oil on panel, 152 x 86 cm)*

◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊◊

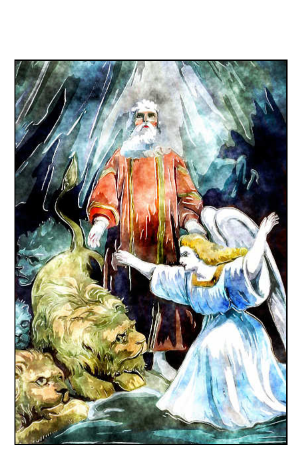
94 B4 Chronologyの1-8a項にあるように、プトレマイオスとベロッサスの両方の記述は、バビロンの王たちのこれらの日付とヨセフスの記述に一致しています[1]。ダリウス1世の第2年、つまり紀元前521年かそれに近い時期に、ゼカリヤ1:1,7,12は、エホバが自分の民を糾弾した70年がまだ続いていると記しています。これは、ここで言及されている70年が紀元前591年の後または前591年になるまで始まっていなかったことを意味し、したがって70年は紀元前591年の後に第二の適用があることを示唆しています。エズラ6:15によると、神殿が完成したのはダリウス1世の第6年で、紀元前517年に近く、紀元前587年に始まった70年と一致しています。イスラエルは、紀元前539年からのこの期間の最後の部分では、バビロンに服従していませんでしたが、エルサレムの神殿を再建しようとしていて、問題を抱えていました。ジョンソン氏はその著書の中で、これらのことを論じており、紀元前609年にアッシリアがバビロンに滅ぼされたことが、「バビロンのための」70年の始まりではないかと提案しています[2,3]。このように、70年には少なくとも2つの事例があります。

[1](*See also B4 Chronology, paragraph 1-5*)
[2](*The Gentile Times Reconsidered (2004), Fourth Edition, pp. 191-233, by Carl Olof Jonson*)
[3](*The Gentile Times Reconsidered (2004), Fourth Edition, p. 233, by Carl Olof Jonson*)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

95 紀元前539年にペルシャ王キュロスがバビロンの都市と王国を占領した直後、預言者ダニエルは、バビロンで70年が終わることを予言したエレミヤの「70年」が成就したことに注目しました。このダニエルの予言は、本稿の4-12aで紹介したもので、ダニエル9:2から引用されています。ここでダニエルは、70年をエルサレムの「壊滅」または「荒廃」の成就と呼んでいますが、これは紀元前587年から517年の期間を表すのに適しています。しかし、預言者エレミヤに言及していることから、彼は紀元前608年または紀元前605年に始まった70年の終わりを見ていることが分かります。[1]「壊滅」とは、エルサレムが異邦人大国に服従することであり、「壊滅」の終わりは、バビロンがアッシリアを支配してから70年後、キュロスがバビロンを占領した紀元前539/538年であると解釈できます。ダニエルは、壊滅がまもなく終わることを知り、イスラエルを好ましい状態に戻すために、エホバに助けを求める祈りを捧げました。エルサレムの神殿が完全に再建されるまでには、さらに20年以上かかりますが、その作業をユダヤ人が行うようになるのは、ほんの少し後のことです[2]。

[1](*エレミヤ 25:1,11; 27:1,6,7*)
[2](*エズラ 1:1-3; 3:8*)



Above: Daniel In The Lions' Den

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

96 紀元前605年のエホヤキムの第4年のエレミヤの預言は、キュロスの第1年を紀元前538年とすることで、紀元前608年から紀元前538年の70年間に及ぶものとすることができます[1]。これらの年代は、聖書そのものからだけではなく、世俗的な歴史から得られたものであるため、BGの年代は年代または最も信頼できる世俗的な年代が私たちの年代とならざるを得ません。ネブカドネザル以降のバビロン王については、従来のように詳細に精緻な年代が設定されていますが、それは従来の年代が十分な根拠を持っていたからに他なりません。ソロモン王の従来の日付は、私たちのBGの年表を理解している人には同意されません。なぜなら、聖書のレグナル・イヤーは慣習によって破損しているからです。紀元前608年という年代は妥当であり、ソロモンは聖書とその詳細な統治を用いて最もよく計算されています。紀元前587年（エルサレム滅亡）後方から紀元前1017年のソロモン年1まで遡る430年分のキングスがあります[2]。また、イスラエルがエジプトを出てパレスチナに「入城」してから紀元前587年のエルサレム滅亡までの850年、つまり50年ごとの17回のジュビリーがあります[3]。このことから、イスラエルがパレスチナに入城したのは紀元前1437年で、ヨルダンを渡ってから約15年後であり、タルムードの伝統である14年に匹敵します[4]。

[1](*エレミヤ 25:11; 27:1,6,7*)
[2](*サムエル第一, サムエル第二, 列王第一, 列王第二, 歴代第一, 歴代第二*)
[3](*Jewish Encyclopedia (1906), Sabbatical Year and Jubilee, subsection "Talmudic and Samaritan Calculation of Jubilees"*)
[4](*Ibid.*)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

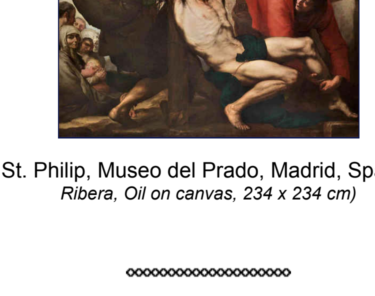
97 ソロモン王4年は、1キングス6:1に記載されている480年目の年号によってエジプト脱出の日と関連している。これにより、エジプト脱出の年は紀元前1493年（1014＋479＝1493）と決定され、エジプト脱出の年の土曜日に設定された出エジプト記16:1,22の第一安息日の設定は、紀元前1493年の6月1日と6月8日（土曜日）に一致する[1]。さらに、エジプトの年表では、ファラオの一人（トゥトモース1世）の死を紀元前1493年と独自に設定しており、ファラオが紅海で溺死したという聖書の記述からは必要な内容であった[2]。ソロモンの神殿が建立年の4月18日に太陽と一直線に並んだというアーウィン・ライディンガー[Erwin Reidinger]の説は、紀元前1014年のニサン15日と一致することがわかった[3]。ソロモン王の紀元前1017年は紀元前587年の430年前であり、聖書の王の年号と一致する[4]。エルサレム破壊の年が紀元前587年であることから、ソロモン王の年1は紀元前1017年と極めて正確に決定され、紀元前587年自体はバビロンのビジネス文書から非常に高い精度で知られており、その数は数千にも及び、ネブカドネザルの年1とペルシャ王ダリウスの年1の間に正確に83年が経過したことを証明している[5,6]。

587 + 430 = 西暦1017年
(ソロモン暦1年)

604 - 17 = 西暦587年
(18年ネブカドネザル、エルサレム滅亡)[6]

604 - 83 = 西暦521年
(ダリウス1世の年)[5]

[1](*Rita Gautschy（gautschy.ch）、紀元前1493年5月18日、エジプトのヘリオポリスでの第1視認性。ここからイヤーイヤー（Iyyar）22を31 - 18 + 8 = 21日後とし、5月18日をイヤー（Iyyar）01の土曜日、4月19日をニッサン（Nisan）01の金曜日とし、春分の日を紀元前1493年4月03日とする。*)
[2](*出エジプト記 14:23,28*)
[3](*Joseph (2009), 'Alignment of the 1st Temple axis,' by Rolf Ward Green. Rita Gautschy (gautschy.ch)を使ってエジプトのヘリオポリスを調べてみると、紀元前1014年4月4日が第1視認性であるため、4月18日はニサン15日、春分の日は紀元前1014年3月31日となる。*)
[4](*この430年は、聖書のサムエル記、キングス記、クロニクル記の各王の統治に与えられた年数の合計である、"Moses Part 1 (2010), by Rolf Ward Green and A. R. Rutledge "の記事では、次のように書かれている: "Solomon's rule to the siege of Jerusalem."*)
[5](*B4 Chronology, paragraph 3-4b*)
[6](*Paragraphs 1-8, 9-1, and 9-2b, above*)



Above: Martyrdom of St. Philip, Museo del Prado, Madrid, Spain *(1639 painting by Jusepe De Ribera, Oil on canvas, 234 x 234 cm)*

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

98 バビロンのビジネス文書のうち、紀元前627年～539年までの期間のものは5万枚にのぼるといわれています。これらの年代測定可能なタブレットから、すべての年が数百ものタブレットでカバーされていると推定され、すべての王のすべての年が知られていることになります[1]。ナボポラッサルからダリウス（紀元前627～485年）までの1万枚以上のタブレットが1991年までにテキストとして出版されていることから、キュロスがバビロンを征服したのは、ネブカドネザルによるエルサレム滅亡から48年後であることに疑いの余地はないと考えられる[2]。キュロスがバビロンを征服してから数年後、ユダヤ人が神殿を再建しようと動き出したことで、ヨセフスが言及した50年間の無名時代が終わりを告げたのである[3]。しかし、ヨセフスは、膨大な数に上るバビロニアのビジネス文書よりも信頼できるとは決して言えない。両者によって新バビロニアの年代が確かなものになっているので、この時代の従来の年代を認めることになる。世俗的な歴史が確かなものであるからこそ、預言の成就を正確に確認することができるのです。ですから、正確な年表を作ることが大切です。伝統的な年表は、この時代には、それ以前の時代のような分裂はなく、上記のように聖書と完全に調和しています。

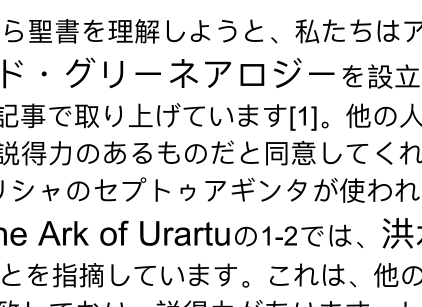
[1](*B4 Chronology, paragraph 3-4b*)
[2](*587 - 539 = 48*)
[3](*Paragraph 9-3, above*)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

99 天文学的な出来事や、出来事の整合性をとるための絶対的な年代測定が可能な出来事がない限り、どの聖典も自らの年代の独立した確認を提供することはできません。ですから、独立した確認を求めるのであれば、世俗的な歴史の中から見つける必要があります。問題は、真実の言葉（神の言葉）を、より確かではない事実を用いて確認することを求めていることです。この研究では、信頼性の低い情報源と異なる場合、神の言葉の真実を信じ、神を優先することに常に注意しなければなりません。ある兄弟は、世俗的な従来の年表を信じることに困難を感じていましたが、それはある聖句そのものに対する特定の理解に、より多くの真理を見出したからです。彼らは、私たちよりも真理への関心が低いわけではありません。一般的に同じ世俗的な歴史を受け入れるのでなければ、誰も細部まで同じ年表を受け入れない。そのような歴史は、学者の間でも意見の相違があります。他人が自分よりも優れていると考え、二人寄れば文殊の知恵ということで、警戒心を持つことが賢明だと結論づけています[1-3]。大切なのは、聖書の価値観が優先されることです[4]。イエスが教えたように、預言者は「その実によって」わかるのです[5]。

[1](*フィリピ 2:3*)
[2](*伝道の書 4:9*)
[3](*伝道の書 7:9*)
[4](*テモテ第二 3:16*)
[5](*マタイ 7:16*)

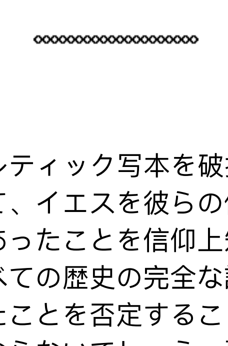
◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇



Above: The Garden of Eden with the Fall of Man, Mauritshuis, The Hague *(c. 1615 painting by Jan Brueghel The Elder, Oil on panel, 74 x 115 cm)*

910 完全な年表の観点から聖書を理解しようと、私たちはアダムとエバに遡って聖書に基づいたブレスド・グリーネアロジーを設立しました。これについては、以前に発表した記事で取り上げています[1]。他の人がこれらの記事を読んで、提示された年表が説得力のあるものだと同意してくれることを祈るばかりです。また、BGではギリシャのセプトゥアギンタが使われていることを覚えておいてください。記事The Ark of Urartuの1-2では、洪水（ノアの）が紀元前3282年とされていることを指摘しています。これは、他のどの年表よりも、すべての事実と最もよく一致しており、説得力があります。しかし、それが唯一の解釈であるとは言いません。しかし、もしそれが正しければ、良い実を結ぶことになります。そのような実りは、記事Trueの2-6にあるように、月の満ち欠けがエジプトの暦や伝説の日付であるハティル[Hathyr]17（オシリスのための）とよく一致することが示されています。マソレティック写本よりもセプトゥアギンタを受け入れることの良い結果は、非常に多く、マソレティック写本がその数において破損していることを証明しています[2]。

[1](*Joseph (2009) through Preservation (2019)*)
[2](*Preservation (2019), "corruption"*)



Above: The Adoration of the Magi (Bargello Diptych), Museo Nazionale del Bargello, Florence *(1380s painting by unknown master, Tempera on wood, 50 x 31 cm)*

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

911 私たちは、ユダヤ人がマソレティック写本を破損した理由が、彼らの最も神聖な文書を破損することによって、イエスを彼らの信仰体系の中でメシアとしての適切な位置を否定するためであったことを信仰上知っています。セプトゥアギンタ版にこそ、アダムからのすべての歴史の完全な説明を見つけることができるのです。このような汚職があったことを否定することは、イエス・キリストに対して謙虚に正義を行うことにはならないでしょう。聖典は常に誤りがないものと考えられてきただけに、非常につらい事実です。しかし、聖書の写本の中には、異なる年表のものが多数存在することを認めなければなりません。謙虚な人は、真のバージョンにのみ関心があり、あるメシアの結果を避けることには関心がありません。それどころか、真実を求める謙虚な人々は、メシアに私たちの歴史の中で正当な地位を与えたいと思っているのではないでしょうか? 明らかにイエスを憎んでいたユダヤ人たちは、この重要な問題について最善の決定を下すことができるとは思えません。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

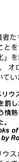
912 イエスの誕生と磔刑の日付は、聖書の預言（70週）に含まれる数字によって、また世俗的な歴史の日付にも関連していますが、世俗的な歴史の日付が最も問題視されているのに対し、預言的な数字自体は霊感を受けていると考えられています。大きな困難の一つは、預言書の聖句そのものを使って歴史を修正しようとする誘惑です。世俗的な歴史そのものは、すべてを真実に記録する霊感を受けた預言者によって書かれることはあまりありません。そのため、世俗的な歴史は典型的な議論の対象となります。つまり、日付そのものが疑われるのです。

興奮的な議論の対象となります。つまり、日刊でもいらが疑われるのです。ちなみに、ガブリエル・アビンク、サマリタンなど、聖書の中に登場する人物の名前は、これまで議論してきたように、父系の年齢に数値的な違いが見られますが、実際にはテキストの翻訳の問題もあります[11]。エレミヤの預言（エレ25:11）にしても、この預言は70年の期間の始まりの理解に依存しており、国家権力に依存しております。2)この国には生ていたかどうかに関する聖書の記述によって違いが決まることが分かりました[12]。このように、翻訳の微妙な違いが、預言の捉え方や意図を確実に変えてしまうのです。だからこそ、真実の言葉を守ることが不可欠なのです[13]。

[1]Preservation (2019), Chapter 1, by Ward Green)
[2]Paragraph 9-2b, above)
[3]アテス 1:8)

第9章結束：異邦人の観察された年代測定のまとめ

第10章： 予告されていた普遍的な義への違反



Above: Nave vault, Fresco II Gesù, Rome *(1672-1685 painting by Baccio, Fresco, ceiling)*

They are more to be desired than gold, yes, than much refined gold. And sweeter than honey and the flowing honey of the combs.
(Psalms 19:10, *New World Translation (1984)*)

金よりも、多くの純金よりも好ましい。蜜よりも、巣から流り落ちる雫よりも好ましい。
(詩編 19:10, *新世界訳聖書（スタディー版）2019、2020*)

10a テサロニケ書第2章3節では、恵実なクリスチャンに、「エホバの日が来ている」とクリスチャンが除る監督からの手紙のような言葉や書面によるメッセージによって、すぐに動揺して分別を失ったり、慌てたりしないでください。4節にその理由が書かれています。エホバの日の前には、背教者である「不法の者」が現れ、その人は聖なる者とされるすべての人に自分を誇り上げ、神の頂で自分を「神」として公に示すという預言です。私たちは興奮してはいけないのです。1990年2月1日のものみの塔[The Watchtower]誌の記事、p.11の『Identifying "the Man of Lawlessness"(不法の人)の実体を見極める』という記事では、不法の者がキリスト教の聖職者であることを知らせています。2Th 2-7々は、この悪の「ひそかな力」がパウロの時代に「すでに働いています」ことと、そしてそれはキリストの臨在が現れれるまで続くだろうということが書かれています[11]。しかし、キリストの臨在が西暦1913-14年までなかったとしたら、この「不法の者」がたむの文字通りの人間であるはずがありません。つまり、彼はどうやら「信職者たち」の比喩的な人物のようです。

Above: Triptych with the Adoration of the Magi (central panel), Rijksmuseum, Amsterdam *(c. 1560 painting by Peter Aertsen, Oil on panel, 150 x 73 cm)*

10b キリスト教の聖職者たちは、イエスの復刊以降、「不法」によって権力を手に入れようと多くのことを行ってきた。ローマ皇帝ティベリウスが復活後、ローマ市民に「神格化」を認り、反対者を殺害する様子は、ローマ史の中で有名な記録として残されています。ティベリウスがローマ人の人間的に成ったことについて次のように書いています[2]:

その後、ティベリウス・カエサルの最も目覚ましい特徴とも顕著な部類は、次第に、反対した元老院を罰したいという悪いに変わっていきました。皇帝は何でもやりたいという情熱を持ち、最も穏やかな支配者から、最も残酷な獣のようになりました。
(The Seven Books of History Against The Pagans, Book 7, by Paulus Orosius, transl. by Roy J. Deferrari (1964), p. 291, top)[2]

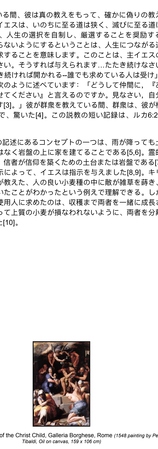
10b 今では、ティベリウスがキリスト教世界の最初の例となっているかもしれませんが、キリスト の復活の真実は、不完全な人間を熱狂させ、聖書に基づく良心を持たない人間、盲従と「不法」で、キリストの反対者を暴力的に攻撃することできた、キリスト教を守るのです。

[1]Paragraphs 2-6, 2-7a, above)
[2]The Seven Books of History Against The Pagans, Book 7, by Paulus Orosius, transl. by Roy J. Deferrari (1964), p. 291, top)

Above: The Great Flood, Private collection *(Painting by Bonaventura Peeters I, Oil on oak panel, 19 x 34 cm)*

10c このように、キリスト教の最も初期の例であるローマ皇帝ティベリウスにさえ、ひどい「不法」が見られ、ティベリウスを「不法の人」と呼ぶべきです。ティベリウスは、彼の時代のローマ帝国において、今初めて「明らかにされた」、使徒パウロが書いたことと、すなわち、不法の者つまり滅びる者が明らかにされてからでなければ、エホバの日は来ないということを果たしています[1]。ダニエル書2章40節でネブカドネザルに次ぐ「第4の」世界大国と予言されていたように、ローマ軍は極めて効率的にすべてを消滅させていたので、ティベリウスは特にこの予言にふさわしい人物である[2]。もちろん、ティベリウスは、以前は穏健派であったことを見ても、勝ち的な人物であることが当時明らかにされた[3]。しかし、聖書に従ってイエスの「日」は、ネロがキリスト教徒を激しく迫害したことや、ネロの直後にエルサレムが破壊されたことなどから、ネロと同一視されることが多くなりました[4-6]。ティベリウスに関する過去の1時間の啓示は、聖書からの継続的な啓示に調和しています[7,8]。

[1]ヨハネ2:22
[2]Paragraph 10-2, above)
[3]ダニエル 2:40)
[4]Paragraph 7-3a, above)
[5]The Reign of Antichrist (1974), quoting various work: p. 4 (Pratt (1927)), p. 8 (attr. LeFrois (1935)), p. 113 (attr. Lactantius d. 310), p. 115 (attr. Sulpicius Severus (366)), p. 136 (attr. John of the Cleft Rock (1340)), pp. 202, 203 (attr. Bonaventure (1221))
[6]The Apocalypse of St. John (1921), [page numbers lacking], by E. Sylvester Berry)
[7]ガラテヤ 1:9-2)
[8]ヨハネ 4:19)



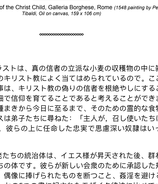
Above: The Alba Madonna, National Gallery of Art, Washington *(1511 painting by Sanzio Raffaello, Oil on canvas, diameter 98 cm)*

10c ベリー氏[Mr. Berry]は**The Apocalypse of St. John**の中で次のように書いています:[1]

ネロは主要な反キリスト教徒の一人と考えられてきた。
(The Apocalypse of St. John (1921), [page numbers lacking], by E. Sylvester Berry)[1]

使徒ヨハネは、第1巻1章4節と18節と第2巻1ハネ2節で、彼が「反キリスト」と呼んでいる人を輪郭者たちに宛てて書いています。この2つの節では、ヨハネが書いた当時、すでに人を惑ま者が大勢や反キリストがいたと述べています。使徒パウロが書いたテサロニケ人への手紙の「不法の者」は エホバに反対しているので、「反キリスト」でもあります が、それはイエス・キリストがエホバと共に来るからです[1] [2] しかし、「不法の者」は 背教に由来しており、つまり、複合的な「人」としては異種の中にいました。これが、彼が一般的には キリスト教である理由です。

[1]The Apocalypse of St. John (1921), [page numbers lacking], by E. Sylvester Berry)
[2]God's Kingdom of a Thousand Years Has Approached (1973), p. 371, the Watchtower Bible and Tract Society)



Above: Flemish Nativity, Museum Mayer van den Bergh, Antwerp *(c. 1400 painting by unknown master, Tempera on wood, 33 x 21 cm)*

10c 不法の者が存在する 聖書には複数の成就がある傾向があり、キリスト教は今日、偽りの教えを持っており、それらのものに、「不法の者」に関するこの預言が長い期間にわたって適用されることは疑の余地がない。一人の人間の寿命は、イエスが地上を歩いていた時間よりも短いので、「その人」は複合的な人間です。「不法の者が存在するようになる」とは、パウロとテサロニケ人の中で言っていたように、**サタンの力によって、あらゆる強力な行い、偽りの奇跡、不思議なことを見せる。**今日、キリスト教の聖職者は、地獄の火、抽象主義、三位一体、司祭の称号（Reverend、Father と呼ばれる）など、聖書にない教義に固執しています。パウロが言うように、エホバの日が来る前に、これらの者は「明らかにされた」されなければならないです。その前に「預言の働きをする者も「除去され」なければなりません[1]。エホバの日、パウロの日、エホバの日がすでに来ているのように「すぐに都臨」ことがないように、仲間のクリスチャンに助言しています[2]。パウロの時代に、キリスト教の「不法の者」が明らかになるのを妨ぐ「抑制」の働きをしていたのは、イエスの生き使徒たちの保てたち、忠実な使徒たちを通して、イエスは偽りの礼拝の炎後を防ぎ抑制の変ったっていることです。

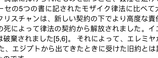
[1]テサロニケ書二2:7)
[2]Paragraph 10-1, above)

Above: Adoration of the Christ Child, Galleria Borghese, Rome *(1548 painting by Pellegrino Tibaldi, Oil on canvas, 159 x 106 cm)*

10c イエスが生きている間、彼は真の教えを もって、確かに偽りの教えを強力に抑制していました。イエスは、いのちに至る道は狭く、滅びに至る道は広いと教えました[1]。これは、人生の選択を目指し、最選することを奨励するものです。人生の選択を目指しているクリスチャンは、人生でつながる道を選び、その道を精力的に追求することを意味します。このことは、主イエスの山上の説教で、「求め続けなさい、そうすれば与えられます…たたき続けなさい。そうすれば開かれます。即ち絶対に判断しないで、神に求めなさい。そうすれば与えられます。」という約束に、強調されています。「求めなさい」とは、自分の目的からわらを取り除かせてください と言えるのですが、見ないと、自分の目中には材木があるのです[3]。」彼が群衆を教えている間、群衆は、彼が権威ある者として語っていたので、聞いた[4]。この説教の結べ記録は、ルカ6:20に書かれています。

10c この説教の両方の記録はこのあとセクションで一つは、用が陣つ ちを上台が流されないように、砂ではなく岩盤の上に家を建てることである[5,6]。重的な見解は、キリスト自身が、信者が信仰を築くために土台または岩盤である[7]。このように、他の多くの所示によって、イエスは指示を与え、また、キリスト教の無法状態は、イエスが教えた、人の良い心裏種の中に敵が雑草を蒔き、芽が出たときに敵が雑草を抜いたことがわかったという例えで理解できる。しかし、それを知らされた家主が使用人に求めたのは、収穫まで両者を一緒に成長させ、その結果、以前の雑草によって上質の小麦が損なわれないように、両者を分離して雑草を取り除くことだった[10]。

[1]マタイ7:13,14)
[2]マタイ7:7,8)
[3]マタイ7:4,5)
[4]マタイ7:28,29)
[5]ルカ 6:48-49)
[6]使徒2:1-8)
[7]ルカ 6:46-47)
[8]マタイ 13:34)
[9]マタイ4:24)
[10]マタイ 13:24-30)



Above: Adoration of the Christ Child, Galleria Borghese, Rome *(1548 painting by Pellegrino Tibaldi, Oil on canvas, 159 x 106 cm)*

10c 小麦と雑草のイラストは、真の信者の立派な小麦の収穫地の中に雑草を蒔く「不法の者」としての キリスト教に公然ではっきりと示されています。ここから私たちクリスチャンの仕事は、キリスト教の偽りの信者を根絶やしにすることではなく、収穫までの間、種で信仰を育てることであると考えることができます。忠実で健み深い奴隷は、種まかから今日に至るまで、そのたの聞のな教会を提供しているのです。イエスは弟子たちに言われた： 「主人が、召し使いたちに湯切り時に食物を与えるため、彼らの上に任命した忠実で思慮深い奴隷はいったい誰でしょうか[1]。」

10c エルサレムの長老たちの統治体は、イエスの様子が昇天された後、群れを養っていたクリスチャンたちの体です。彼らが新しい会員のために承認した規則は、直接的な設定されたもの、信仰のために与えられたものを表現つこと、長深を避けることでした[3,4]。これは、モーセ の5つの書に記されたモザイク律法に比べて大幅に削減された規則でした。クリスチャンは、新しい契約の下では、高度な責任を任されていますが、イエスの模範によって律法の契約から脱放されました。イエス様が死なれたことで、旧約は破棄されました[5,6]。それによって、エレミヤがエレミヤ31章31節で預言した、エゲプトから出てきたときに受けた旧約とは異なる「新

[19] [20] [21] [22] [23] [24] [25] [26] [27] [28] [29] [30] [31] [32] [33] [34] [35] [36] [37] [38] [39] [40] [41] [42] [43] [44] [45] [46] [47] [48] [49] [50] [51] [52] [53] [54] [55] [56] [57] [58] [59]

[1]が「メディア」(4:45)
[2]ルカ 12:42)
[3]使徒 19:28,29)
[4]使徒 21:25)
[5]ヘブライ 10:10)
[6]ローマ 10:4)

10: モーセを通して与えられた律法の契約は、すべての規則を守ることは不可能であり、呪いのようなものでした[1]。唯一の解決策は、律法を成就する完全な人間を用意し、殺されて律法を廃止することでしたが、それでは他の国が入ってきて、滅ぼされてしまいます[2]。新しい契約では、ユダヤ人の国家を必要としませんでした[3,4]。イエスは、アブムとすべての人間の身代わりにもなったのです[5]。イエスは新しい契約を管理するために永遠に生きており、もはや犠牲を捧げる必要はない[6]。これは、イエスの身代わりの犠牲が、「一度で永遠」の死によって、すべての罪のために完全に支払われたからである[7-10]。罪からの真の自由は、イエスを信じることによって得られる[11]。罪のための供え物は、アダムの罪の支払いに必要な一度だけ行われたのです。彼自身がこれから引き出す多くの栄光とイエスは、罪から自由であり続ける条件である特別な身分を持っている。このことは、信者にとってこの上ない喜びです。キリストへの信仰は、罪からの栄光あふれる自由をもたらします[12]。これは、エホバの目が到来する前でも、地上に深刻な腐敗が存在するときでも同様です。このイエスへの信仰は、信者を財政上忌たくの支えとなります[13]。新約は、このエホバの目がいっぱいとも祝福です。

[1]ガラテア 3:10)
[2]エファシズス 2:15,16)
[3]使徒22 22:18)
[4]ガラテア 3:8)
[5]ルカ 3:17)
[6]ヘブライ 10:12; 7:25-27)
[7]ヘブライ 2:27)
[8]ペテロ第一 3:18)
[9]ローマ 6:10)
[10]ヘブライ 9:28)
[11]ルカ 8:36)
[12]ローマ 8:21)
[13]コリント第二 12:10)

Above: The Expulsion of Hagar and Ishmael, Private Collection *(1638 painting by Abraham Bloemaert, Oil on canvas, 150 x 184 cm)*

10: 世界中の異なる信仰と比較して、キリスト教内の信徒数に関する新しい契約の成功に基づいて、イエスが神によって提供されたメシアではないと主張することは、どれほど不合理なことでしょうか。残念ながら、そのような信徒の大部分は、上智な小更ではなく、愚民したちの群れです。なぜなら、彼らが教えていることは、聖書と全く調和しておらず、聖なる言葉の正しい理解に欠けており、悪い実を結んでいるからです。聖職者と大企業との関わりはその一例で、他にも重要ではないものが多くあります。事実産業は以前から最大のビジネスであり、聖職者がどのように人々を教祭に駆り立ててきたかを私たちは知っています。もう一つの目ぼしいビジネスは麻薬であり、西欧諸国の社会は明らかに麻薬の支配下にあります。製薬会社は、いたるところで広告を出し、人々に薬は異いものだと思わせようとしています。実際には、これらは不自然な毒である限り、いつかる病気を治さない危険な物質である。このような偽情報の提案者は、自分の知性が人間の生物よりも優れていると信じていることは明らかである。この傲慢さが、彼らに人間を改善できると信じさせているのです。

Above: St. John Preaching in the Wilderness, Private collection *(c. 1600 painting by Jan Brueghel The Elder, Oil on copper, 26 x 35 cm)*

10: 1914年以来、エホバの民は、今が異のキリスト教徒の収穫の時であると信じてきました。このため、エホバの王国の良い知らせを信徒に基づいて真心伝える世界的な活動が行われています。何百万人もの忠実な者たちがエホバによって教えられています。彼らは、イエスが地上での宣教を開始したときに行ったように、水のバプテスマによって その献身を象徴しています。イエスに信者と説教者がいたように、今日、真のクリスチャンは邪悪な者たちから迫害を受けています。そのような迫害は、聖職者から受けることが多いです。人生を前向きに変えようと学んでいる人は、他人の目から見た文化的価値観に圧力をかけます。彼らは先祖の伝統から離れることを恐れたり、頑固であったりするため、忠実な人を妨害させると圧力をかけます。イエスの真の教えの立派な手本は、多くの人に非常に望ましいものとして評価されてやまう。誠実は、それがたとえ少多くの「立派な家」の一つに過ぎません。クリスチャンの従業員が唯々つつましく仕向けられないは事実ですが、雇用者はしばしばこの性質を評価します。正直なる本物クリスチャンにふる召喜は起きがいます。

Above: St. John the Baptist, Galleria Borghese, Rome *(1610 painting by Caravaggio, Oil on canvas, 159 x 124 cm)*

10:[1] 謙虚な人々は、創造物はエホバのものであり、を認識しています。エホバの知恵によって人間が考案するものよりも優れていると、人間にできる最善のことは、エホバ神の強大な腕手の下に自分を従わせ、すべての真の教えにできるだけ調和する方法を学ぼうとすることです。人間は人間の体を作ったわけではないのです、それを改善することはできません。しかし、体に何かが欠けていたり、毒素を大量に摂取していたりする場合には、祈りや勉強を通して神の助けを得ようと健康を改善することができます。祈りは食生活の調整を助ける。何を調整すべきかを学ぶためには、謙虚さが必要である。気を配っていれば、体はその要求を伝えてくる。気を配ることは、毎日規則正しく行わなければならない。人は、自分の体を正しくもとに戻すことができます。だからこそ、自分を知ることはとても大切なことなのです。全く同じ体はありません。ですから、勉強するだけでなく、自分の体を使って実験することも必要です。人間の生物の複雑さは非常に微妙で、自分の生物を自分以上に研究する人がいないことを保証すると同時に、様々な問題を抱えていることを意味します。そのため、早く勉強を始めた方がいいのです。

Above: Samson Captured by the Philistines, Metropolitan Museum, New York *(1619 painting by Guercino (Giovanni Francesco Barbieri))*

10:[1] 私たちの体は正常な状態によって、心も霊的な食べ物を使って手直されています。この2つの財産地を追求することは、当然のことながら、量よりも質が重要です。栄養素では、体に必要なビタミンやミネラル（および元素）、良質の土壌で育った有機食品、毒素を出さないことなどが考えられます。面的な問題では、神の言葉を考えます。雲間を愛けた鷲鳥に鳥を食べ物は多いよりません。不自然で健康に良くない食べ物を食べる人は、神の聖典以外のものから指導を受けるキリスト教徒の「不法の者」と同様に、破滅への大きな道を歩むことになります。最終的には、肉体的または永遠の死を意味します。肉体的な食べ物は、一般的に死の問題に対する解決策を生み出していませんが、聖書は永遠に続く種類の豊的な食べ物を提供しています。

10:[2] イエスが復活してから何世紀もの間、キリスト教の聖職者たちは聖書をアクセスできないようにし、信徒者たちが知っている古代言語での決定版にしていた。その結果、一般の人々は精神的な種を得ることができませんでした。トロイア戦争から紀元前668年に始まっていたので、ヴォーリーのアエネイドと言葉にする「（アエネアスを）放浪者として扉ん だ7回目の愛」は、そこから紀元前881年頃にさかのぼり、その年にディドがこの言葉を語ったとされています。これは1521年に出版改革の^{ル}^{ター}^{ド}^{ド}$^{ド

"イエス様に従う者たちからフリードリヒ世の治世が始まる前までの期間は1421年、49×29年となり、7の2つの神聖さを持つ数字となります（7×7＝49）。ルー氏の新約聖書版（版 西暦1522年）をプロテスタント宗教改革の始まりとすると、フレデリックが戴冠してから7×10＝70年、西暦1522年は紀元前6年10月から1522年でも数り（7×10）、西暦1522年は紀元前6年10月（今体験）となる。ソロモン神殿の完成（紀元前1007年）（ソロモン11年の第8月、彼の11年目を紀元前1017年とする）からイエスの誕生（前6年）まで1003＝143×7年が経過しています。また、ソロモン神殿（紀元前1007年11月）からもルーター（西暦1522年9月）まで2527＝7×19×19年が経過していることになる。ソロモン神殿が完成した紀元前1006年の新年の始まりから、キリスト分誕生した紀元前6年までの1000年は、黙示録第20章に記されている「1000年（の審判）」の典型的な表現と思われ、人類が堕落した時の審判の型を意味し、その後、サタンと不信心者が裁かれることになります。つまり、イエスが人類の罪のために生まれて死ぬという型は、後の時代に予定されている定められていたものであり、人類の救いの型になっているということです。

[1] ちなみに、紀元前1007年の後半から、信ずリアがイエスを受胎するまでは、1000年である。

Above: St. John the Baptist in the Wilderness, Museo Lazaro Galdiano, Madrid *(painting by Hieronymous Bosch, Oil on panel: 48 x 40 cm)*

ルーター西暦1522年の新約聖書版

ルーター西暦1522年版の表紙

ルーター西暦1522年版の表紙

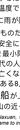
ルーター西暦1522年版の表紙

[20] アダムからアブルハッシュまでの1-12世代は、それぞれ1年間の保証を立法学者達が定めました。ラウス氏の2268年以降を定めました。次のように定めます。2268 + 6 = 2268年、アブルハッシュ氏誕生

Above: Construction of the Tower of Babel, Villa Comaro, Piombino Dese, Italy *(1717-1718 painting by Mattia Bortolon, Fresco)*

10 エジプト古王国の紀元前2686年の開始時期を改善できない場合、トトの1年目を計算します。トトが27年間支配していたので、2686 + 27 = 紀元前2713年となります。ユセビウスではメスラ560世紀を記しています。メネスの1年目は1ハコ + 60 = 紀元前2773年となり、私たちが発見したソティス周期の開始時期に近い数字となります。古王国が紀元前2686年に始まったと考えられる理由は、旧年代記の2365年を基し引いても、エジプト以前のシナルのニムロド王でありネスリムの1年目からでは、紀元前2713年のトトの1年目から始めると、2713 - 2365 = 紀元前348年のネクタネボ治世となり、旧年代記に記載されているアレキサンダーがエジプトを支配する約15年前となり、見事に一致しています。ちなみに、アレキサンダーがエジプトを支配したのは紀元前332年頃です。

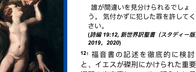
11 エジプト王の始まりであるトトは、ニムロドの1年目をサルゴン1年目と計算するには、オールド・クロニクルの「ソティス周期の世代」の443年を使って、1 + 1年がトトの最初の年となり、12年を加えると（ジャックソン氏の327ページによると）、2713 - 443 + 12 = 紀元前2282年、サルゴン1世1年。以上です。キタグ・アル・マガルによると、ニムロドは669年間支配した後に死んだとされています。BGでは、せんの民が紀元前2780年であることから、ニムロドの死は紀元前2711年となり、トトの紀元前2713年に遡ると、どちらも見事な形で紀元前に使用した紀元前2716年の日付に近いものとなります[1]。シナル王国中エジプト王国の初期に当たるこの時期については、さまざまな確率の高い解答があります[2]。パベルの塔での散らしたまれは紀元前2745年とする、2745 - 2686 = 59年となり、エトラステスがエジプトのパテーペ（ペーペ）の紀元王アテーテ2人[Athothes]に与えた年数（第1代メネス、62年）とぴったり一致します各[3,4]。



[1] もちろの何は、アブラハムから数って世代ニタ年ずつの家系を数えて得られる。）
[2] *Wild Road Ahead To History (2016), Chapter 8 paragraph 12, by Ward Green*
[3] *Manetho, with an English translation (1940), Appendix II, p. 315, by W. G. Waddell*
[4] *Wild Road Ahead To History (2016), Chapter 9 paragraph 1, by Ward Green*

Above: Djoser, Third Dynasty Egypt *(c. 2686 Old Kingdom, limestone)*

12 洪水以前の時代は、私たちが想像する以上に高度な技術が発達していたため、ノアは洪水の直後に再現された技術をもとに最高なリベット用の金属を使ってBGを完成させ、箱船を作ることができたのです。その技術が失われた理由は、明らかに紀元前そのものであり、それを加工するための精錬工場に起因します。ノアとその息子たちは、鉄よりはるかに低い温度で可能な青銅の加工方法を発見しました。箱船に使われた木材は、地球上に所得し、季節ごとの気温の変化で現在のような木の年輪ができる前に育ったものだった。箱船の設計には、船の中央部に波が作用して船が浮き上がり、安全に波を受け止める場所がなければ真っ二つになってしまうような工夫を最小限に抑えるために、「取水口ベーズ[moon pool]」が設けられていた。古代の人々は原始的ではなく、非常に高度な技術を持っていましたが、多くの人がこなくなることで失われてしまいました。ノアとその息子たち、そしてその妻である人の忠実な人間だけが生き残り、8人の村を作った。この近くには、箱船が上陸する前に投棄されたアンコールーンが、近くの洞窟の中に数多く発見されています。



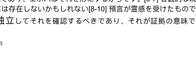
[1] *Fourteen anchorstones were found between Kazan and Hasuan, which are respectively the place where Noah began to cut the anchorstones loose and the place they came to inhabit, near where the Ark landed.*

---

11 もも洪水が紀元前3282年に起こらなかったら、アダムとノアの日付は、紀元前5550年にアダムが創造されたあと、第6千年紀にメシアが誕生するまでの正確な時間に来なかったでしょう。これが私たちの祝福された年表であり、エホバを賛美します。アダムから洪水まで2268年、その後、紀元前1014年のソロモン王の神殿まで2268年ということになります。2268という数字は、36×63、つまり6.3×360になります。これは、円のラジアン数（約6.3）に円の度数（360）を掛けたものです。6.3を円周率（3.14）で割ると2.0になります。ノアが「いつ」生まれたのかを知ることは、自分自身から1年ずつ引いていくことで、ノアの誕生日を知ることができます。ノアの誕生日は、「黄金比」のことで、自分自身から1年ずつ引いた数の逆数のことで、おおよそファイの1.6180340之ないます。前述の別の方法で得られたファイの値（6.3 / (2 x pi)）× 360 = 1.6172499。この値は、ルイ・ラミーの表示と酷辺の比率と観測されたファイの値とは、10パーツパーミリオン[16ppm]の差があります[1]。

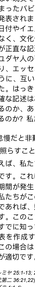
> **彼らは神の奴隷モーセの歌と子羊の歌を歌っていた。「全能の神よれ、あなたは大きく驚くべき事を行なった。永遠の王よ、あなたの道は正しく、真実です。**
> **（*使徒 15:3, 新世界訳聖書（スタディー版）2019*、*2020, Watch Tower Bible and Tract Society of Pennsylvania*）[1]**

第11章結束：改革的結年表における歴史



Above: The Holy Night (The Nativity), Gemäldegalerie, Dresden *(1650s painting by Carlo Maratti; Oil on canvas, 99 x 75 cm)*

第12章： エッセネ派を考える



Above: Holy Family, Stations Museum for Kunst, Copenhagen *(1618-1620 painting by Guido Cesare Pinzacorsi, Oil on panel, 145 x 97 cm)*

Mistakes—who can discern? From concealed sins pronounce me innocent. *[Psalms 19:12, New World Translation (1984)]*

誰が間違いを見分けられるでしょう。気付かずに犯した罪を許してください。

（*詩編 19:12, 新世界訳聖書（スタディー版）2019, 2020*）

12・福音書の記述を徹底的に検討すると、イエスが研究にかけられた重要な一週間の出来事について、明らかに矛盾した状況が浮かび上がってきます。難題は、聖書だけが唯一の世界史を記録しているにすぎませんし、創世記1:14に見られるように、エホバは「自分の面で正確な年代を示すことを意図していません。しかし、心の広い忠実な人は、全能の神エホバ霊感による記述が天文学と常に一致することを期待するのは当然のことです。そうでなければ、天文学的問題になり、切実で本質的な問題を解決するのに役立つ。」[1]。私たちが無視しなければならない真実は、客観的な現実によって確認されなければ、予言は全くの未検たないことであり、天文学は最初の客観的な現実の一つです[2]。これは、予言が検証の中に年代に依存していると言っているのではありませんが、明らかに、論理的に世俗的な対応関係を持つ人間の関心事に関わっています。従来の通ってもいて、その特定の具体的に何年と言われていても、預言が実現することは信じ切れです。エホバにはすべてのことが可能であり、エホバはそれを形にするからです。[3-7] 客観的な現実がなければ、預言は存在しないかもしれないし[8-10] 預言の聖書は受けたものである場合、証拠が独立してそれを確認するべきであり、それが証拠の意味である[11,12]。

[1] *コリント第一 2:16*
[2] *創世記 1:14,15*
[3] *マタイ 19:26*
[4] *マルコ 10:27*
[5] *ペテロ第二 1:21*
[6] *列王第二 19:25*
[7] *イザヤ 37:26*
[8] *イザヤ 55:11*
[9] *ヨシュア 21:45*
[10] *イザヤ 45:23*
[11] *ヨハネ 3:33,35*
[12] *ガラテア 3:10*

12・その年表を勉強していない人が、歴史上の特定の年に言及することは、まともに受け取れません。ネブカドネザルの1年目は紀元前604年であり、これは固定されている現実です。パビロンで成就すると預言されていた70年は、紀元前604年に始まったパビロンの世界支配と関係があり、キュロスの紀元前538年に成就したと発表されました[1-3]。これらの日付は、すでに正で読んだように、ソロモンの日付やイエスの日付と関連しています。ここ、聖書は歴史と一致しているだけでなく、文化や習慣にも一致しています。少なくも、忠実な人は、文化的な現実が正直な記述の中に現れていることを期待するのが正当です。福音書の作者は、はっきり言って、福音書にはエッセネ派について、コメントできるような関係は記述はありません。このことは、イエスがエッセネ派であったことを意味するのか、あるいはイエスがエッセネ派と信仰の一部を共有していたことを意味するのか？ 私たちは疑問に思うかもしれません。

12・忠実だと非難されるかもしれませんが、ここでは、私たちのテーマである祭形を照らすことのない、これらの宗派関係の違いは無視するべきです。もっと具体的に言えば、私たちが興味を持っているのは、「キリストの聖殿」と複雑の2つの関係です。これは、受難が連続的長さであることを意識しているのではなく、この順序が発生した道筋、研究の年を一意に正確に特定することができるからです。ここでこのことについては、すでに十分に検討したので、私は自分が信じる答えをすでに知っており、ただ「喜ばれると正確真実の言葉」[4]。世俗的な歴史から発表を作成することを二次聖書の勉強を求めるように、ユダヤ教の宗派の詳細、この場合は「過ぎ越し」の詳細を読み解くときには、ユダヤ人の洞察を求めるのが通例です。

[1] *ユレミヤ 25:1-13, 27:1-8, 29:1-13*
[2] *歴代第二 36:21,22*
[3] *エズラ 1:1-4*
[4] *伝道の書 12:10*

Above: Christ at the Sea of Galilee *(Painting by Jacopo Tintoretto)*

12・ヨハネ上の文献を徹底的に調査した結果、様々な意見があり、その中から非常に選択的に結果を導き出せなければなりませんでした[1-3]。非常に少ない資料から導き出されたは、これらの宗派がそれぞれ異なる過去越し祭を行っていたという結果です。ユダヤ人の結果を考慮に入れるべきであり、ユダヤ人の結果は、聖書が提示するものと矛盾しているものであり、これらのいくつかの資料は異真である考えられます。最も重要なことは、聖書の要請を満たすものとして保存されていることです[4]。これこそが、聖書を理解するには多くの課題があるものもあれば、説明のシンプルさには説得力があるかもしれません。西暦30年、私たちのLe-Ap プリの各部分の日付はリウス暦3月23日で、年前0時から5時間後でしたが、Solex 12.0では、3月23日の年前0時から30分以内という結果が出ています。そしてEquation of Time のJohnson 03-28 3月23日、しかし、ソレックスの12.0は、全天球的な数分は、西暦25-36年では、3月23日の年前0時から約17分後である。この数字は現地時間（エルサレム）でのものです。このお詳はあまり正確ではないと思われるのです。3月22日という日付も同じように考えられるかもしれません。

12・また、春分の日が新月と重なったり前にニッサンの月が始まったのか、第1現認性と重なった時に始まったのか、その判断のルールはどうなっていたのかはわかりません。西暦30年には、3月22日の月の新月が春分の日に近かったという特徴があります。西暦30年の月の第1現程（Gautschivcas）は3月24日で、新月の2日後です。この年のニッサン月が3月に始まったことを保証しているとは限りません。ここでは、なぜ現認が重要なのかを考えてみましょう。現時点の結果は、ユダヤ人の考えに基づいているように思われるのもしれません。しかし、エホバはすべてのことをご存知であり、聖書は、ユダヤ人の考えに基づいていることを保証しています。今のところ、西暦30年には十分な証拠があります。私は、これらのことは後になって明らかになると信じています。

[1] *同書 15:22*
[2] *同書 11:14*
[3] *同書 24:6*
[4] *マタイ 24:34*

[1] *NASA は、西暦30年から36年までの春分の日を3月20日としています。春分の日を計算するのは簡単ではありませんが、なぜなのか？ その時間、つまり日付は、正確には知られていない地球の自転の減速に依存するからです。しかし、何度かこの年のイベントのためにエクセルのスプレッドシートを作成しました。日食の場合に使ったものです。これは、ソレックスの結果と考えられるが、デルタ T の正しくない日付は一致しません。（デルタ T は減速の指定値です）。）*

12・西暦30年の3月24日をニッサン1日とすると、3月31日はニッサン8日で、ニサン13日はその5日後の4月5日(水)だった。モザイク法とサドカイ派では、過ぎ越しのタイミングは、ソレックスの結果と一致しない。過ぎ越しの日はニッサン14日で、西暦30年では4月6日（木）だったことがわかります。ファリサイ派の人は、過ぎ越し祭を二三日一三日（金曜日）から始めたので、四月五日より1日遅くなります。このずれは、あるエホバの日付の次の日の始まりを意味します。ファリサイ派は安心の時間を使い、サドカイ派は完全な暗闇や夕暮れを一日の終わりとしたため、この2つのタイプ間ろ概念に次のような1日の違いが生じました。ファリサイ

イ派の人々は、太陽が完全に消えた瞬間を一日の終わり（「第二の夕べ」とも呼ばれる）とし、太陽が初めて地平線に触れた時を「第一の夕べ」としたので、彼らにとって「二つの夕べの間」の意味は一日の終わりであった。一方、サドカイ派は聖書に基づいていたので、「第1の夕べ」を日没と見なして一日の終わりとし、「第2の夕べ」を夕暮れ（すでに翌日の一部）と見なしていたので、サドカイ派にとっての「2つの夕べの間」は一日の始まりでした。つまり、「2つの夕べの間のニサン14日」は、ファリサイ派ではニサン14日の終わり、サドカイ派ではニサン14日の始まりとなり、1日違いとなったのです。過ぎ越しの祭りはどちらの宗派にとっても聖なる日であり、過ぎ越しの祭りは宗派によってニサン14日またはニサン15日に行われました。

ºººººººººººººººººººº

12[5] エルサレムの神殿で司会をしていたユダヤ人にとっては、4月6日（木）と4月7日（金）の2回、連続した過ぎ越しの日がありました（西暦30年）。過ぎ越しの祭りは、ユダヤ人にとって聖なる日であり、祭りの日、あるいは特別な「安息日」として大切にされていた。レビ記23:11にあるように、「安息日の翌日」に与えられる「束の献げ物」も特別な日であった。ファリサイ派の人々は「安息日の翌日」をどの曜日であっても「過ぎ越し祭の翌日」と考えていましたが、サドカイ派の人々は「安息日の翌日」を「週の安息日の翌日」、つまり過ぎ越し祭の次の日曜日と考えていました。サドカイ派によれば、「束の献げ物」は土曜日にはできないことになりますが、ファリサイ派の人々は過ぎ越し祭が金曜日に行われた年には、翌日か土曜日に「束の献げ物」を捧げて、印象的なショーを行ったことが記録されています。聖書には、イエスが死んだ磔刑の翌日は「大安息日」であったと書かれていますが、これをある解説者は一方的に解釈し、他の解説者は別の解釈をしています（過ぎ越し祭の後に週に一度の安息日がある、あるいはその両方が同じ日にある）。しかし、西暦30年には、4月6日木曜日がサドカイ派の過ぎ越しの日であり（ニサン一日が正しいとすると）、その翌日の4月7日金曜日がパリサイ派の過ぎ越しの日、そして3日目の4月8日土曜日が両派の週休日となっており、西暦30年には明らかに3つの連続した「安息日」があったことになります。

ºººººººººººººººººººº

Above: Virgin of Humility, Fondazione Magnani Rocca, Mamiano di Traversetolo *(1435-1440 painting by Pietro Di Giovanni D'Ambrogio, Tempera on panel)*

12[6a] イエスの復活後の日曜日の朝、弟子たちは復活したイエスを（墓の近くで）発見した[1-4]。マタイ28:1で言及されている安息日は、指定されている「週の初めの日」（日曜日）の前日である。その日曜日は、磔刑にかけられた一週間のうち、福音書の記述で提供されている唯一の曜日です。もし私たちが西暦30年という正しい年の中で見ているのであれば、知られている事実のどれにも矛盾がないはずです[5]。そのような事実の一つは、ヨハネ19:14が磔刑の日を過ぎ越し祭の準備の日としていることで、イエスが前夜に12人の使徒たちと一緒に過ぎ越し祭を食べたことと一見矛盾しているように見えますが、これは発生した年に依存するものではなく、聖書に基づいています。一つの説明は、上で見たように、異なる宗派の過ぎ越し祭は異なる日に祝われていたということです[6-11]。マルコは磔刑を「安息日」の前日としていますが、すでに上で見たように、過ぎ越し祭は「安息日」です[12]。

12[6b] ルカ23:54-56によると、イエスの弟子たちは、磔刑にかけられたその日に香辛料を用意することができたので、先の過ぎ越し祭だけを祝ったことがわかります[13]。しかし、もしイエスが磔刑にかけられる前の夜に本当に過ぎ越し祭を祝っていたのであれば、磔刑にかけられた日は同じ日であり、ユダヤ教の一日の夕方が次の一日の始まりとなるため、過ぎ越し祭の日となります。ですから、弟子たちはスパイスの準備をしていなかったはずです。これは明らかに深刻な問題です。なぜなら、過ぎ越し祭という行事では、この香辛料を用意する作業が禁止されており、弟子たちは香辛料を用意したので、イエスは前夜に過ぎ越し祭を食べなかったことになります（それでも食べたのですが）。ヨハネ19:31は、磔刑にかけられた翌日が単に週に一度の安息日ではなかったことを示しています（ヨハネ19:14、42も）。

[1](*マタイ 28:1*)
[2](*マルコ 16:2,9*)
[3](*ルカ 24:1*)
[4](*ルカ 20:1*)
[5](*アモス 5:15*)
[6](*ルカ 19:14*)
[7](*ルカ 18:28*)
[8](*ルカ 22:15*)
[9](*マルコ 14:14,18*)
[10](*マタイ 26:17,20*)
[11](*cf. ルカ 13:1,2*)
[12](*マルコ 15:42*)
[13](*安息日や過ぎ越し祭などの祭日には、多くの労働が禁じられていましたが、後者は「高安息日」または「大安息日」と呼ばれていました。*)

ºººººººººººººººººººº

12[7a] 実際、ヨハネの福音書19章14節を見ると、磔刑にかけられた翌日は過ぎ越し祭の日で、ユダヤ人たちは準備をしていました。もし、磔刑の翌日がファリサイ派の過ぎ越しの日だったとすれば、それはニサン15日となり、結果的に磔刑の日はニサン14日となりますが、西暦30年当時は木曜日で、サドカイ派の過ぎ越しの日でした。多くの人は、ニサン14日の木曜日を磔刑の日としています。問題は、イエス様が磔刑にかけられる前夜に弟子たちと一緒に過ぎ越し祭を祝われたことです。この見解では、弟子たちは二日目の15日に働くことが許されましたが、ルカ23:54-56とは一致しません。

12[7b] 磔刑の翌日が何らかの過ぎ越し祭でなければなりませんでした。[1]もし、磔刑の翌日がサドカイ派の過ぎ越し祭であったとすれば、西暦30年には木曜日だったので、磔刑自体はニサン十三日で水曜日であり、主の晩餐はニサン十二日の火曜日の終業後に始まったことになります。イエスの弟子たちは、水曜日ニサン13日の磔刑の後、木曜日に過ぎ越しを祝います。サドカイ派にとっての過ぎ越しは、ニサン一四日の木曜日で、これがイエスの弟子たちの過ぎ越しとなります。この場合、香辛料は水曜日に準備されます。主の晩餐は、ユリウス暦では4月4日の火曜日の夜に行われたことになります。これはうまくいきそうですが、少し説明が必要です。

[1](*ルカ 19:14*)

Above: Madonna and Child, Gemäldegalerie, Dresden, Germany *(c. 1670 painting by Bartolomo Esteban Murillo, Oil on canvas, 166 x 115 cm)*

ºººººººººººººººººººº

12[8a] 磔刑にされた日を決定する論理的な方法の一つは、ニサン17日（4月9日）の日曜日から逆算することです。イエスが墓の中で過ごした日数は、1日半、2日半、あるいはあまり多くはありませんが、3日3晩と表現されており、これはヨナやイエスが預言していたことです[1,2]。日曜の朝よりも3日早い木曜日、つまり水曜の午後は、死から復活まで丸3日（木曜から土曜まで）を過ごすことができます。ですから、水曜日の磔刑は予言によく合っています。

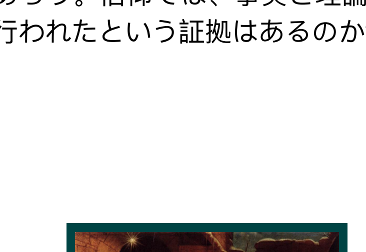
12[8b] イエスが墓の中で過ごした時間に関する予言が成就したことで得られる励ましは、理想的な水曜日の磔刑に対する私たちの信仰を高めるものです。福音書にはその週の月の曜日が明示されていないことを知っていれば、このことは補強されます。しかし、ニサン十三日の磔刑の意味を解釈する際に、いくつかの疑問が生じるのは当然のことかもしれません。なぜなら、もしイエスがその犠牲を二日目の14日、つまり過ぎ越しの夕べに捧げなかったとしたら、その犠牲が、罪のために捧げられた過ぎ越しの犠牲の代わりになるという目的を果たすことができるでしょうか? この質問に答えようとする前に、いくつかの支持的な視点を考慮することで、啓発されるかもしれません。

[1](*ヨナ 1:17*)
[2](*マタイ 12:40*)

ºººººººººººººººººººº

12[9a] 興味深いことに、福音書には、磔刑にかかる前のこのような重要な一連の出来事について、カレンダーの日付が記載されていません。もし、磔刑にかけられた週の一日でも、曜日とカレンダーの日付があれば、それが起こった年を正確に示すことができるはずです。これは、月の軌道が徐々に遅くなる以外に変化していないことを前提としています。地球上の観測者が見る月の位相は、コンピュータプログラムを使ってシミュレーションすることができ、歴史上の既知の日食を使ってタイミングを調整することができます。月の軌道が遅くなることを考慮しています。

12[9b] 福音書の記述に太陰暦の日付が含まれていない理由は、上で述べたような宗派間の問題を抱えた複雑な状況によるものかもしれません。それぞれの宗派の視点から物語を語ることの難しさが、特定の太陰暦の日付がない理由を説明するかもしれませんし、そうでないかもしれません。このことを念頭に置いて発見を進めていくことが賢明であろう。信仰では、事実と理論の整合性を求めます。西暦30年に水曜日に磔刑が行われたという証拠はあるのか?



Above: The Adoration of the Magi, Gemäldegalerie, Dresden, Germany *(c. 1530 painting by Master of AB Monogram, Oil on lime wood panel, 42 x 39 cm)*

ºººººººººººººººººººº

12[10a] エッセネ派を見てみると、非常に興味深いことがわかります。それは、エッセネ派のニサン1日は、毎年、春分の日にリセットされていたと考えられていることです。西暦30年の春分の日が3月23日だった場合の結果は、西暦30年になって初めて、天文学的な太陰暦よりも正確に1日早くなるように旧暦の日をずらすことができました、最も注目すべき性質を持っています。そのため、**旧暦のニサン14は木曜日ではなく水曜日となります。**西暦26年から35年までの他の年は、太陰暦のニサン14日は、エッセネのニサン14日に近くないか、それよりも前になっており、この範囲では4月4日か5日になります。このことは、イエスがエッセネ人であったことを意味するのではなく、イエスが西暦30年にエッセネ人と過ぎ越しの日を共有していたことを意味することに注意してください。西暦30年、4月5日（水）の磔刑の直前の主の晩餐は4月4日（火）の夕方で、エッセネ派の過ぎ越しは4月5日（水）ですから、4月6日（木）のサドカイ派の過ぎ越しの単純に1日前です。これは、磔刑が行われた西暦30年と一致しています。

12[10b] また、上述したように、磔刑の年を西暦30年とする説が多数を占めています[1]。

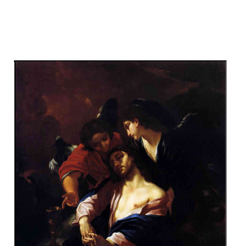
[1](*Paragraphs 7-5a, 7-5b, and 7-5c, above*)

ºººººººººººººººººººº

12[11a] エッセネ派がエルサレムに存在していたことが記録されているので、弟子たちが西暦30年にユダヤ教の過ぎ越しをより簡単に実行するのに役立っただろう。これにより、イエスが行った犠牲は、予言されたユダヤ教の過ぎ越しの日に行われた可能性がありました。まるで奇跡のように、西暦30年にこのような可能性があったことは、私たちの年代を確認する可能性を秘めています。つまり、この発見によって、西暦30年が磔刑の年であるという確信がより確かなものとなったのです。身代金である御子イエスの名において、エホバを称えよう!

12[11b] イエスの誕生日を紀元前6年とすることも、今回の発見によって同様に確認されたと考えることができます。また、西暦後26年に行われたバプテスマで、イエスは30歳になっています これらのことは、この記事の中で先に述べましたが、エッセネの過ぎ越しはそれを独立して確認しているようです。また、イエスはファリサイ派やサドカイ派の人々とは考え方に大きな違いがあり、聖書の中で何度も彼らを非難したり教えたりしていたことがわかっています。学者の間では、より純粋なユダヤ教を実践していたと考えられているエッセネ派と、彼がそのような違いを持っていたと考える理由はありません。このようにして、ケースはより強固なものになったと思われる。このようなことに少しでもお役に立てたことを、大変光栄に思います。

ºººººººººººººººººººº



Above: Christ in the Garden of Gethsemane, Pinacoteca, Vatican *(c. 1650 painting by Giacinto Brandi, Oil on canvas, 99 x 75 cm)*

12[12] ソロモンの神殿が完成してから1000年後にイエスがキリスト（ヘブライ語で「メシア」）として到着したことは、すべての信者にとって歴史上最も重要な出来事であり、私たちの利益のために多くの予言が成就することにつながりました。彼が到着した時期は、現在の歴史的伝統に加えて、天文学によってここに確立されています。イエスが地上での奉仕活動で果たした預言は、ここでは評価できないほどたくさんあります。これは、十分に説得力のある方法で書くことができる作家としての私の能力よりも、このような膨大な量の情報を吸収する人の能力に起因する現実です。また、時系列に沿った内容についても同様である。しかし、私は意図的にこの章を終えることにしました、それは、BG年表が真実と一致していることを、読者がはっきりと確信できるような形で示すためです。なぜなら、実際に真実でありながら、同じように信じられるからです。しかし、それは熱心な祈りなしには実現しなかったと信じています[1]。祈りと愛で支援してくれた皆さんに感謝します。

[1] *(引述自第 12.10)*

第12章結束: エッセネ派を考える

生まれて、求められて。
メシア

Historical Notes:

一部の画像は修復されている場合があります。

1N: ダリウスの第2年（紀元前520年、第1年は紀元前522/521年）が、エルサレムの町にエホバの怒りが向けられてから70年経ったなるのはなぜでしょうか[1]。520 + 70 = 紀元前590年であり、紀元前588年の町の包囲は紀元前587年に終わり、20ヶ月の期間がありました[2]。ここでは69年が包括的なものとなっています。588 - 520 + 1 = 69。したがって、ユダや国は外国の支配の目付き示す世俗的な年数があり、この間に基づいて、エルサレム包囲戦は紀元前590年（秋）から始まる最早内に開始されました。そのため、69年ではなく、70年という包括的な年数になります。つまり、ゼカリヤ書は、エルサレムが紀元前590年頃に何らかのトラブルに見舞われたことを裏付けています。この時期は、ネブカドネザルによるエルサレム包囲の期間が最も非常に厳しい。エルサレムが破壊されたのは紀元前587年であることが確認されました。

[1] *(ゼカリヤ 1.7,12)*
[2] *(列王記 25:1,2)*

1N: ダリウスの第6年（紀元前517年）、イスラエルはエルサレムに第2神殿（ソロモンの第1神殿）を完成させ、その破壊から70年の期間が成就しました[1,2]。

[1] *(エズラ 6:15)*
[2] *ゼカリヤ書は紀元前520年のことで、この記事に記されている通り、聖書と完全に一致しています。*

2N: ダニエル9:24-27の預言によれば、メシアという到着する予定だったのか、それは彼のパテテスマと死のどちらだったのか、彼の死だけが、彼がメシアであることを証明し、ユダヤ人に対する責任したが、エルサレムを回復・再建するために国家が発せられたのは、アルタクセルクセス第20年と一致すると考え入れたは、アルタクセルクセスの第1年を紀元前475～474年とすることが妥当です。結果、彼の第20年は紀元前455年となり、ダニエル書の69週は西暦30年に終わります（69×7＝483）。 ネヘミヤ記2:10 出来事がニサン15日以前に起こったと仮定すると、紀元前455年から西暦30年まで483年あることになります（その日付は、485年から年「0」を差し引いて、1を差し引くと483年になります）[1]。ダニエルのメシアの死は「頂の半ば」であり、この場合、西暦30年とは真なる復刊を必要としていると考えられるが、それはさほどいかねません。通常年数が、[2]が、すべての国のメシアが第4位者と一緒に新約に入れられた西暦33年でなければ、犠牲の終わりはイエス・キリストが磔刑につけられたニサン西暦30年であり、70週の予言の最後の週の終わりは、すべての他の国の人々が新約に入られた西暦33年に当たります[3]。

3N: 今回の記事（上では、歴史的・文化的な証拠に基づいて、**西暦30年がイエス・キリストが磔刑にかかった年**であるとみなします。それによって預言の成就を確認することを示しました。磔刑の年は、「予言と適応しています」ことはできず、むしろ予言を証明しようと言定したりする役割を果たします。

[1] *(Paragraphs 5-4 through 5-12, above)*
[2] *(Paragraphs 7-3a and 7-4b, above)*

4N: 国勢調査の年である**西暦6年**が、それ以前の年である紀元前0年と数字（「6」）が一致していることの問題点は、これらの出来事が起こったときに、これらの日付の間に何らかの相関関係があるのどうかについて、疑問に注意しなければならないことです。というのも、西暦1年始まると時点は、その出来事からかなりの世紀を経て決定された、完全に恣意的なものだからである[1,2]。

[1] *(Paragraphs 5-4 through 5-12, above)*
[2] *(Paragraphs 7-3a and 7-4b, above)*

5N: ファリサ派もヘロデ王が誕生した、過ぎ越しの日に人を処刑することはなかったと信じるに足る理由があります（マルコ14:2）と考えると、西暦30年のニサン14日とは、ヨハネ19:6-16（木）と7日（金）は除外されます。彼らは安息日や過ぎ越しに働くことは許されませんでした。しかし、この日は神聖な日であり、処刑のために日付ではありませんでした。

6N: また、ガリラヤ人は「最後の晩餐」と呼ばれる過ぎ越しの前日に食事をする習慣があったとする説も あります[1]。これは、イエスとその弟子たちが、通常、サドカイ派の人々と同じように過ぎ越しを食べる習慣があったことを示唆しており、エッセネ派の過ぎ越しがガリラヤ人が食べたものであると西暦30年にニサン15日から上の議論と一致します（4月4日（火）/ ニサン12日の終わり）。

[1] *(ミシュナー ペサヒム4:5に従うならば、「そして、ラビは言う、ユダヤでは、人々は過ぎ越しの前夜に真夜まで労働をし、ガリラヤでは、人々は過ぎ越しの前夜に労働をまで行わなかった。」)*

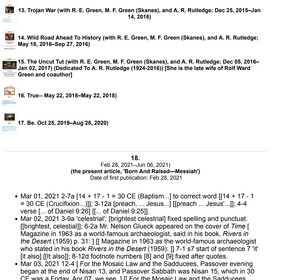
Table Supplemental:
Proposed Titles For This Article

(Feb 19, 2021 — Feb 27, 2021 (14))
Note 39 p. 244 — Note 39 p. 247

1.	Vindication
2.	Crucifixion
3.	Convergence
4.	Holding Pattern
5.	Convenience
6.	Preponderance
7.	Realization
8.	Determination
9.	Manifestation
10.	Qualification
11.	Reconciliation
12.	Outcome
25.	Glory
27.	Punctuality
29.	Foreordination
31.	Protection
33.	Collateral
35.	Path
37.	Exceptional
39.	Culmination
41.	Saviour
43.	Moment
45.	Precedent
47.	Born and Raised
48.	**Born And Raised —Messiah**
49.	Vigilance
50.	Dating Jesus
51.	Thirty
52.	Conviction
53.	Jesus
54.	Providence
55.	Prophecy
56.	Observation
57.	Perfection
58.	Proposition
59.	Resurrection
60.	Period
61.	Provision
62.	Reality
63.	Destiny
64.	Glory (2Co 3:11)
65.	Way
66.	Narrow Path
67.	Jesus is Lord
68.	Absolution
69.	Exultation
70.	Possibility
71.	Reality

RECENT ARTICLES

New in PDF Format (Web versions in REFERENCES: below)
The order of the articles written by Rolf Ward Green is:


Harold Hoskeed
Harold Hoskeed
Shylmiqua
Shylmiqua
Yeoh
Yeoh
Smith
Smith
Green
Green
Joseph
Joseph
Ou
Ou
Phoenix
Phoenix
Moses
Moses
John
John
Ou
Ou
Trojan War
Trojan War
Wild Road
Wild Road
Ou
Ou
Ou

Rolf Ward Green

Chapter 1: Astronomical Dating And True Earth
Chapter 2: Back-dating Yesterdays
Chapter 3: Tiberius, Herod, Astronomy, Testimony
Chapter 4: Daniel As Numerically Internal Endpoints Learned
Chapter 5: Principled Ramsay Offers Very Encouraging Story
Chapter 6: Roman Enrolments, Augustus, Luke
Chapter 7: Christians Handle Rome In Secure Testimony
Chapter 8: God Reprieves Abraham's Newborn To Everlasting Days
Chapter 9: Gentile Observed Dating Summarized
Chapter 10: Foretold A Violation Of Universal Righteousness
Chapter 11: The History In Reformative Total Years
Chapter 12: Considering Essenes

第1章：天文年代測定と真の地球
第2章：昨日のことを振り返る
第3章：ティベリウス、ヘロデ、天文学、証言
第4章：数値的に内部の端点として発見されたダニエル
第5章：公明正大なラムジーが勇気づけられる話をしてくれた
第6章：ローマ人定期的な登録、アウグストゥス、ルカ
第7章：確実な証しでローマを耐えるクリスチャンたち
第8章：神はアブラハムの新生児を永遠の日に救い出される
第9章：異邦人の観察された年代測定のまとめ
第10章：予告されていた普遍的な義への違反
第11章：改革的総年限における歴史
第12章：エッセネ派を考える